継続的な改善活動のために！

2020

在学生・卒業生・教職員

KIT総合アンケート調査結果
［報告書（抜粋）］

学校法人　金沢工業大学

KIT総合アンケート調査結果について

学長　大　澤　　敏

令和元年の大学進学率は54．7%に達し、大学教育のユニバーサル化が続いています。このような中で学生の考え方、気質も大きく変化しています。これに予測困難な社会情勢が加わり、社会から必要とされる大学を標榜する本学は、常に教育の質を分析し、不断の改革を行う必要があります。科学技術立国として世界の中で日本が発展するための理工系総合大学として存続し続けるためには、社会の変化に対応しながら、イノベーションを創出できる人材の育成が不可欠です。一方で、教育の質保証や卒業生や在学生の本学に対する満足度等に関しては、従来から不明な点が多いのが現状であります。新入生から卒業生までを網羅したKIT総合アンケート結果は、本学の教育の改善に対して多くの示唆を与えるものです。

金沢工業大学の教育目標は、「自ら考え行動する技術者の育成」です。学生は本学の教育システムの中で学び、基礎知識と技能を確実に身につけ、それを基に、思考力・判断力・表現力を養い、主体的に行動する人材として社会で活躍することになります。最も大切なことは、１日１５０科目以上開講される授業と課外活動の質、それに係わる教職員の行動であり、これが学生の成長にどのようにつながっているのかについて、学生・卒業生・教員・職員の区分で分析し、如何なる改善をなすべきかを知り、それを基にした教育改革を進める必要があります。

通常、この種のアンケートは自己点検・自己評価の下に行われる訳ですが、本学では第三者の調査・分析会社であるアイ・ポイントにアンケートの設計から調査結果の評価並びに分析に至るまでを依頼いたしましたので、より客観性のある報告書になり得たものと考えております。

本アンケートはこれからも継続して実施すると共に、今回得られた結果を踏まえて本学の教育へフィードバックしながら、卒業生・修了生・在学生の更なる満足度の向上に資することに致したく思っておりますので、忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いであります。

最後になりましたが、本アンケートにご協力いただきました関係各位に対しまして、心より感謝申し上げます。

目　次

※本報告書（抜粋）のページ番号は、報告書（全文）の目次に対応しているため、連動しておりません。

＜1＞	本調査の全体像	1
＜2＞	在学生、卒業・修了生の基本属性	9
＜3＞	在学中の目的・目標意識	15
＜4＞	大学に対する満足度	21
＜5＞	授業・学習支援の評価	33
＜6＞	課外活動に関して	53
＜7＞	勉強、課外活動に費やした時間に関して	59
＜8＞	大学院進学に関して	65
＜9＞	教職員と大学の改善取り組み状況の評価	73
＜10＞	KIT-IDEALSに関して	79
＜11＞	卒業時の能力	87
＜12＞	卒業・修了生アンケートの分析結果	93
＜13＞	新入生アンケートの分析結果	103
＜14＞	教職員アンケートの分析結果	135
＜15＞	全体のまとめ	149
＜16＞	調査票見本	159

＜1-1＞調査の目的と概略

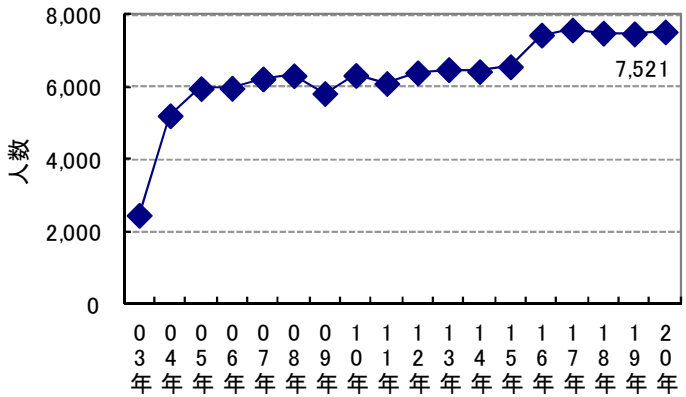
■調査目的

- 本調査は金沢工業大学（以下、KIT）を取り囲む関係者の中から、「在学生（新入生～卒業・修了直前）」「卒業・修了生」「教員」「職員」を対象として、KITに対する評価や満足度を聞き、過去の回答と比較しながら現状を把握することを主目的としている。
- 上記の各層が「KITをどのように見ているか？」「各々の見方にはどのような違いがあるのか？」「以前とどのように変わっているのか？」といった基礎的な情報を把握し、今後の学校運営、広報の検討に活用できるようとりまとめている。
- 本調査は2003年より実施しており、今回が18回目となる。同一内容で比較できる設問に関しては時系列変化で分析している。

■調査方法

調査時期	・2020年2月～4月に実施。 ・在学生への調査期間は、2005年の調査より、年度当初（4月）から年度末（2月）に変更している。
調査方法	・「在学生」は学内で配布、「教職員」はメールで配信し、回収ボックスで回収した。「卒業・修了生」は郵送によって配布、回収した。 ・すべて『無記名式』とした。
回収数	・今回の全回収数は7,521サンプルであった。 ・属性別の回収数は下記の通り。
調査主体	学校法人　金沢工業大学
集計分析	（有）アイ・ポイント

■回答者数推移（企業担当者をのぞく）



■年度別回収数

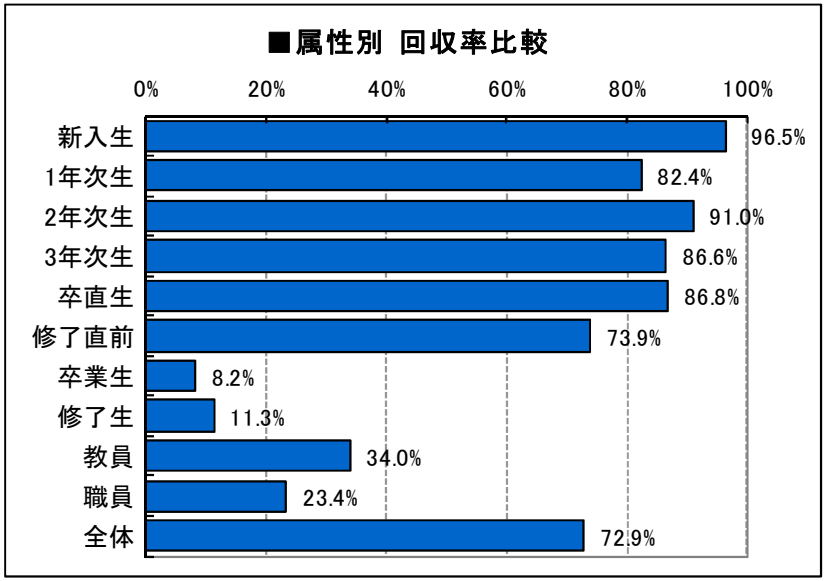
対象者	調査時点での属性	03年回収数	04年回収数	05年回収数	06年回収数	07年回収数	08年回収数	09年回収数	10年回収数	11年回収数	12年回収数	13年回収数	14年回収数	15年回収数	16年回収数	17年回収数	18年回収数	19年回収数	20年回収数
新入生	入学直後	724	1,672	1,610	1,747	1,642	1,652	1,568	1,723	1,607	1,745	1,886	1,614	1,664	1,604	1,541	1,641	1,592	1,627
1年次生	1年次終了時点	106	1,007	1,379	1,364	1,505	1,461	1,369	1,293	1,411	1,299	1,562	1,587	1,447	1,519	1,361	1,384	1,438	1,395
2年次生	2年次終了時点	49	792	1,533	1,313	1,267	1,455	1,146	1,185	1,022	1,321	1,059	1,337	1,545	1,439	1,497	1,422	1,321	1,389
3年次生	3年次終了時点	106	449	441	599	768	793	643	760	781	756	741	769	744	1,520	1,312	1,350	1,387	1,349
卒・修直前	卒業・修了直前	976	914	610	549	669	664	711	960	808	873	829	790	865	970	1,509	1,364	1,424	1,439
卒業・修了生	卒業・修了生	163	107	97	80	90	57	110	137	149	146	144	104	125	124	121	138	124	131
教員	在職中の教員	143	133	151	157	136	118	118	112	115	108	118	131	80	134	127	106	102	120
職員	在職中の職員	187	131	134	153	144	109	155	148	202	139	143	93	91	122	106	86	78	71
企業担当者	卒業生の就職企業	－	－	485	－	－	660	－	－	686	－	－	872	－	－	846	－	－	－
全体（企業除く）		2,454	5,205	5,955	5,962	6,221	6,309	5,820	6,318	6,095	6,387	6,482	6,425	6,561	7,432	7,574	7,491	7,466	7,521

※2014年より、「卒業・修了直前」は「卒業直前」と「修了直前」に、「卒業・修了生」は「卒業生」と「修了生」に分けて調査票を作成したが、件数としては合わせた数で表示している。

■属性別回収率

属性	配布数	回収数	回収率
新入生	1,686	1,627	96.5%
1年次生	1,693	1,395	82.4%
2年次生	1,526	1,389	91.0%
3年次生	1,558	1,349	86.6%
卒業直前	1,504	1,306	86.8%
修了直前	180	133	73.9%
卒業生	1,301	107	8.2%
修了生	213	24	11.3%
教員	353	120	34.0%
職員	303	71	23.4%
全体	10,317	7,521	72.9%

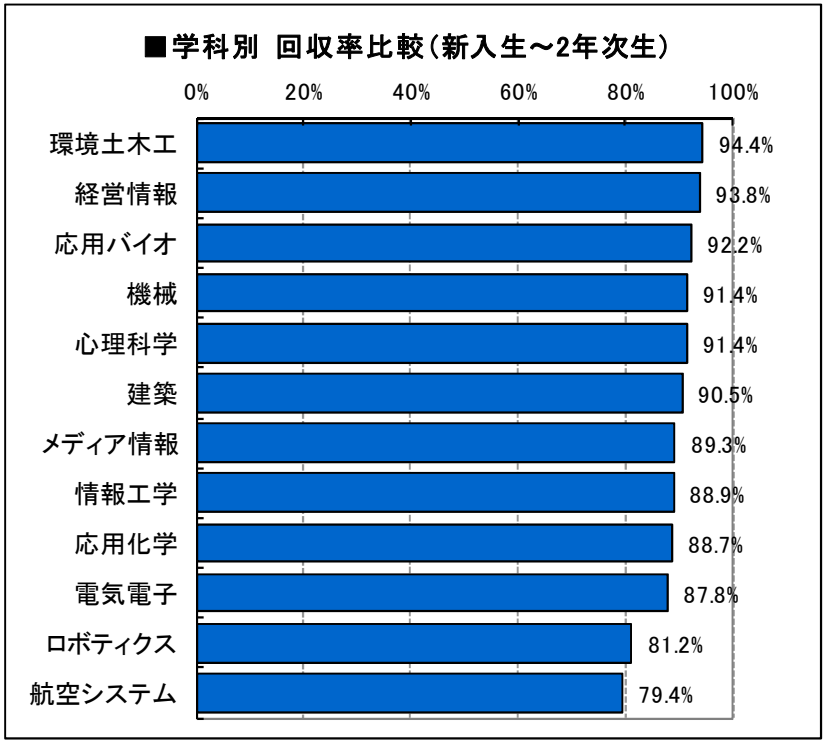
※属性別回収率の「配布数」は実際に調査票を配布した数となる。



■学部別・学科別回収率（新入生、1年次生、2年次生）

学部	学部別在籍者数	学部別回収数	学部別回収率	学科	学科別在籍者数	学科別回収数	学科別回収率
工学部	2,917	2,572	88.2%	機械	616	563	91.4%
				航空システム	194	154	79.4%
				ロボティクス	335	272	81.2%
				電気電子	765	672	87.8%
				情報工学	723	643	88.9%
				環境土木工	284	268	94.4%
情報フロンティア学部	836	759	90.8%	メディア情報	475	424	89.3%
				経営情報	210	197	93.8%
				心理科学	151	138	91.4%
建築学部	686	621	90.5%	建築	686	621	90.5%
バイオ・化学部	466	422	90.6%	応用化学	221	196	88.7%
				応用バイオ	245	226	92.2%
全体	4,905	4,374	89.2%	全体	4,905	4,374	89.2%

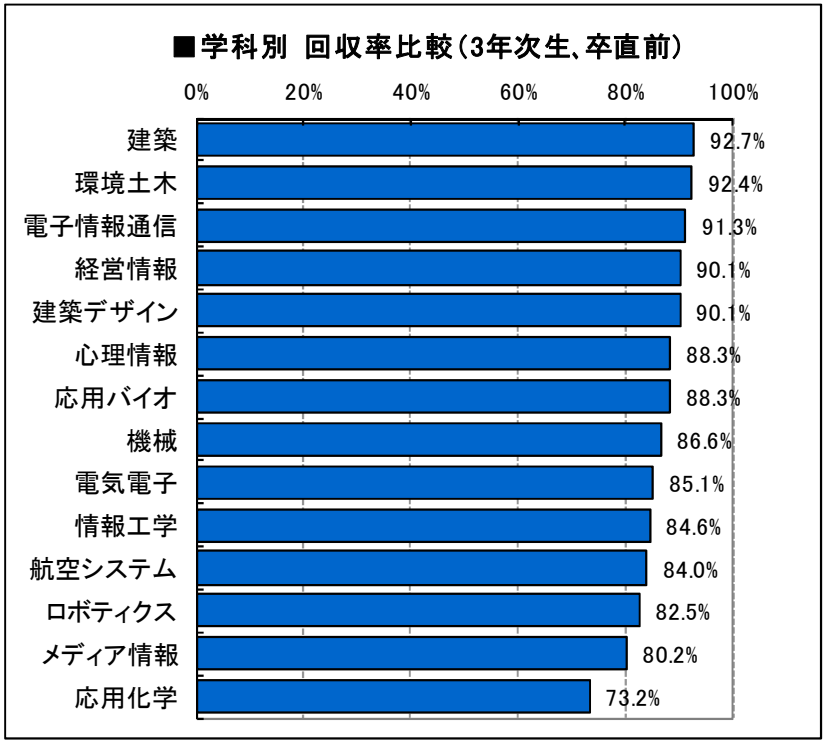
※12学科体制の新入生、1年次生、2年次生を合わせて集計している。
※回収率に関しては、学科無回答の37名は除外して集計している。



■学部別・学科別回収率（3年次生、卒業直前）

学部	学部別 在籍者数	学部別 回収数	学部別 回収率	学科	学科別 在籍者数	学科別 回収数	学科別 回収率
工学部	1,675	1,428	85.3%	機械	454	393	86.6%
				航空システム	125	105	84.0%
				ロボティクス	212	175	82.5%
				電気電子	370	315	85.1%
				電子情報通信	80	73	91.3%
				情報工学	434	367	84.6%
情報 フロンティア 学部	441	368	83.4%	メディア情報	283	227	80.2%
				経営情報	81	73	90.1%
				心理情報	77	68	88.3%
建築学部	674	617	91.5%	建築デザイン	283	255	90.1%
				建築	220	204	92.7%
				環境土木	171	158	92.4%
バイオ・化学部	272	221	81.3%	応用化学	127	93	73.2%
				応用バイオ	145	128	88.3%
全体	3,062	2,634	86.0%	全体	3,062	2,634	86.0%

※14学科体制の3年次生、卒直前を合わせて集計している。
※回収率に関しては、学科無回答の21名は除外して集計している。



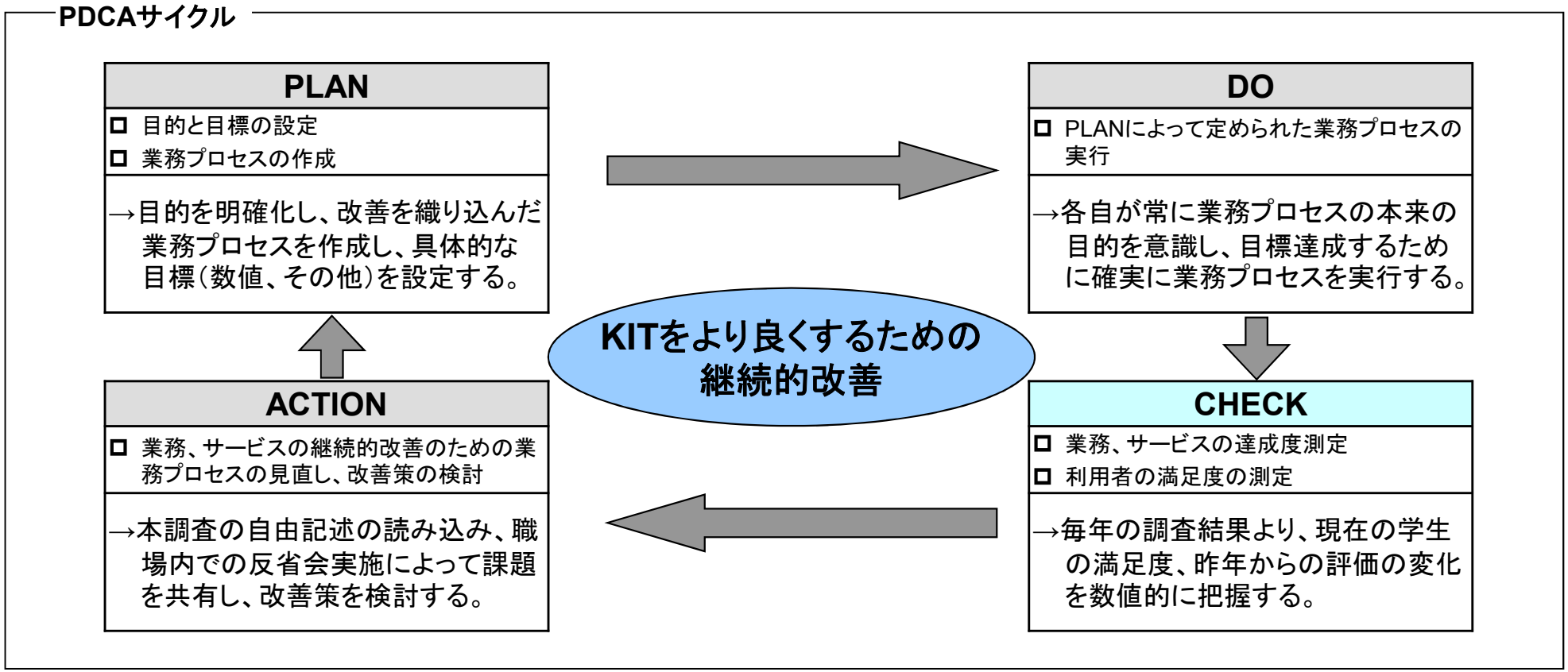
■集計に関して

分野	注意点
分析に関して	・「目的・目標意識」「総合満足度」などの、重要な指標に関しては「単純集計」「年度別比較」の他に「男女別」「学年別」「学科別」などの属性別のグラフを提示し、分析を行っているが、その他の項目に関しては「単純集計」「年度別比較」のみの分析とし、属性別に関しては巻末にグラフだけを掲載している。 ・「新入生」アンケートに関しては、入試広報などに活用するために属性別の集計も分析している。また、「卒業・修了生」「教職員」に関しても属性別の分析を行っている。
無回答に関して	・特に但し書きがない場合は、無回答は集計から除外している。
加重平均に関して	・各調査項目を属性毎に比較するため、加重平均値を多く活用している。 ・今回の調査では、選択肢を「そう思う～どちらかといえばそう思う～どちらかといえばそう思わない～そう思わない」などのように4択式で構成した。なお、「あてはまらない、分からない」は無回答として処理した。 ・加重平均は上記の選択肢に、+10点、+5点、−5点、−10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。 ・「あてはまらない、分からない」「無回答」は回答者数に含めていない。
グラフに関して	・折れ線グラフは主に時系列変化を見る際に利用されるが、この報告書では加重平均を属性毎に比較する際に本来の棒グラフでは見にくくなるため、折れ線グラフで表現しているものもある。
誤差に関して	・報告書内のデータの「集計値」や「合計値」は小数点第1位までの表示となっているが、これは小数点第2位を四捨五入したものとなっている。「肯定的な意見の合計値」などもこのルールに従っているため、「集計値」と「合計値」の四捨五入の判断が異なり、最大で0.1の差となっているケースもあるが、これは誤差として、そのままとしている。
属性別比較に関して	・報告書内では属性別比較を行っているが、「全体集計」と「属性別比較」の結果が異なっているケースもある。これは、「全体集計」ではすべてのデータが集計対象となるが、属性が未回答の場合は「属性別集計」では集計対象とならないためであり、これらの数値は、そのまま表示している。
学科別集計に関して	・今回、「新入生」「1年次生」「2年次生」は12学科体制、「3年次生」「卒直前」は14学科体制となっているが、学科別集計に関しては下記の通りに12学科体制に調整して集計している。 ・14学科体制の「電気電子工学科」と「電子情報通信工学科」は12学科体制の「電気電子工学科」として集計し、同様に「建築デザイン学科」と「建築学科」は「建築学科」として集計している。

＜1-2＞調査の位置づけ

■PDCAサイクルの中での本報告書の位置づけ

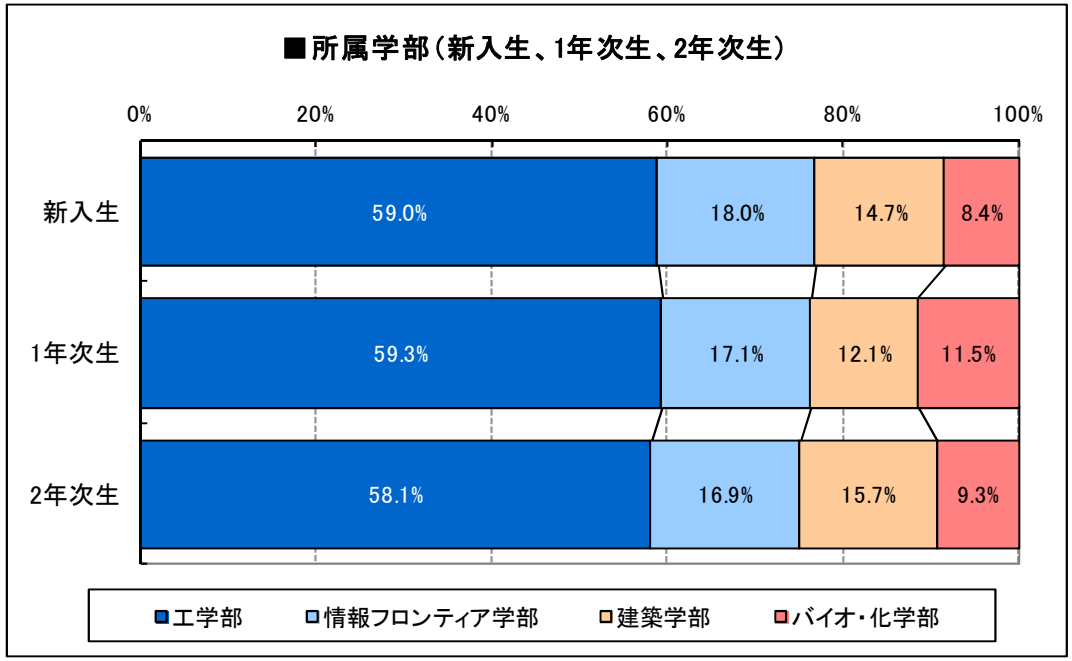
本報告書は前出の目的に基づいて作成されているが、具体的なPDCAサイクルの中では下記のように位置づけられる。

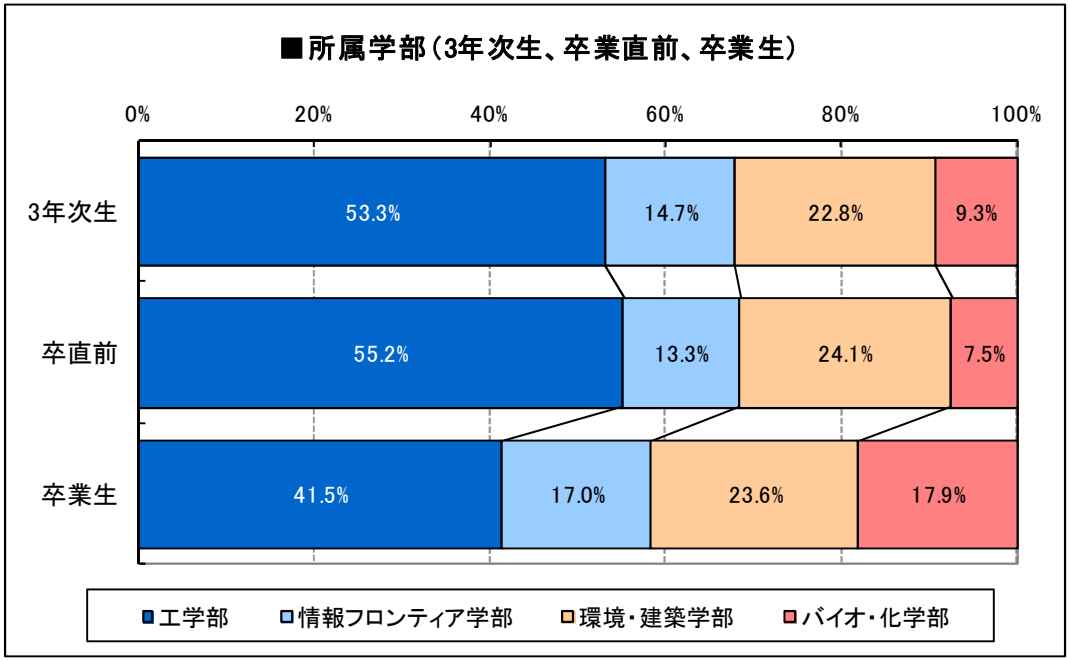


- 今回の調査によって得られた「KIT関係者のKITに対する評価、満足度」は、上記「PDCAサイクル」の中の「CHECKステップ」に相当する。
- 「PDCAサイクル」は一時的なものではなく、継続的な改善を目指すものである。従って「他の施設や機能と比較して評価がどうであったか？」という相対的な結果を見るよりも、「昨年と比較して評価がどう変化したのか？」「自らが設定した目標は達成したのか？」といった変化を見る方が、よりPDCAのサイクルに則した見方ができるものと思われる。
- また、今後の改善策を検討するためには「自由記述」が有効であり、多くのヒントが含まれているものと思われる。
- 本調査企画は昨年から改善を重ねて内容を見直しているため、質問方法、選択肢などが異なる部分もあるが、今後はこれらの違いをできるだけ少なくし、より比較検討が行いやすい内容にしていく予定である。

＜2-1＞在学生・卒業生の基本属性

■所属学部、学科





■所属学科

	機械工学科	航空システム工学科	ロボティクス学科	電気電子工学科	情報工学科	環境土木工学科	メディア情報学科	経営情報学科	心理科学科	建築学科	応用化学科	応用バイオ学科	総計
新入生	13.0%	4.1%	6.6%	15.6%	14.1%	5.5%	9.9%	5.0%	3.0%	14.7%	4.2%	4.1%	100.0%
1年次生	13.0%	3.5%	5.8%	15.1%	15.1%	6.7%	9.1%	4.7%	3.3%	12.1%	5.0%	6.5%	100.0%
2年次生	12.5%	2.9%	6.1%	15.4%	15.0%	6.2%	10.1%	3.7%	3.1%	15.7%	4.2%	5.0%	100.0%

	機械工学科	航空システム工学科	ロボティクス学科	電気電子工学科	電子情報通信工学科	情報工学科	メディア情報学科	経営情報学科	心理情報学科	建築デザイン学科	建築学科	環境土木工学科	応用化学科	応用バイオ学科	総計
3年次生	14.8%	4.3%	6.9%	10.9%	3.1%	13.2%	10.3%	2.0%	2.3%	10.0%	6.9%	5.9%	4.0%	5.2%	100.0%
卒直前	15.0%	3.6%	6.4%	13.0%	2.4%	14.7%	6.9%	3.5%	2.9%	9.4%	8.6%	6.1%	3.0%	4.5%	100.0%
卒業生	15.1%	2.8%	6.6%	5.7%	3.8%	7.5%	8.5%	3.8%	4.7%	8.5%	6.6%	8.5%	7.5%	10.4%	100.0%

※学科別集計に関しては12学科体制に調整して集計している。詳細は「＜1-1＞調査の目的と概略」の「■集計に関して」を参照のこと。また、ここでは「無回答」は除外して集計している。

■出身地域

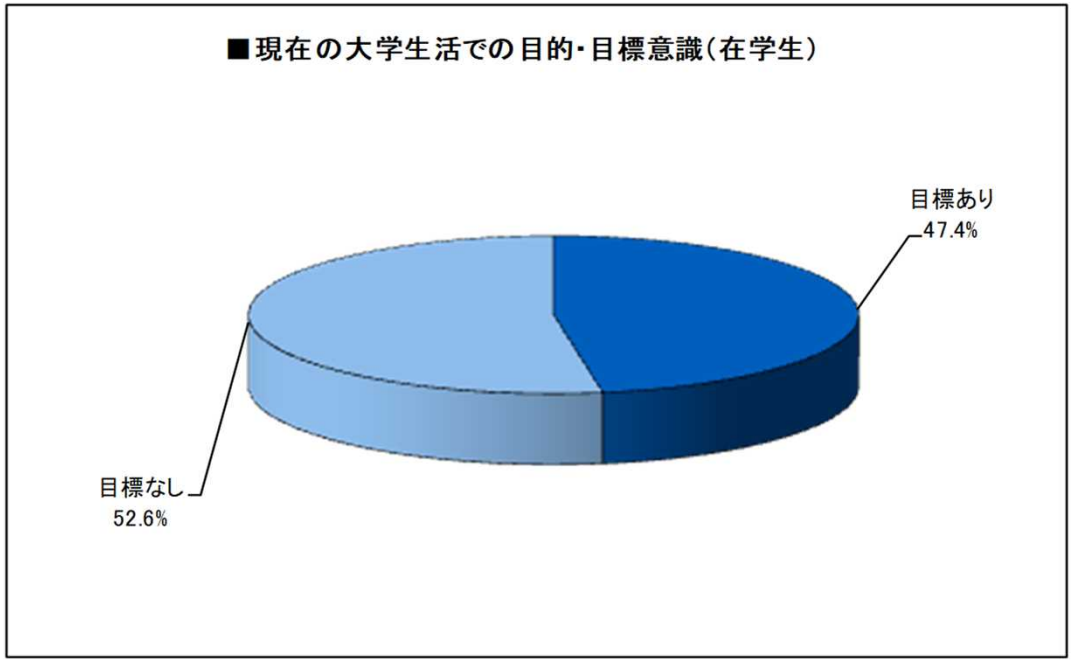
■在学生の出身地域

	北海道・東北	関東	甲信越	北陸	東海	関西	中国・四国	九州・沖縄	全体
1年次生	58	105	168	610	217	140	49	24	1,371
	4.2%	7.7%	12.3%	44.5%	15.8%	10.2%	3.6%	1.8%	100.0%
2年次生	45	90	191	651	206	119	49	25	1,376
	3.3%	6.5%	13.9%	47.3%	15.0%	8.6%	3.6%	1.8%	100.0%
3年次生	51	65	200	649	199	106	41	14	1,325
	3.8%	4.9%	15.1%	49.0%	15.0%	8.0%	3.1%	1.1%	100.0%
卒業直前	50	54	199	600	207	133	44	14	1,301
	3.8%	4.2%	15.3%	46.1%	15.9%	10.2%	3.4%	1.1%	100.0%
修了直前	3	8	20	46	17	21	8	7	130
	2.3%	6.2%	15.4%	35.4%	13.1%	16.2%	6.2%	5.4%	100.0%
全体	207	322	778	2556	846	519	191	84	5,503
	3.8%	5.9%	14.1%	46.4%	15.4%	9.4%	3.5%	1.5%	100.0%

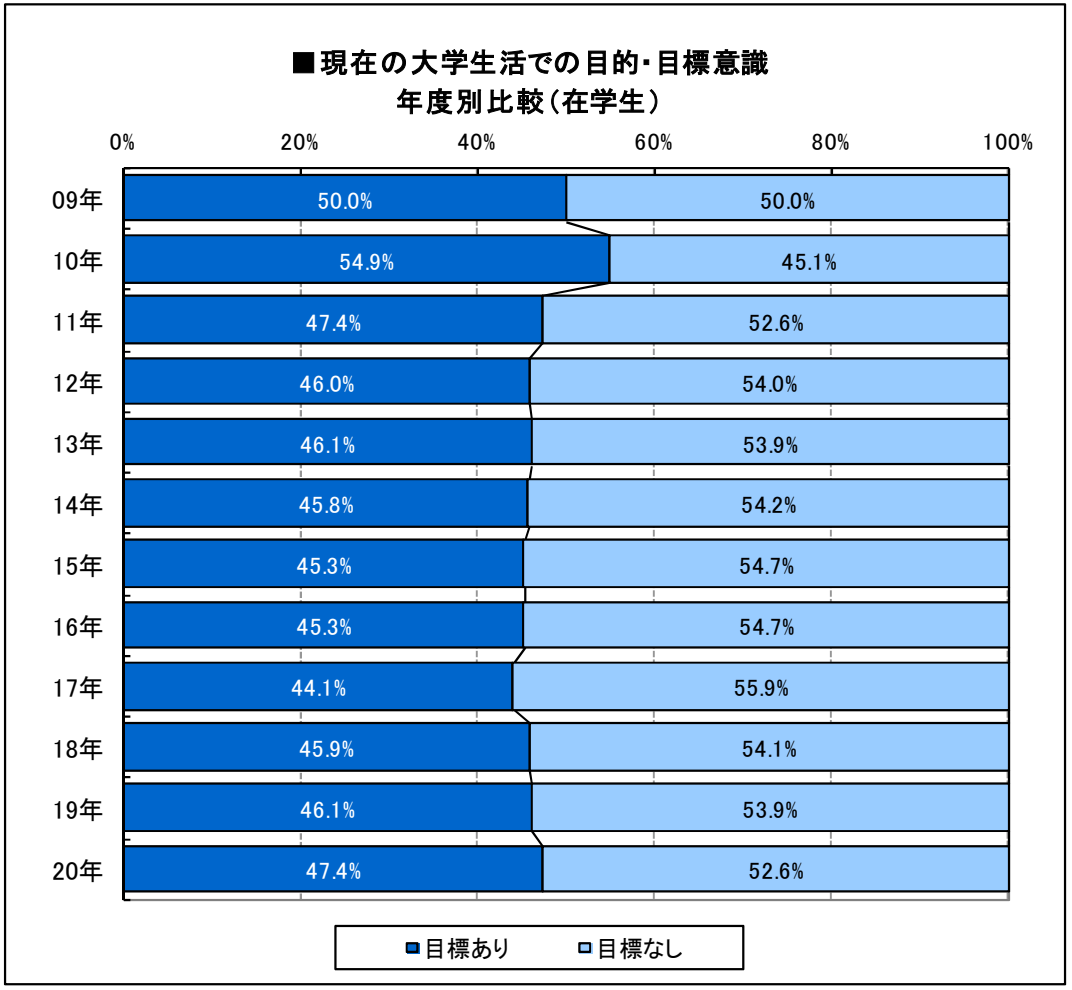
＜3-1＞在学中の目的・目標意識

■現在の目的・目標意識

- 「大学生活を送る上での目的・目標の有無」に関しては、「目標あり」が47.4%、「目標なし」が52.6%であり、差は5.2ポイントであった。
- 年度別に比較すると、「目標あり」は前回を1.3ポイント上回り、わずかずつではあるが17年から増加傾向が続いていた。



目標あり（47.4%）　＜　目標なし（52.6%）

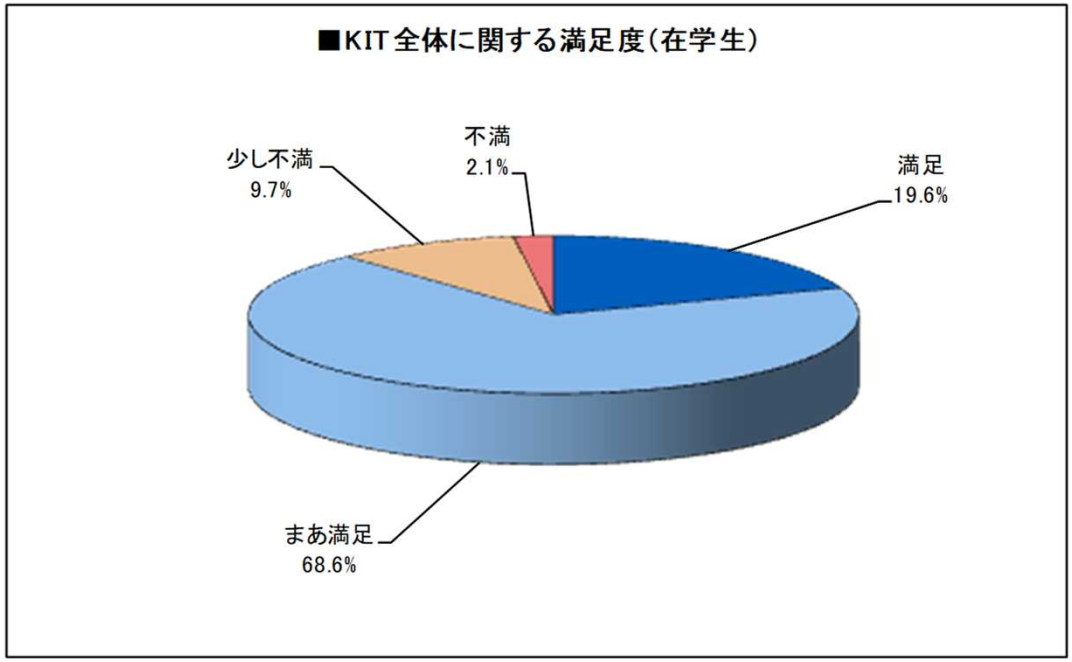


※この質問は「新入生」「在学生（卒・修直前を含む）」「卒業生」「修了生」に聞いているが、
このページのグラフは年度別の比較が可能な「在学生」のみを対象として比較しており、
次項以降のグラフは「新入生」「卒業生」「修了生」も含めて比較をしている。

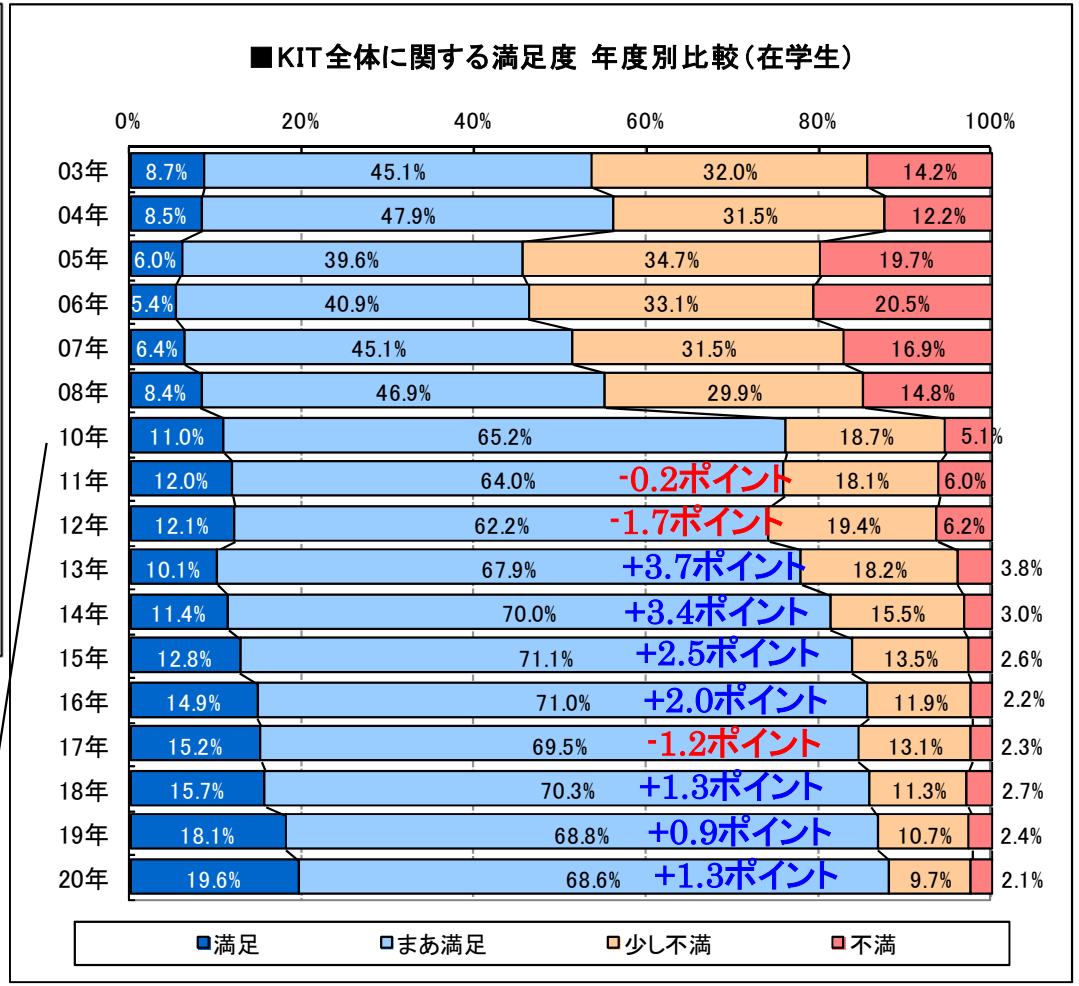
＜4-1＞KITの総合満足度

■KIT全体に関する満足度

- 「KIT全体に関する満足度」では「満足」が19.6%、「まあ満足」が68.6%であり、合計すると88.2%が満足と答えていた。一方、不満という回答は11.8%であった。
- 総合満足度については、08年までは「今のKITに満足していますか？」と聞いており、09年には質問自体を削除している。そして、10年からは「KIT全体に関する満足度」として、「満足」～「不満」を選ぶ聞き方になっている。
- 聞き方が統一された10年以降を見ると、満足という回答の合計は12年頃までは70%後半で横這いで、13年以降では16年から17年にかけての例外はあるものの、継続的に増加傾向が続いており、今回（20年）は前回を1.3ポイント上回って、過去最高の満足度となっていた。また、「満足」だけを見ても前回を1.5ポイント上回っており、こちらも過去最高となった。



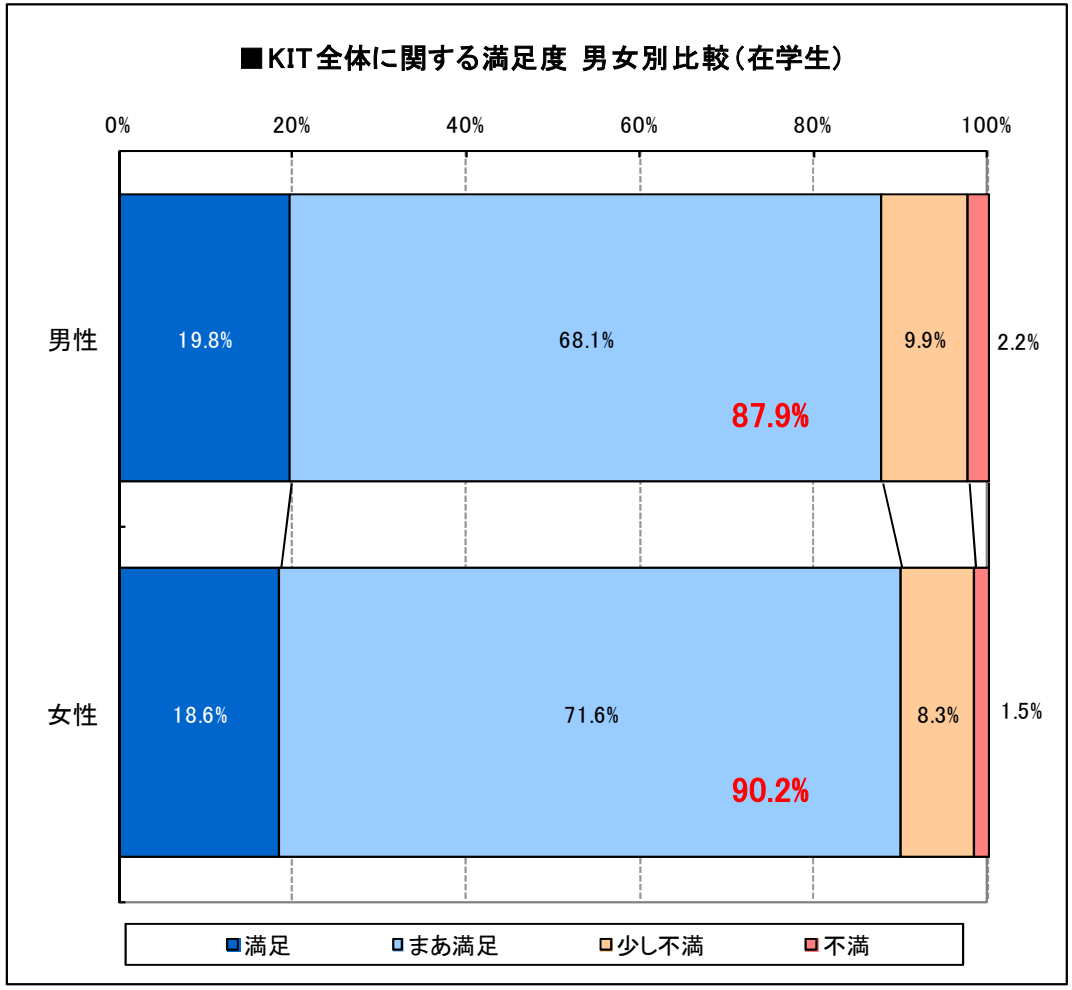
満足している（88.2%）　＞　不満を持っている（11.8%）



10年から聞き方が変わっている

■KIT全体に関する満足度　男女別比較

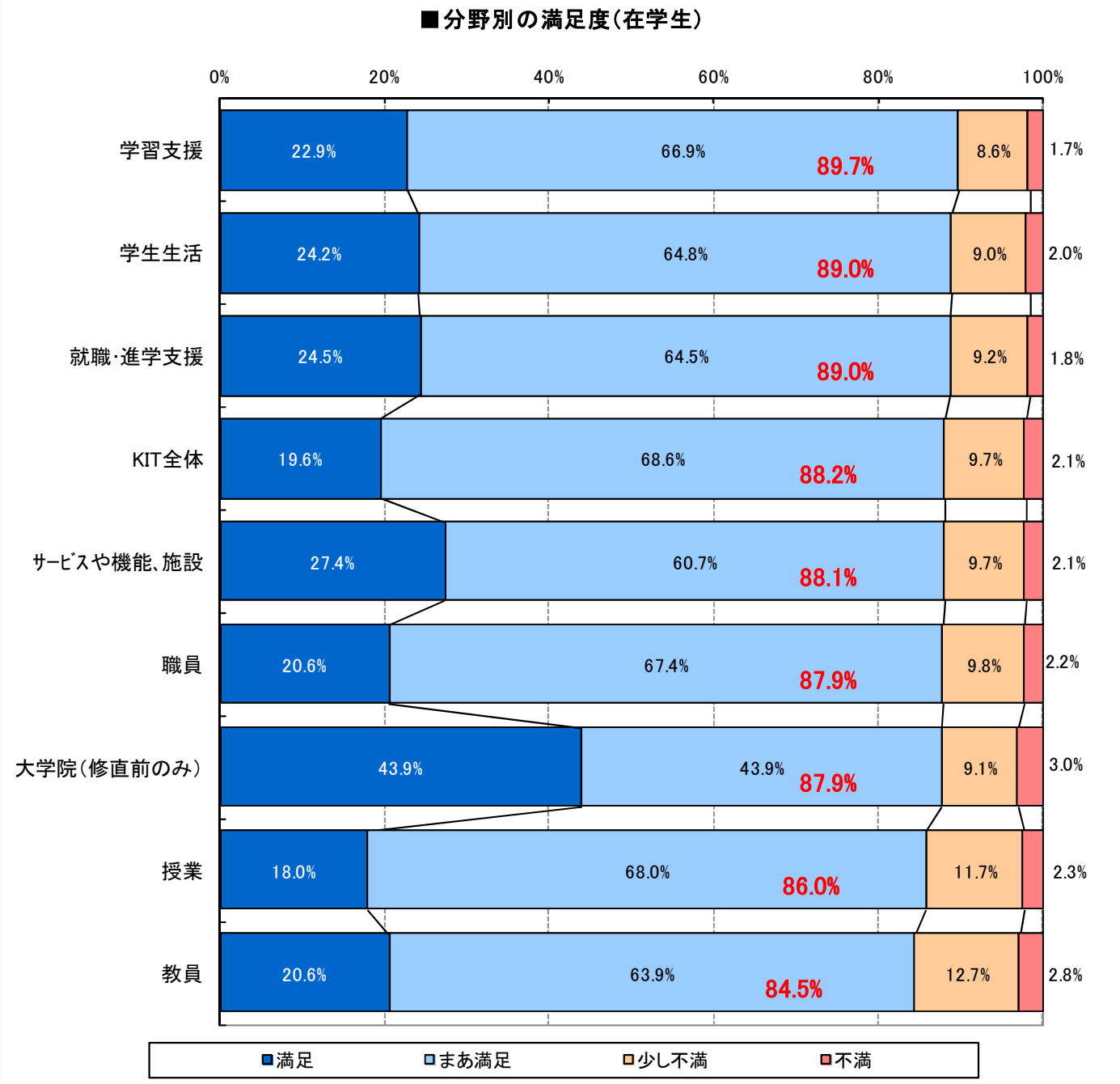
● 満足という回答の合計を男女別に比較したところ、「男性」が87.9%、「女性」が90.2%となっており、差は2.3ポイントで「女性」の方が満足度が高かった。



＜4-2＞分野別の満足度

■分野別満足度

- 大学生活の9つの分野について各々の満足度を聞いたところ、「満足」と「まあ満足」の合計が最も多かったのは「学習支援」の89.7%であった。次いで、「学生生活」と「就職・進学支援」が89.0%と続いていた。ただし、「満足」だけを見ると「修了直前」だけに聞いた「大学院」の43.9%が突出していた。
- 一方、満足度が最も低かったのは「教員」の84.5%であったが、満足度としては決して低いものではなく、「学習支援」との差は5.2ポイントであった。次いで低かったのは「授業」の86.0%であった。

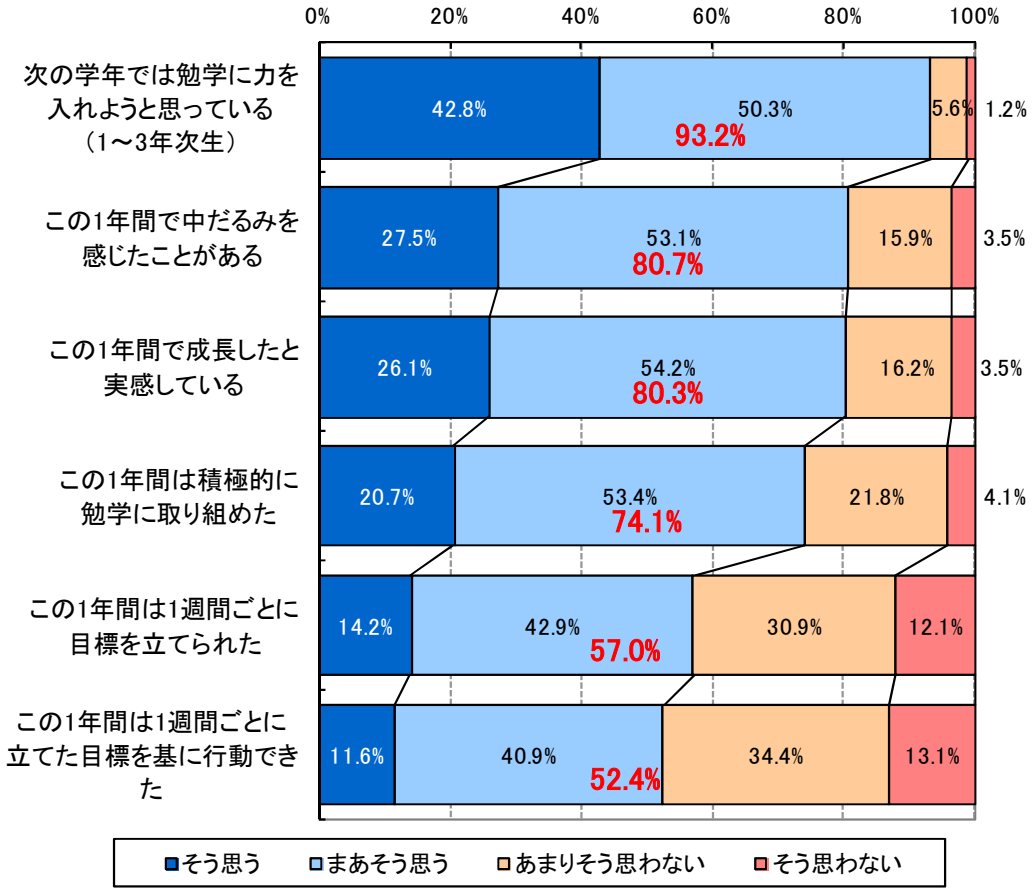


＜4-3＞この1年間の振り返り

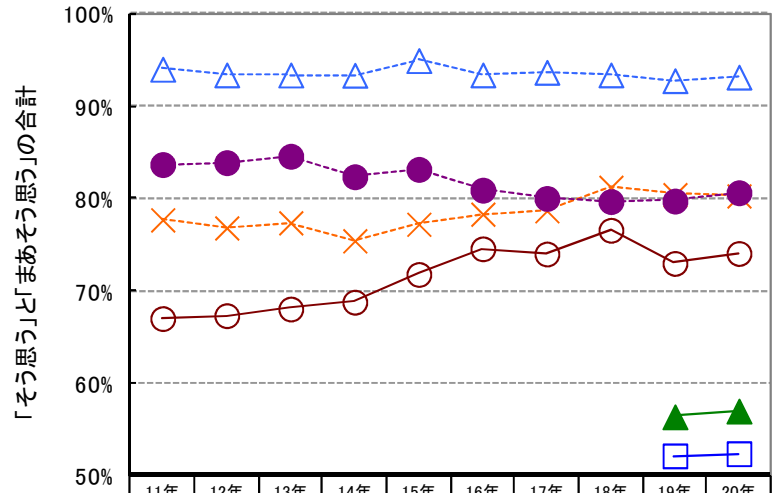
■この1年間の振り返り　年度別比較

- 「この1年間の振り返り」の6項目の中で、肯定的な意見の合計が最も多かったのは「次の学年では勉学に力を入れようと思っている」の93.2%で、次の学年に向けての積極的な様子がうかがえた。
- 上記に次いで、「この1年間で中だるみを感じたことがある」が80.7%となっていたが、これは肯定的な意見が多いほど中だるみが多くなっているということであり、この数値が大きいことは良いこととは言えない状態となる。続いて、「この1年間で成長したと実感している」が80.3%であり、中だるみを感じている学生と成長したと実感している学生がほぼ同数という結果となっていた。
- 年度別に比較すると、いずれも変化はわずかでほぼ横這いと言えるが、「この1年間で成長したと実感している」を除いたすべての項目で前回を上回っていた。前回の低下で継続的上昇が止まった「この1年間は積極的に勉学に取り組めた」も、一転して上昇となっていた。

■この1年間の振り返り（在学生）



■この1年間の振り返り 年度別比較（在学生）

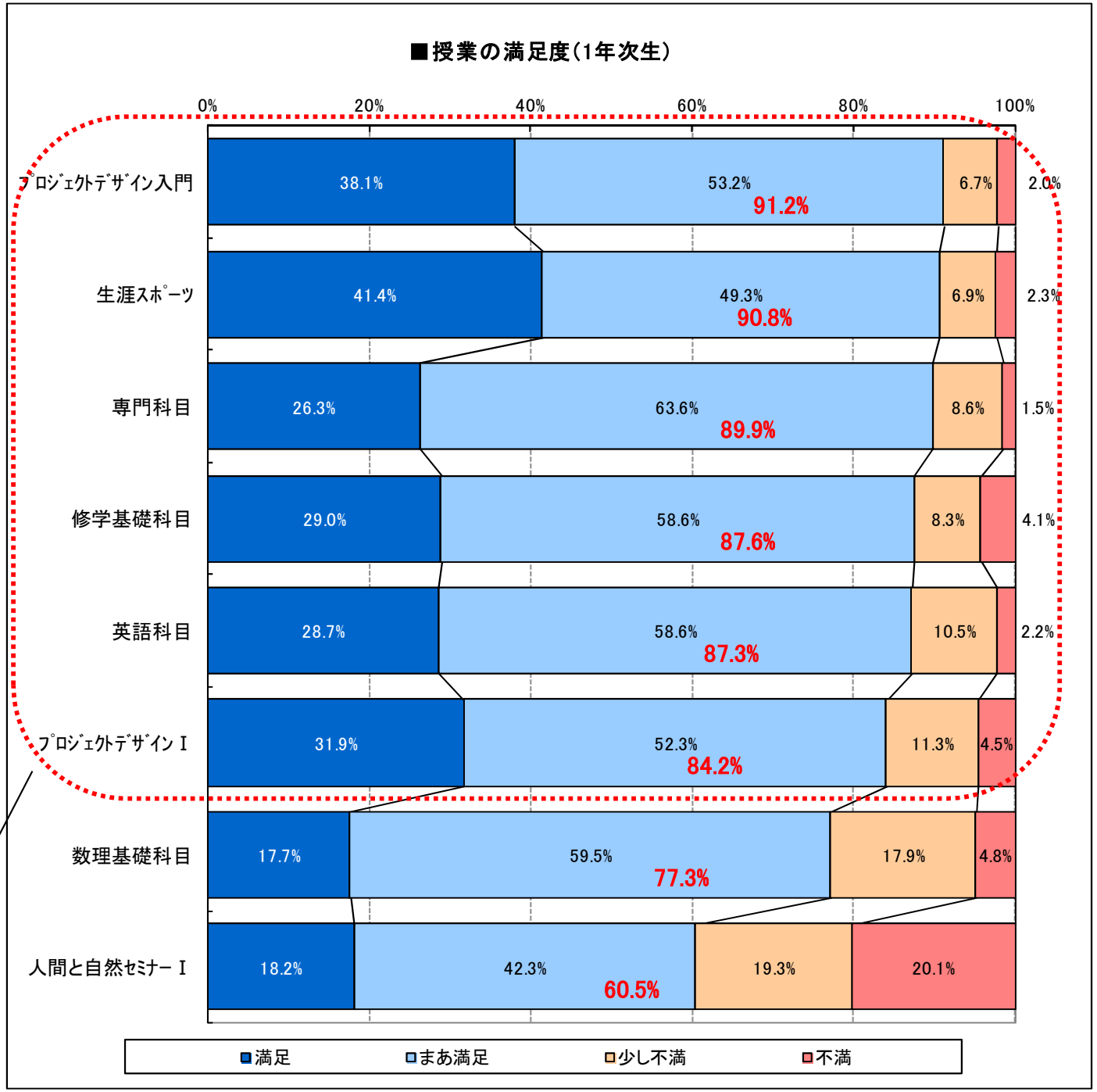


	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
この1年間は1週間ごとに目標を立てられた									56.4%	57.0%
この1年間は1週間ごとに立てた目標を基に行動できた									52.2%	52.4%
この1年間は積極的に勉学に取り組めた	67.0%	67.4%	68.1%	68.8%	71.8%	74.6%	74.0%	76.6%	73.0%	74.1%
この1年間で成長したと実感している	77.7%	76.9%	77.4%	75.5%	77.3%	78.3%	78.7%	81.2%	80.5%	80.3%
この1年間で中だるみを感じたことがある	83.7%	83.9%	84.6%	82.4%	83.2%	80.9%	80.0%	79.7%	79.8%	80.7%
次の学年では勉学に力を入れようと思っている（1～3年次生）	94.0%	93.4%	93.4%	93.4%	94.9%	93.4%	93.7%	93.4%	92.8%	93.2%

＜5-1＞授業の満足度

■授業の満足度　1年次生

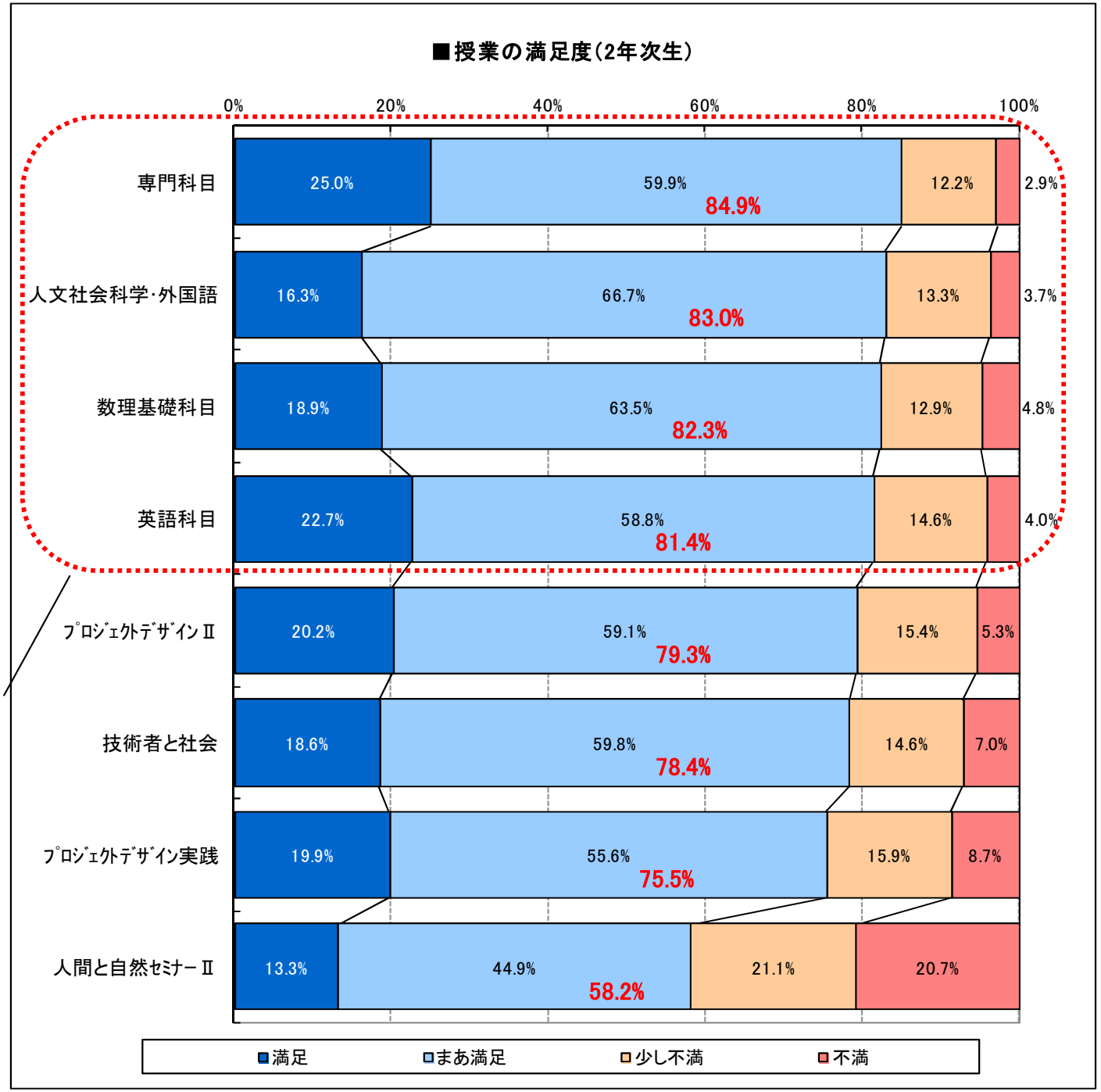
- 「1年次生」の授業で「満足」と「まあ満足」の合計で見た満足度が8割を超えていたのは、「プロジェクトデザイン入門」「生涯スポーツ」「専門科目」「修学基礎科目」「英語科目」「プロジェクトデザインⅠ」の6科目であった。
- 全体の中で満足度が最も高かったのは「プロジェクトデザイン入門」の91.2%で、「満足」という回答だけを見ると、最も多かったのは「生涯スポーツ」の41.4%であった。
- 一方、満足度が最も低かったのは「人間と自然セミナーⅠ」の60.5%であり、「プロジェクトデザイン入門」との差は30.7ポイントであった。



満足している層が
8割以上

■授業の満足度　2年次生

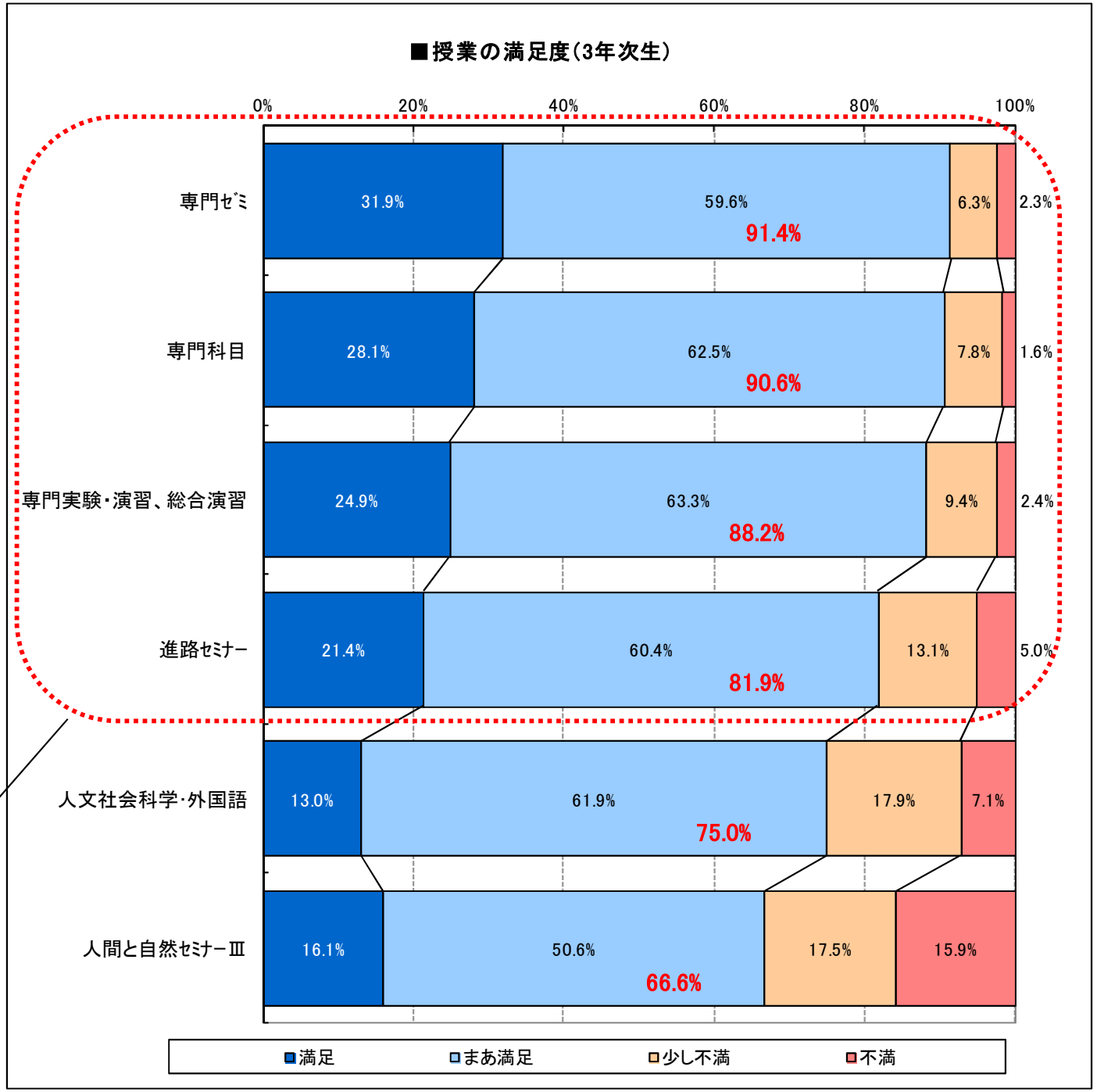
- 「2年次生」の授業で満足度が最も高かったのは「専門科目」の84.9%であり、「人文社会科学・外国語」が83.0%、「数理基礎科目」が82.3%、「英語科目」が81.4%と続いており、ここまでの4科目は満足している層が8割を超えていた。
- 一方、満足度が最も低かったのは「人間と自然セミナーⅡ」の58.2%で、低さが目立っていた。続いて、「プロジェクトデザイン実践」が75.5%、「技術者と社会」が78.4%となっていた。



満足している層が8割以上

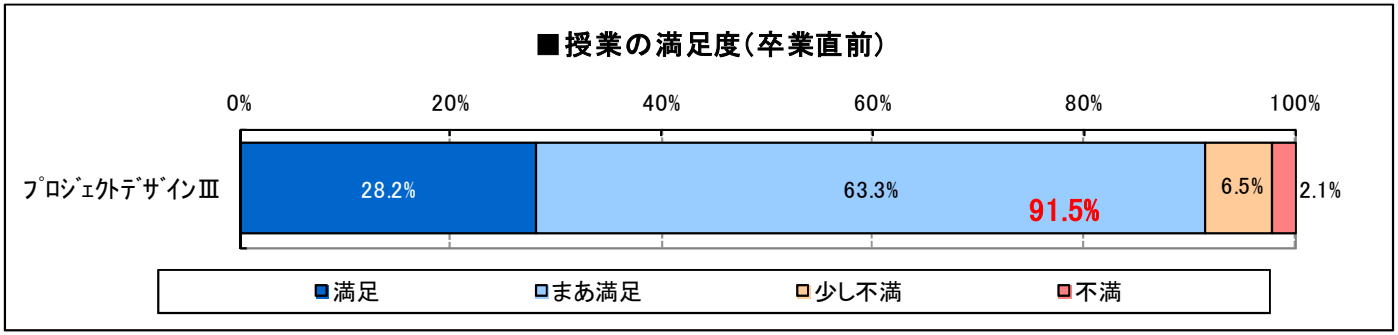
■授業の満足度　3年次生

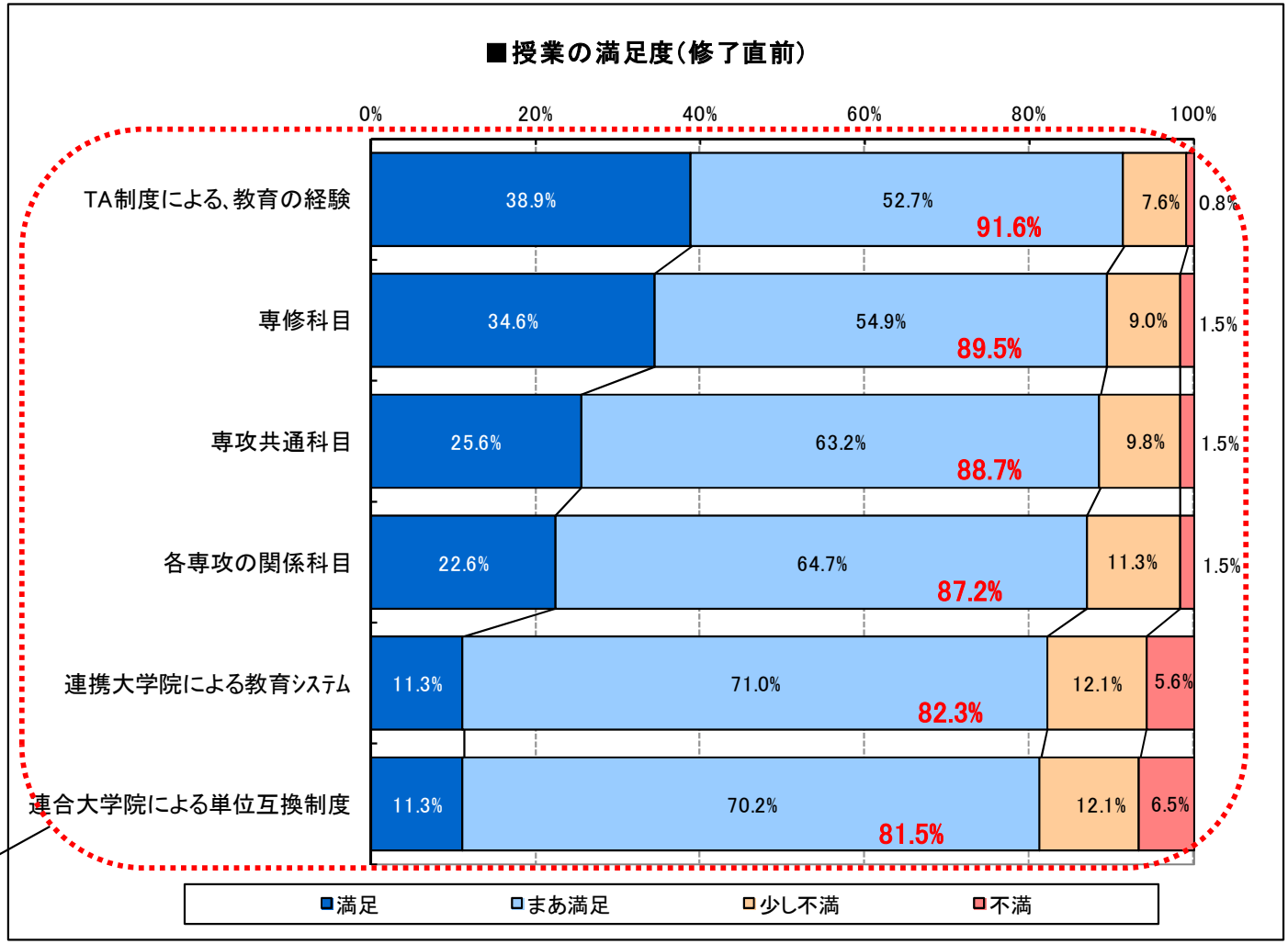
- 「3年次生」で満足度が最も高かったのは「専門ゼミ」の91.4%であり、次いで、「専門科目」が90.6%、「専門実験・演習、総合演習」が88.2%、「進路セミナー」が81.9%と続いており、ここまでの4科目は満足度が8割を超えていた。
- 一方、満足度が最も低かったのは「人間と自然セミナーⅢ」の66.6%であり、「専門ゼミ」との差は24.8ポイントであった。続いて「人文社会科学・外国語」が75.0%となっていた。



■授業の満足度　卒業・修了直前

- 「卒業直前」で授業満足度を聞いたのは「プロジェクトデザインⅢ」だけであるが、満足度は91.5%と高かった。
- 「修了直前」ではすべての科目で満足度が8割を超えており、最も高かったのは「TA制度による、教育の経験」の91.6%で、「専修科目」が89.5%、「専攻共通科目」が88.7%で続いていた。
- 一方、最も低かったのは「連合大学院による単位互換制度」の81.5%であった。



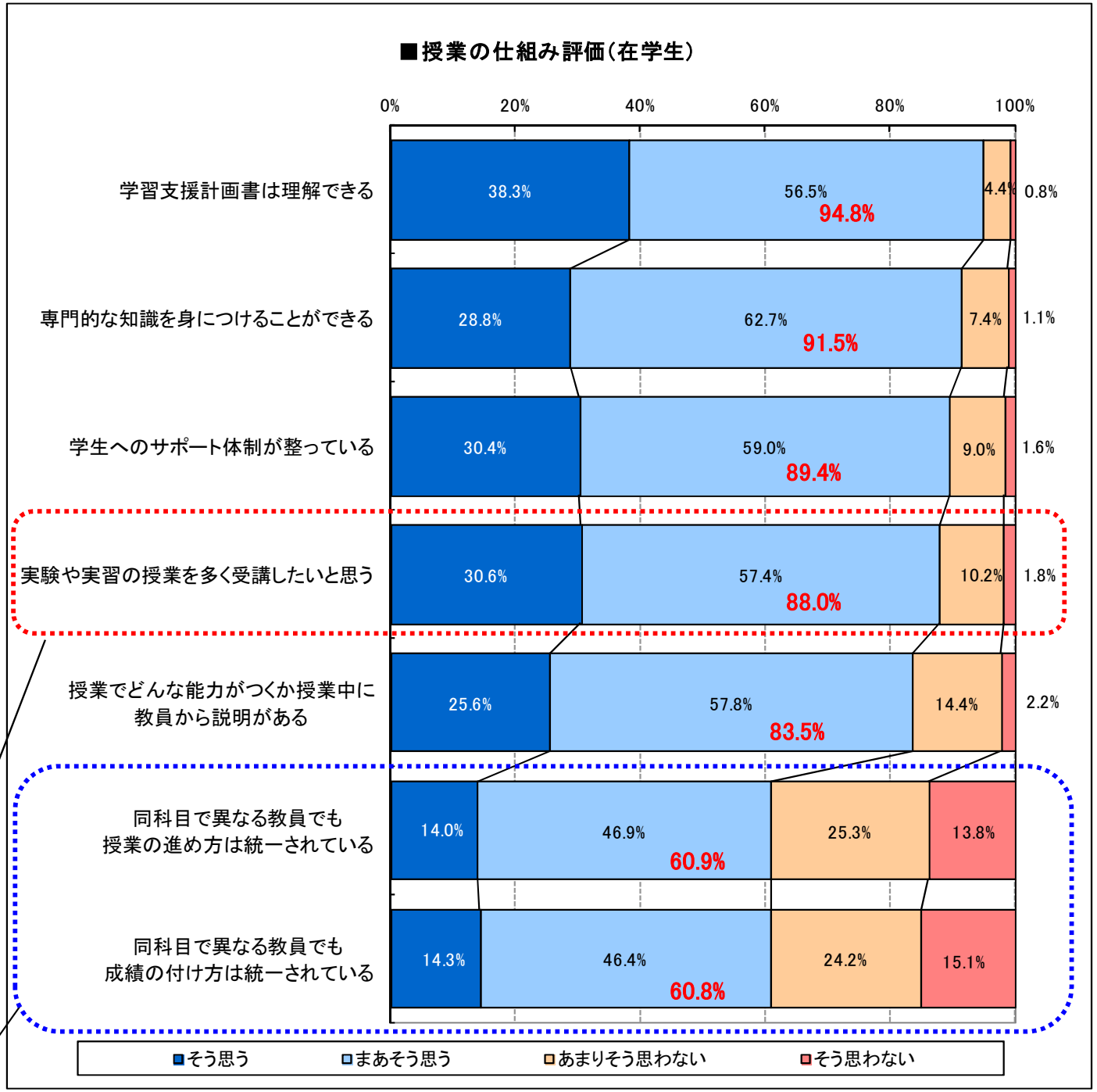


全科目で
8割以上が満足

＜5-2＞授業の仕組み評価

■授業の仕組み評価

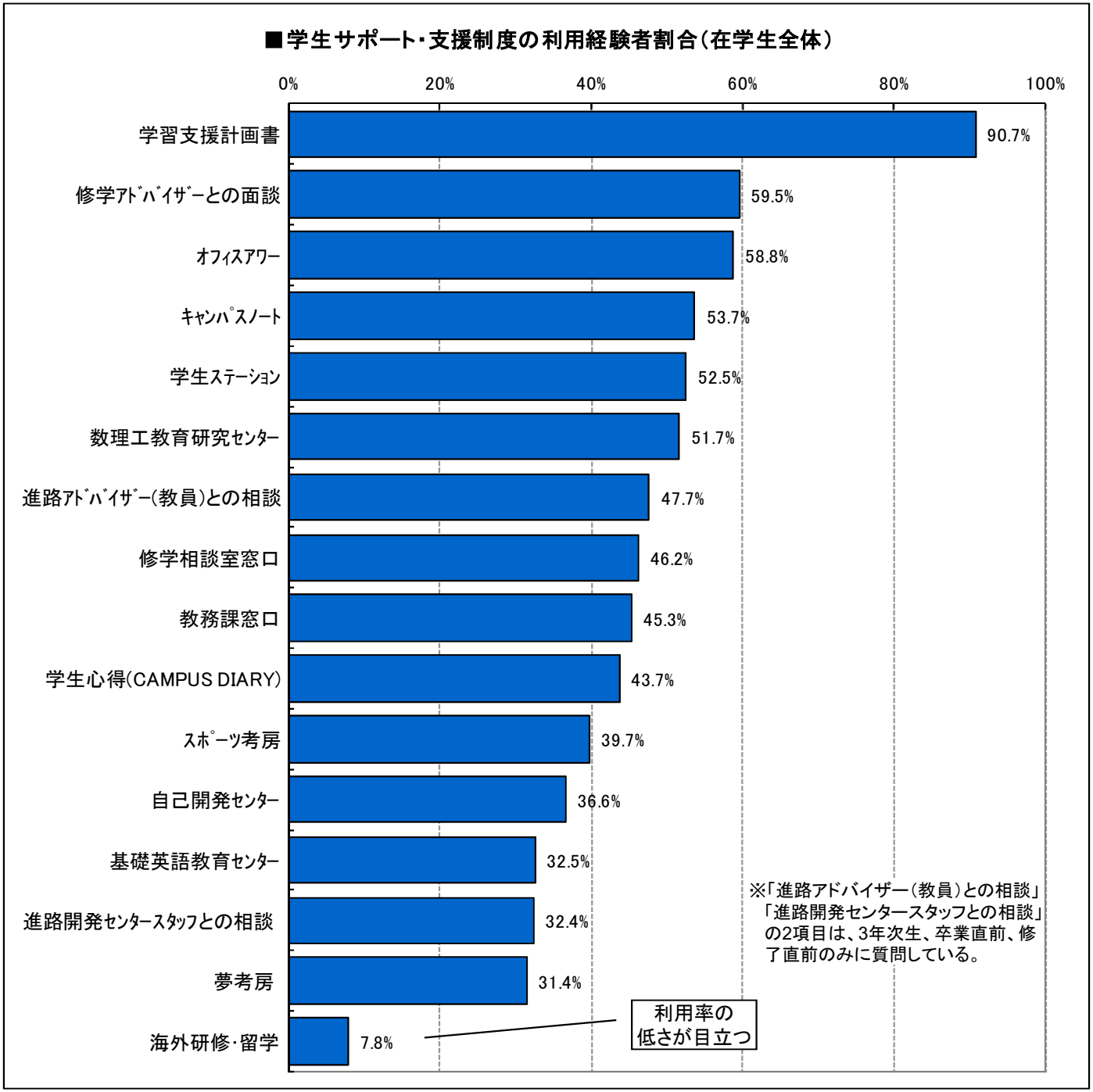
- 授業の仕組みの評価には、現状の評価を聞く6つの質問と要望を聞く1つの質問が混在している。
- 現状の評価を聞く質問で肯定的な意見の合計が最も多かったのは「学習支援計画書は理解できる」の94.8%であり、「そう思う」が38.3%と多い点が特徴的であった。
- 上記に次いで、「専門的な知識を身につけることができる」が91.5%、「学生へのサポート体制が整っている」が89.4%で続いていた。
- 一方、評価が低かったのは「同科目で異なる教員でも成績の付け方は統一されている」の60.8%と「同科目で異なる教員でも授業の進め方は統一されている」の60.9%であり、「同科目で異なる教員の対応」に大きな不満を持っているようであった。
- 要望を聞く質問は「実験や実習の授業を多く受講したいと思うか？」であるが、88.0%が肯定的な回答となっていた。



＜5-3＞学生サポート・支援制度の利用状況

■学生サポート・支援制度の利用経験者割合

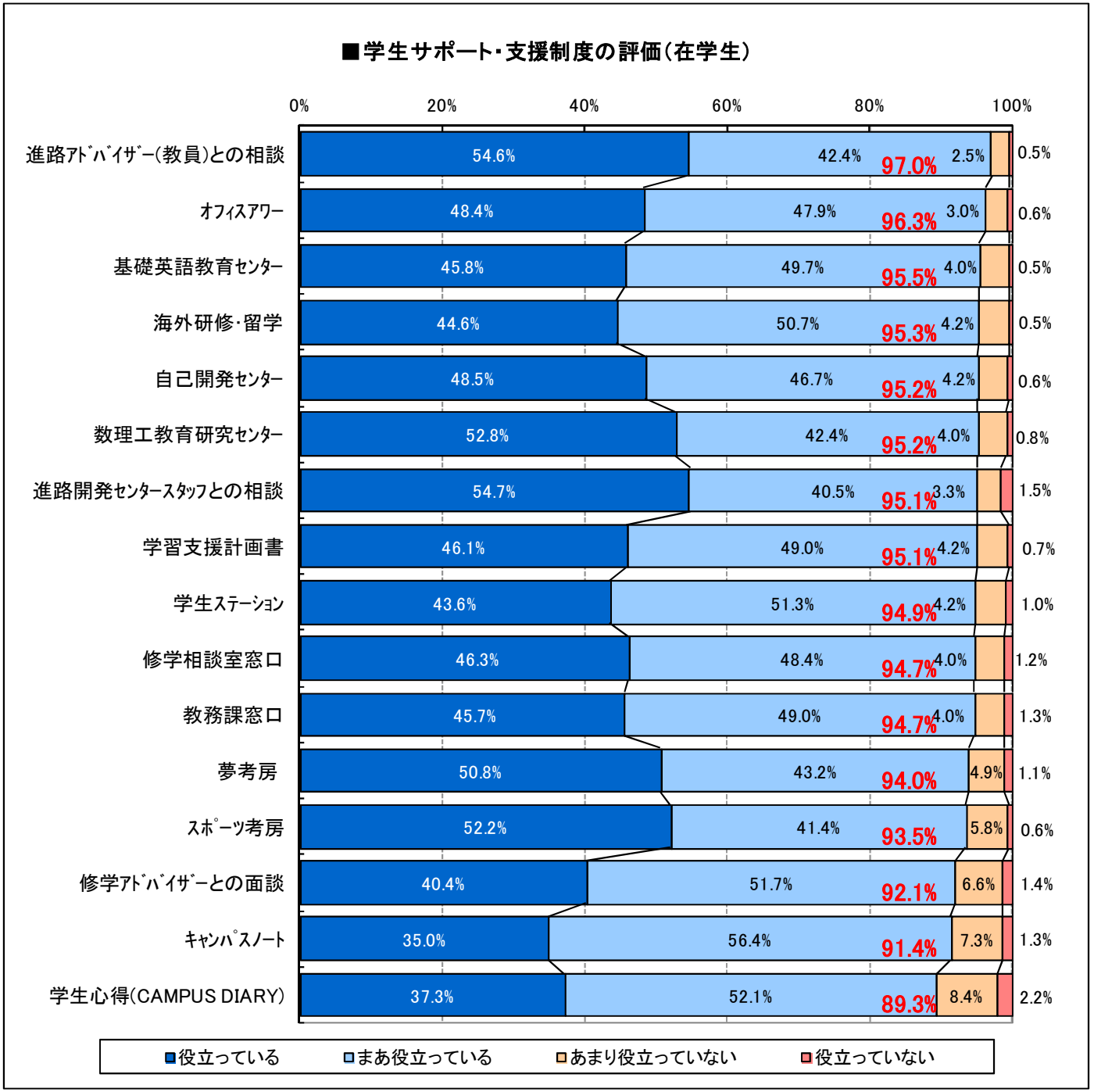
- 学生サポート・支援制度で利用経験者が最も多かったのは「学習支援計画書」の90.7%で、他の項目とは大きな差がついていた。
- 上記に次いで、「修学アドバイザーとの面談」が59.5%、「オフィスアワー」が58.8%、「キャンパスノート」が53.7%、「学生ステーション」が52.5%となっていた。
- 一方、利用経験者が最も少なかったのは「海外研修・留学」の7.8%であり、利用率の低さが目立っていた。



＜5-4＞学生サポート・支援制度の評価

■学生サポート・支援制度の評価

- 「学生サポート・支援制度」の利用者に対して、各々のサポート・支援策の評価を聞いたところ、いずれも非常に高い評価であり、大きな課題と思われるものは見られなかった。
- 中でも最も評価が高かったのは、「進路アドバイザー（教員）との相談」の97.0％であり、次いで、「オフィスアワー」が96.3％、「基礎英語教育センター」が95.5％、「海外研修・留学」が95.3％と続いており、いずれもほとんどが肯定的な意見となっていた。
- 「役立っている」だけを見ると、「進路開発センタースタッフとの相談」が54.7％、「進路アドバイザー（教員）との相談」が54.6％となっており、スタッフとの直接の相談が高評価となっていた。
- 一方、最も評価が低かったのは「学生心得（CAMPUS DIARY）」の89.3％であったが、これも約9割が肯定的な意見であり、決して低いものではなかった。

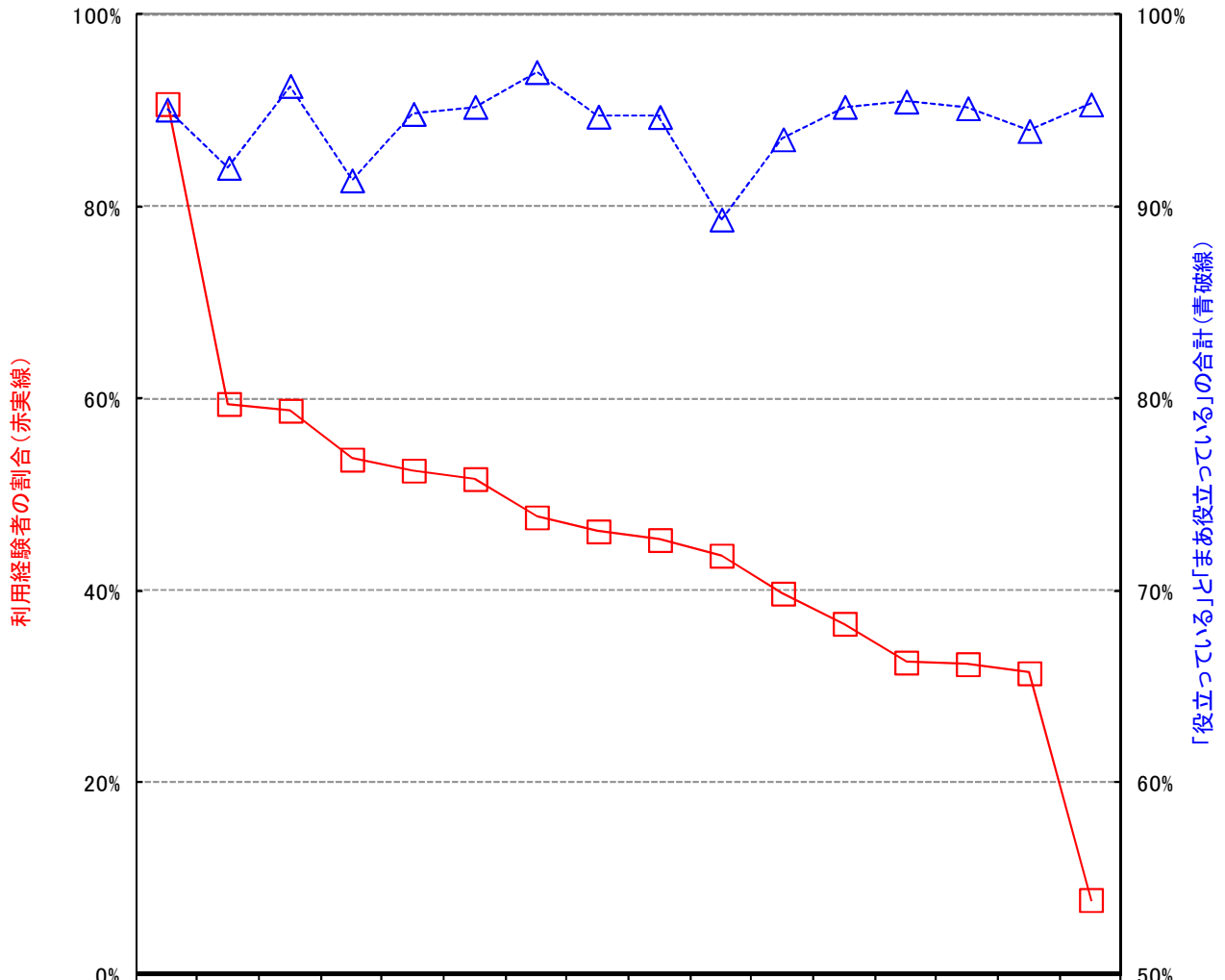


＜5-5＞学生サポート・支援制度の利用者割合と評価

■学生サポート・支援制度の利用者割合と評価の比較

- 学生サポート・支援制度の利用経験者の割合と内容評価を1つのグラフにまとめた。赤い実線が利用経験者の割合で、グラフの左側の数値軸に対応しており、青い破線は「役立っている」と「まあ役立っている」の合計で、右の数値軸に対応している。
- 利用経験者の割合を見ると、「学習支援計画書」の90.7%と、「海外研修・留学」の7.8%が突出しており、他の項目は3割から6割までの幅があった。
- 一方、評価を見るとほとんどの項目で9割以上が肯定的な評価となっており、利用経験者の割合に関わらず、各々の評価は非常に高いことがわかった。

■学生サポート・支援制度の利用者割合と評価（在学生）

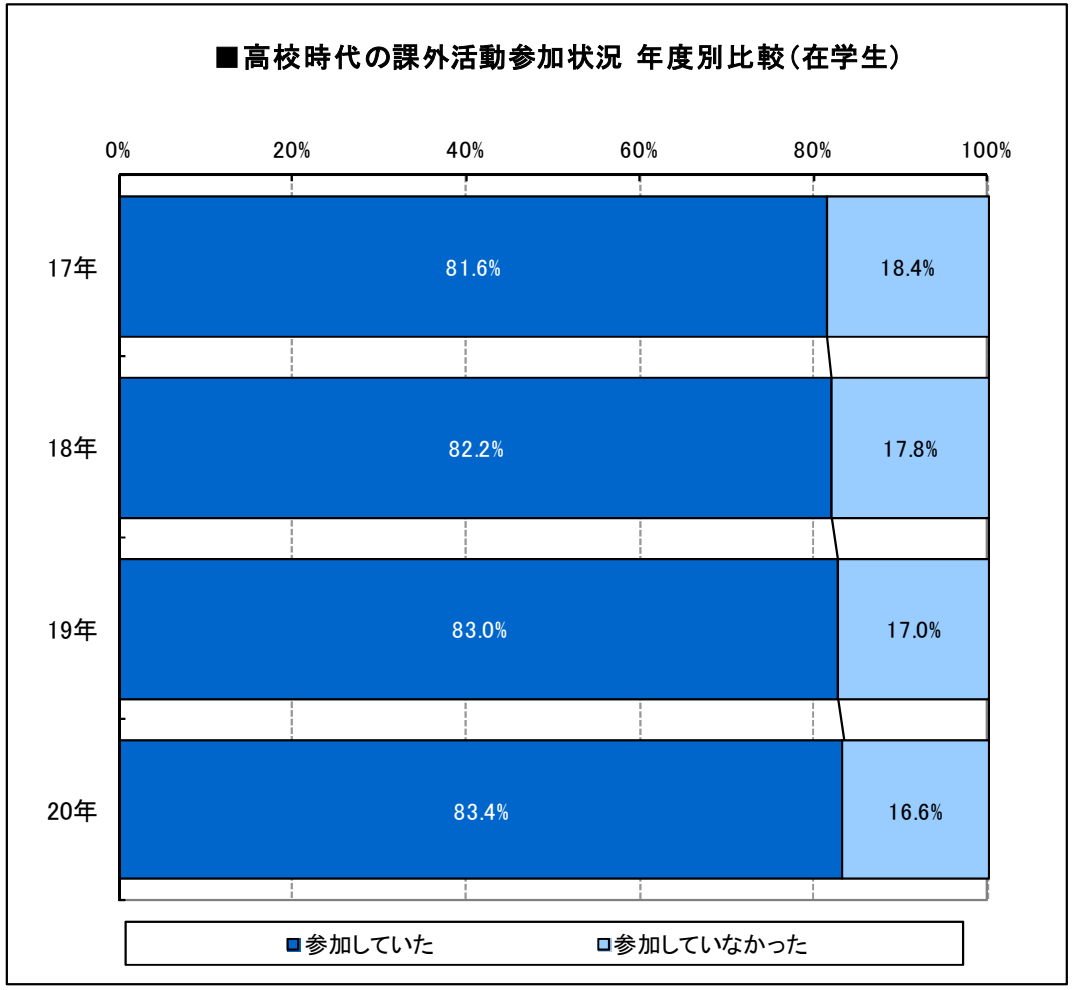


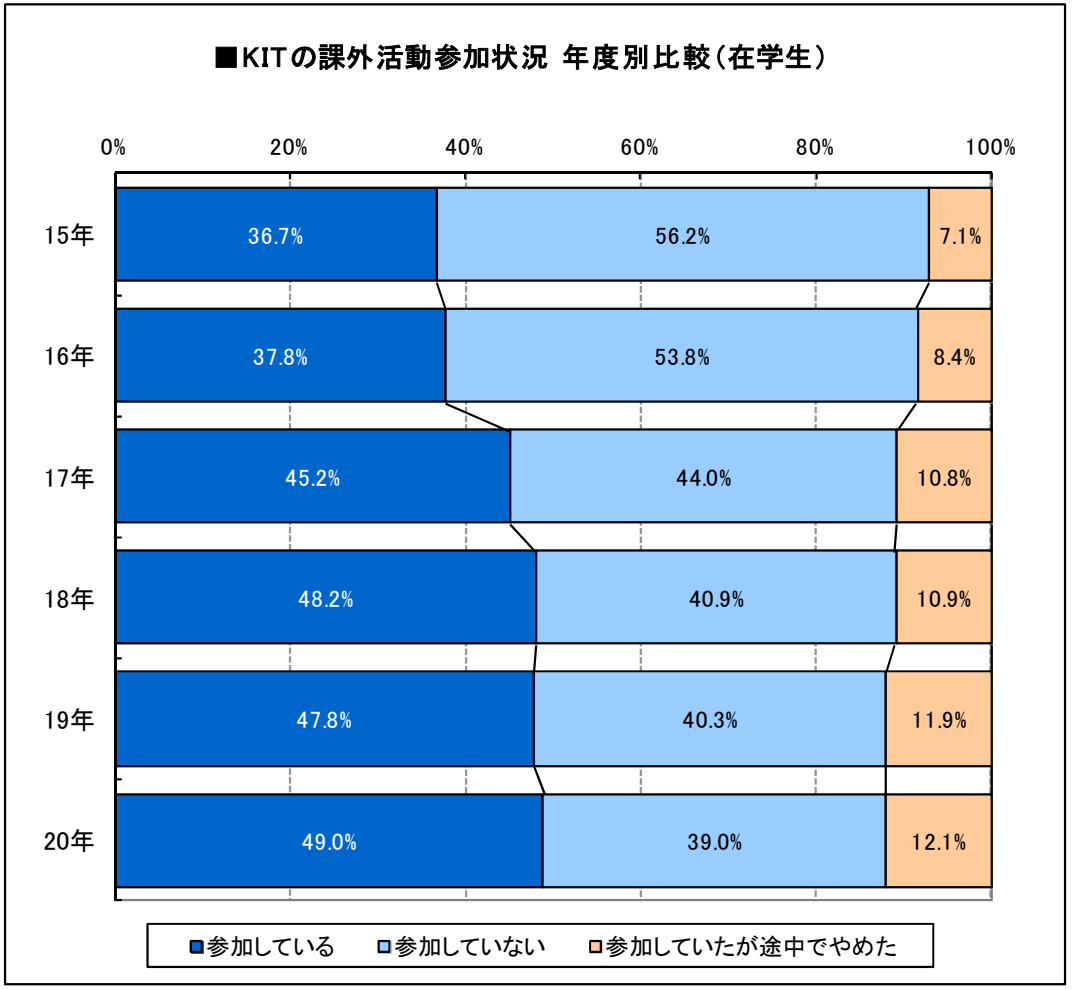
	学習支援計画書	修学アドバイザーとの面談	オフィスアワー	キャンパスノート	学生ステーション	数理工教育研究センター	進路アドバイザー(教員)との相談	修学相談室窓口	教務課窓口	学生心得(CAMPUS DIARY)	スポーツ考房	自己開発センター	基礎英語教育センター	進路開発センタースタッフとの相談	夢考房	海外研修・留学
利用者割合	90.7%	59.5%	58.8%	53.7%	52.5%	51.7%	47.7%	46.2%	45.3%	43.7%	39.7%	36.6%	32.5%	32.4%	31.4%	7.8%
評価	95.1%	92.1%	96.3%	91.4%	94.9%	95.2%	97.0%	94.7%	94.7%	89.3%	93.5%	95.2%	95.5%	95.1%	94.0%	95.3%

＜6-1＞高校時代、KITの課外活動への参加状況

■高校時代の課外活動参加状況、KITの課外活動の参加状況

- 高校時代の課外活動の参加状況は、「参加していた」が83.4％で前回を0.4ポイント上回っていた。そして、高校時代の課外活動の参加経験者はわずかずつではあるが増加傾向が続いていた。
- KITでの課外活動への参加状況は、「参加している」が49.0％、「参加していない」が39.0％、「参加していたが途中でやめた」が12.1％であり、例外はあるものの「参加している」と「参加していたが途中でやめた」が継続的に増加する傾向が続いていた。

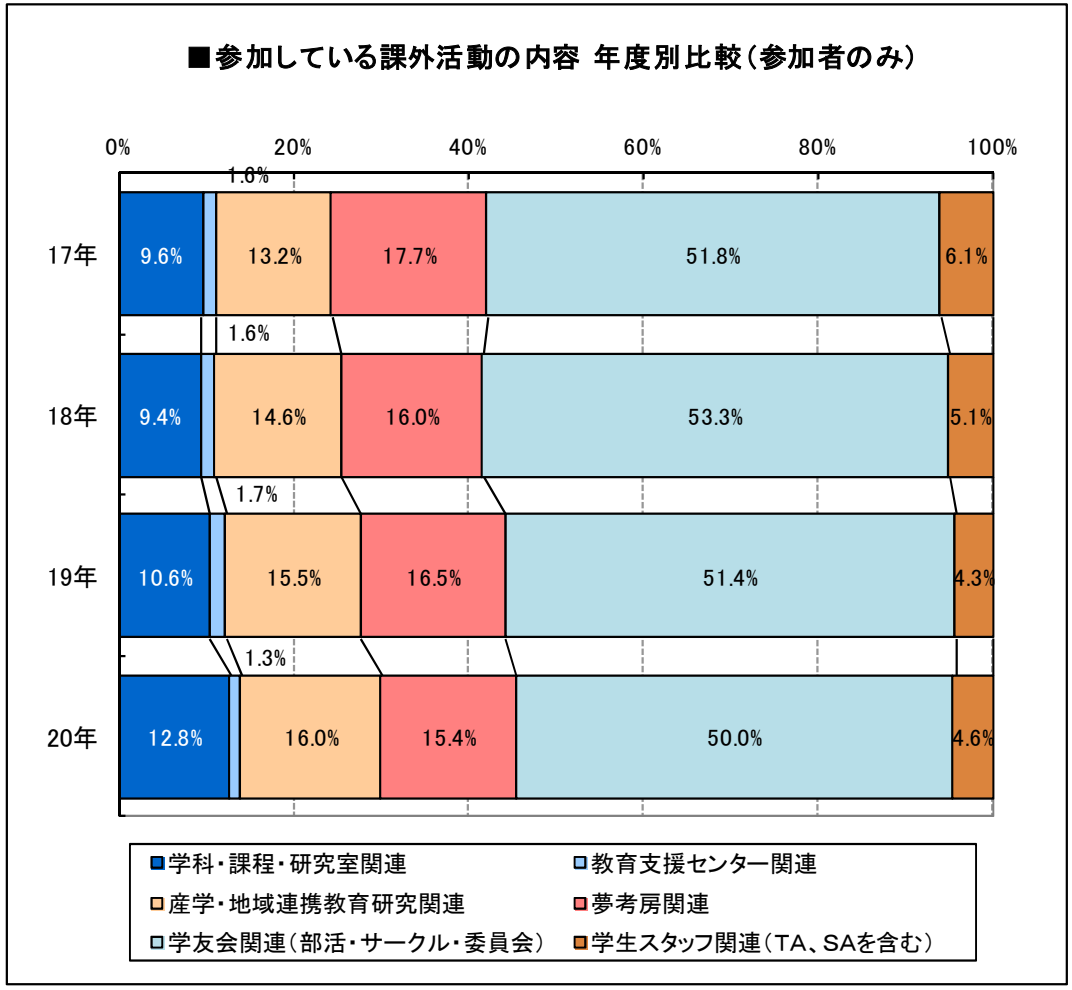




＜6-2＞課外活動の内容

■課外活動の内容

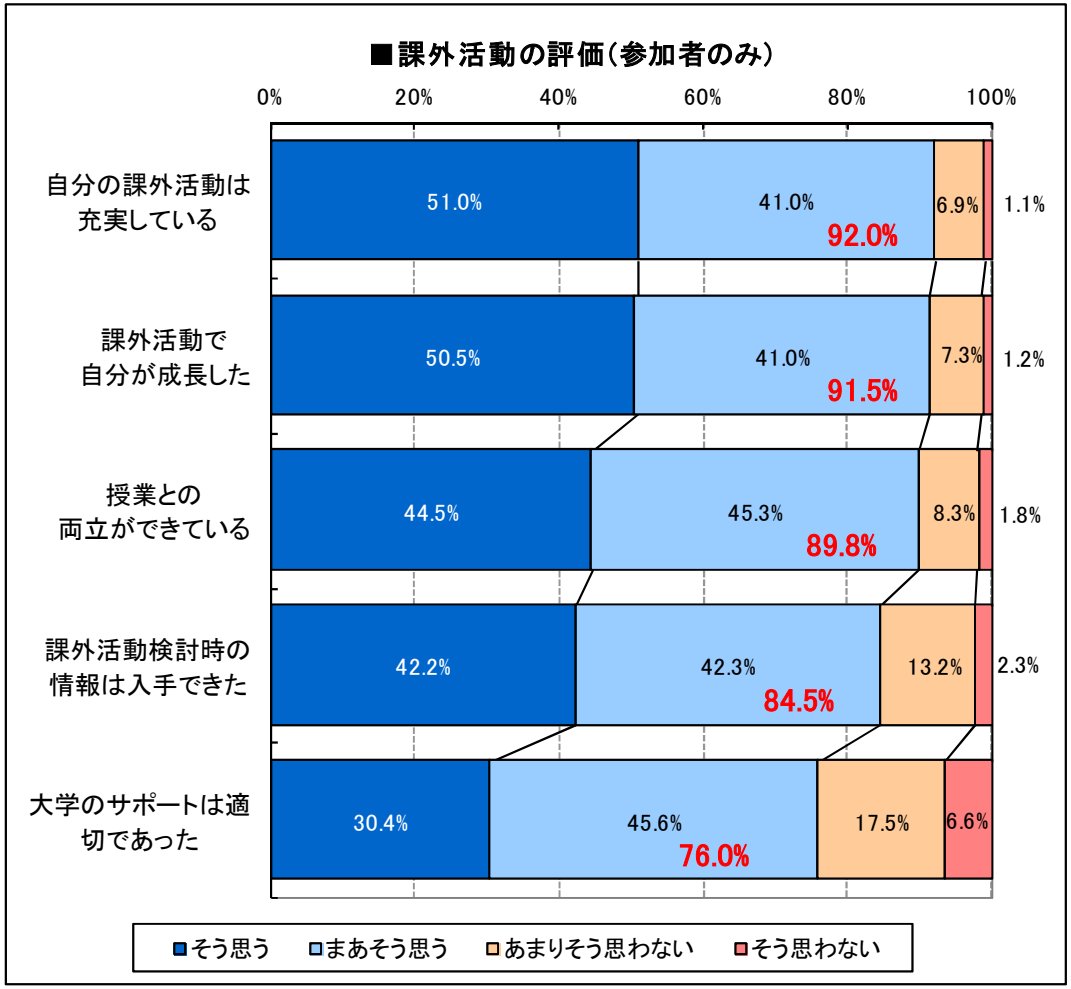
- 現在参加している課外活動の内容では「学友会関連（部活・サークル・委員会）」が50.0%と半数を占めていた。次いで、「産学・地域連携教育研究関連」が16.0%、「夢考房関連」が15.4%、「学科・課程・研究室関連」が12.8%で続いていた。
- 前回と比較しても大まかな割合は変わらなかったが、「学友会関連（部活・サークル・委員会）」が減少傾向であり、「学科・課程・研究室関連」と「産学・地域連携教育研究関連」が増加傾向となっていた。

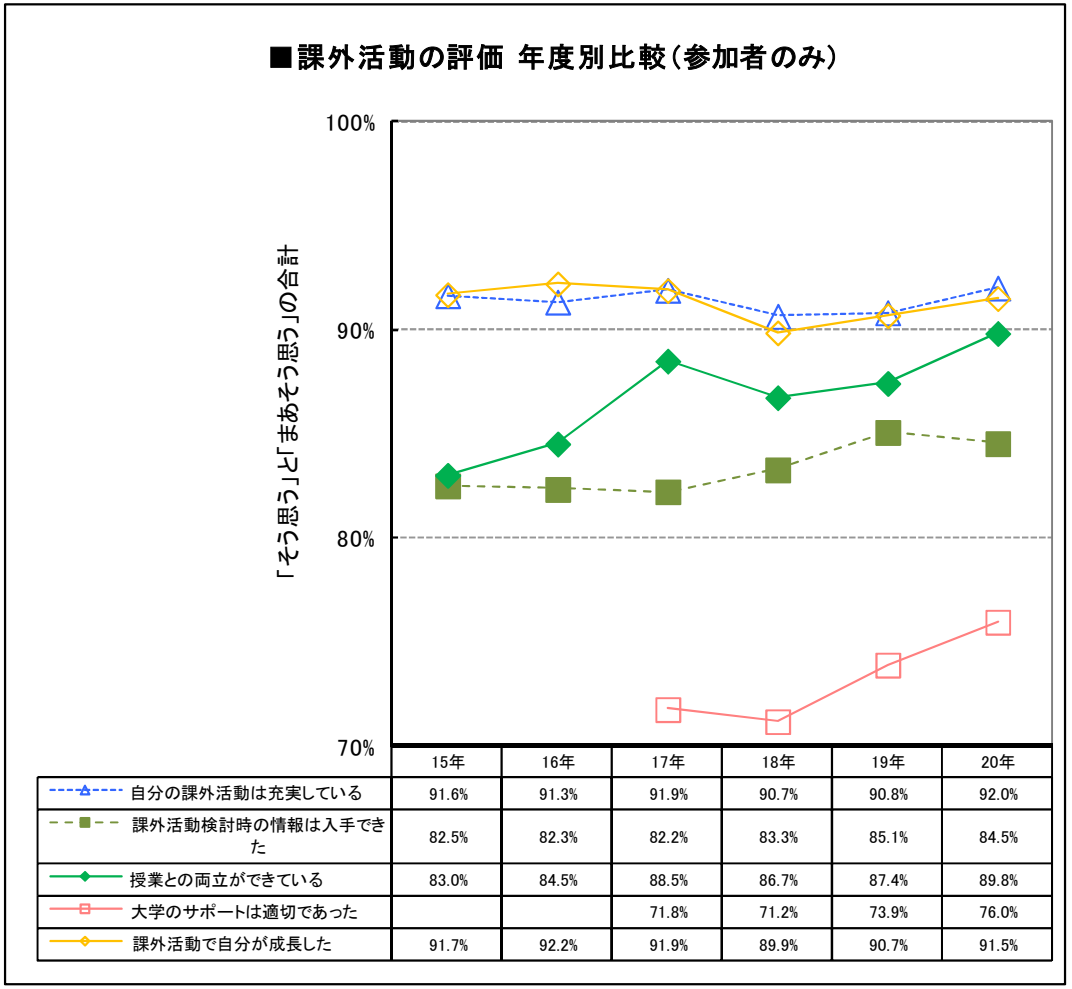


＜6-3＞課外活動の評価

■課外活動の評価　年度別比較

- 課外活動の内容の評価で最も肯定的な意見が多かったのは、「自分の課外活動は充実している」の92.0%であった。次いで、「課外活動で自分が成長した」が91.5%、「授業との両立ができている」が89.8%と評価が高く、課外活動は非常に充実しているようであった。
- 上記以外は、「課外活動検討時の情報は入手できた」では84.5%、「大学のサポートは適切であった」では76.0%が肯定的な意見であり、課外活動の周辺環境にも大きな課題はなさそうであった。
- 年度別に比較すると、「課外活動検討時の情報は入手できた」は前回よりわずかに低下していたが、他はすべて前回を上回っており、「自分の課外活動は充実している」「授業との両立ができている」「大学のサポートは適切であった」の3項目は過去最高の評価となっていた。



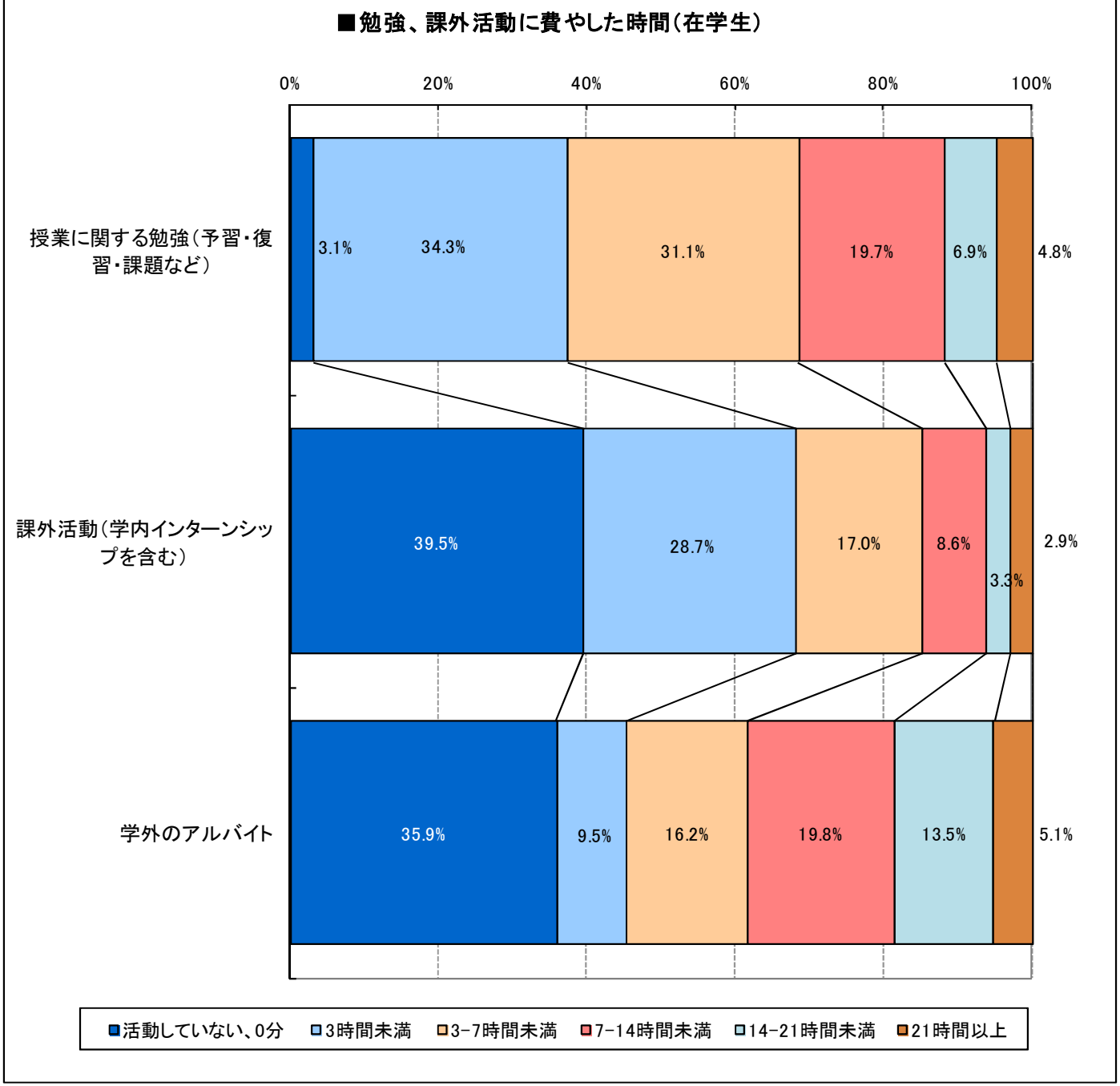


	15年	16年	17年	18年	19年	20年
自分の課外活動は充実している	91.6%	91.3%	91.9%	90.7%	90.8%	92.0%
課外活動検討時の情報は入手できた	82.5%	82.3%	82.2%	83.3%	85.1%	84.5%
授業との両立ができている	83.0%	84.5%	88.5%	86.7%	87.4%	89.8%
大学のサポートは適切であった			71.8%	71.2%	73.9%	76.0%
課外活動で自分が成長した	91.7%	92.2%	91.9%	89.9%	90.7%	91.5%

＜7-1＞勉強、課外活動に費やした時間

■勉強、課外活動に費やした時間

- 勉強、課外活動に費やした時間は、普段の1週間の生活の中で費やした時間（1週間の合計）を聞いている。
- 「授業に関する勉強（予習・復習・課題など）」では「活動していない、0分」が3.1％、「3時間未満」が34.3％、「3-7時間未満」が31.1％であった。そして、「7-14時間未満」が19.7％、「14-21時間未満」が6.9％、「21時間以上」が4.8％であり、「1日に1時間以上」の合計は31.4％であった。
- 「課外活動（学内インターンシップを含む）」では「活動していない、0分」が39.5％と非常に多かった。そして、「3時間未満」が28.7％、「3-7時間未満」が17.0％であり、「1日に1時間以上」の合計は14.8％であった。
- 「学外のアルバイト」では「活動していない、0分」が35.9％であり、「3時間未満」が9.5％、「3-7時間未満」が16.2％であり、「1日に1時間以上」の合計は38.4％であった。
- 「1日に1時間以上」の合計を3つの項目で比較すると、「学外のアルバイト」が38.4％と最も多く、「授業に関する勉強」が31.4％、「課外活動」が14.8％の順になっていた。

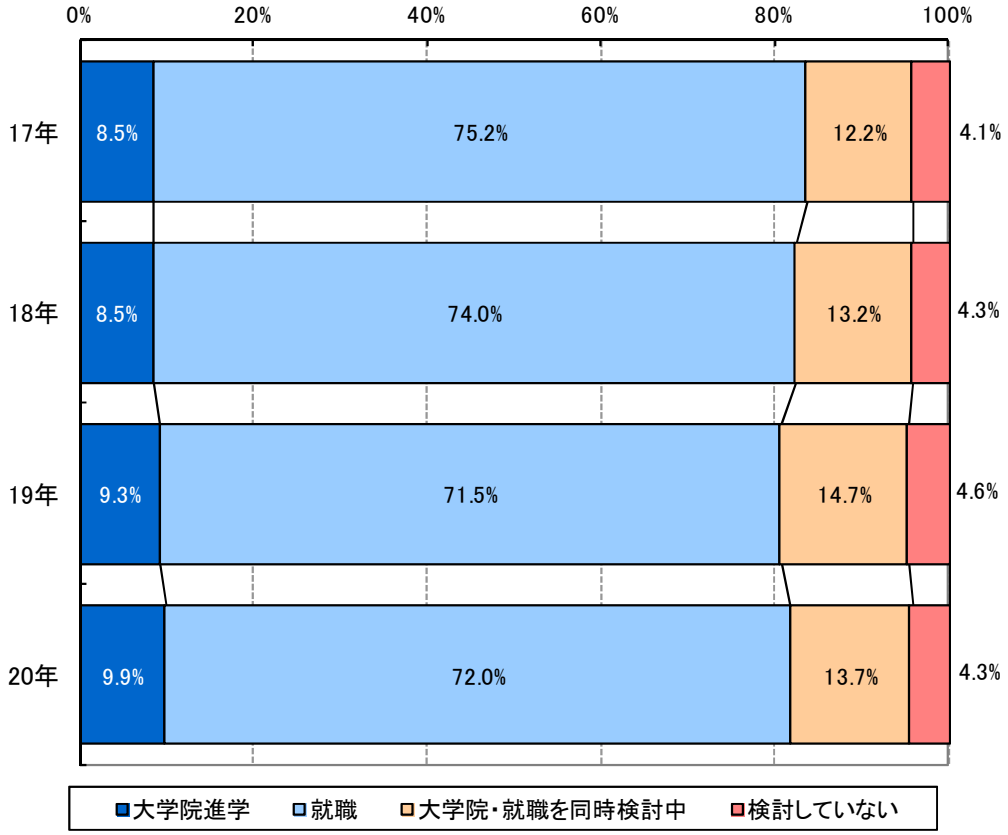


＜8-1＞大学院への進学・就職意向、情報の入手状況

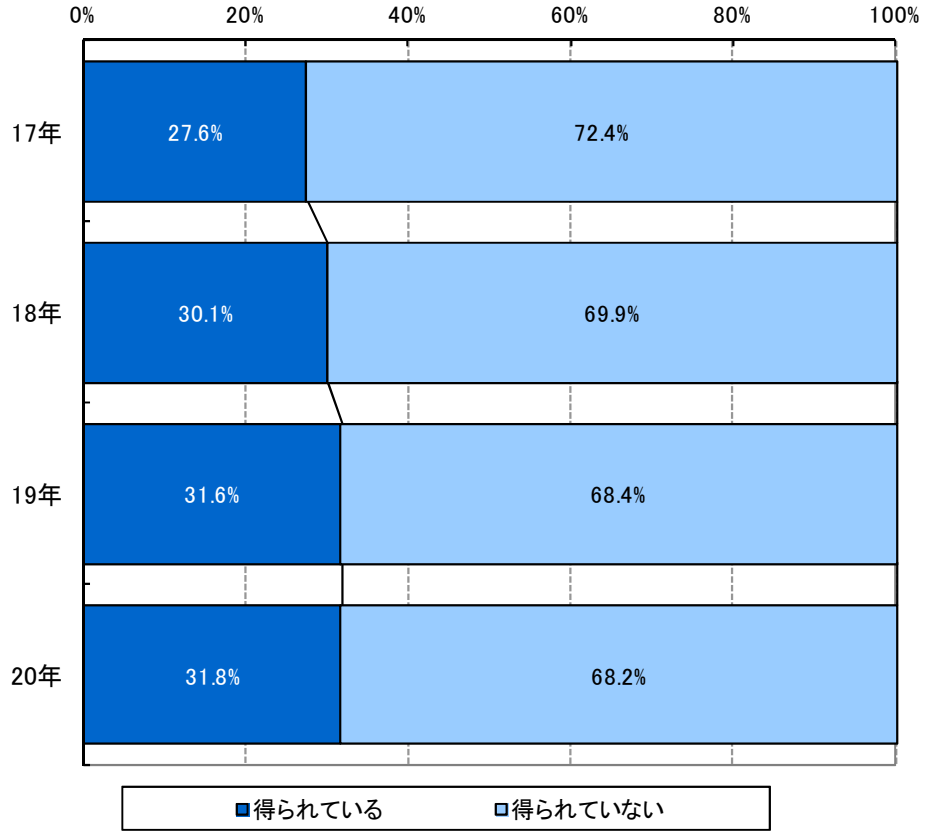
■大学院進学・就職意向、情報の入手状況

- 「大学院進学・就職意向」は「新入生」にも聞いているが、それも含めて全体の割合を見ると、「就職」が72.0%と最も多く、次いで、「大学院・就職を同時検討中」が13.7%、「大学院進学」が9.9%、「検討していない」が4.3%となっていた。年度別に比較すると、大まかな割合は変わっていなかったが、「大学院進学」の増加傾向がわずかずつではあるが続いていた。
- 「大学院進学の情報は得られていますか？」という質問には、「得られている」が31.8%、「得られていない」が68.2%となっていた。年度別に比較すると、こちらも大きな変化ではなかったが、「得られている」は増加傾向が続いており、17年と比べて4.2ポイントの増加となっていた。ただし、「得られていない」が約7割を占めていることは変わらず、情報不足は続いていると言える。

■大学院進学・就職意向 年度別比較（新入生・在学生）



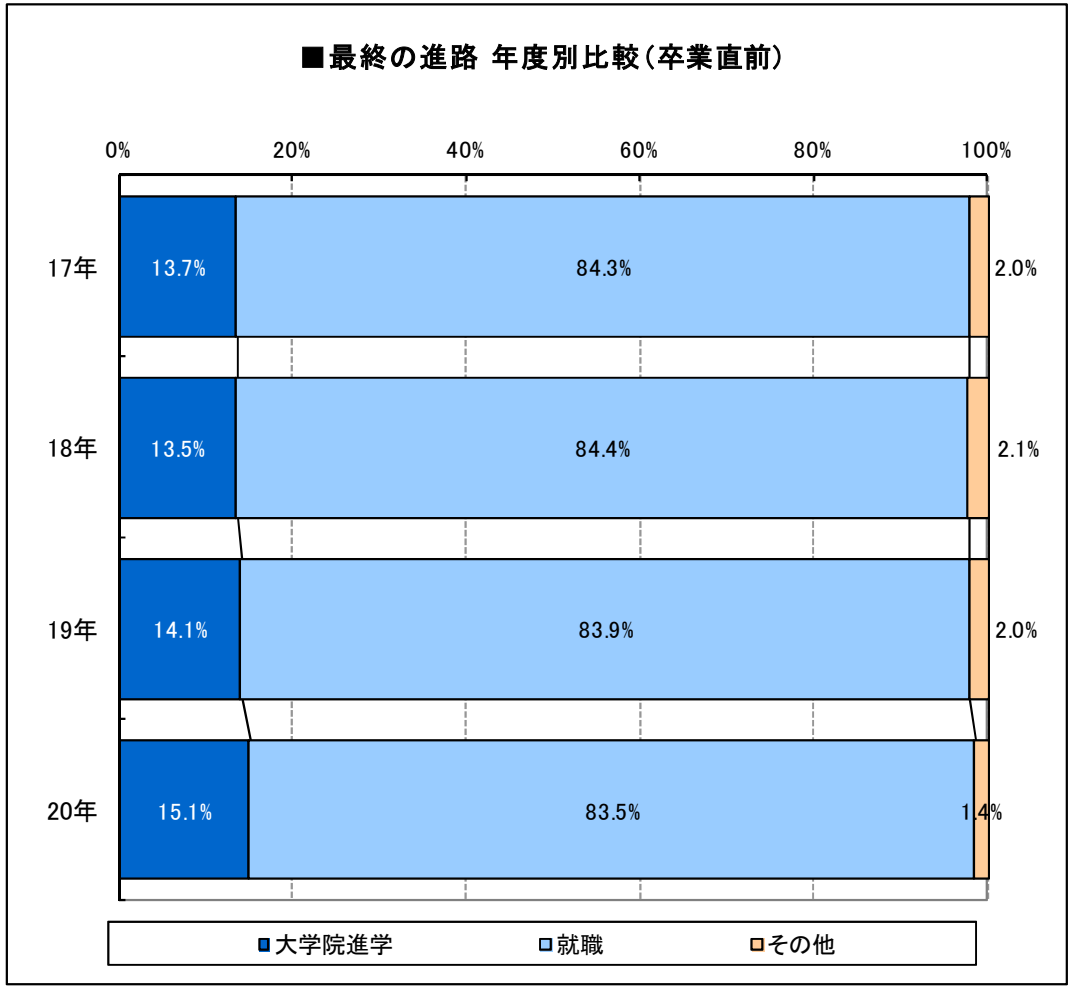
■大学院進学の情報入手状況 年度別比較（在学生）



＜8-2＞最終の進路

■最終の進路

● 「卒業直前」の学生に「最終の進路」を聞いたところ、「大学院進学」が15.1%、「就職」が83.5%、「その他」が1.4%であった。そして、年度別に比較すると、大きな変化ではなかったが、18年から「大学院進学」が継続的に増加し、「就職」が減少する傾向が続いていた。

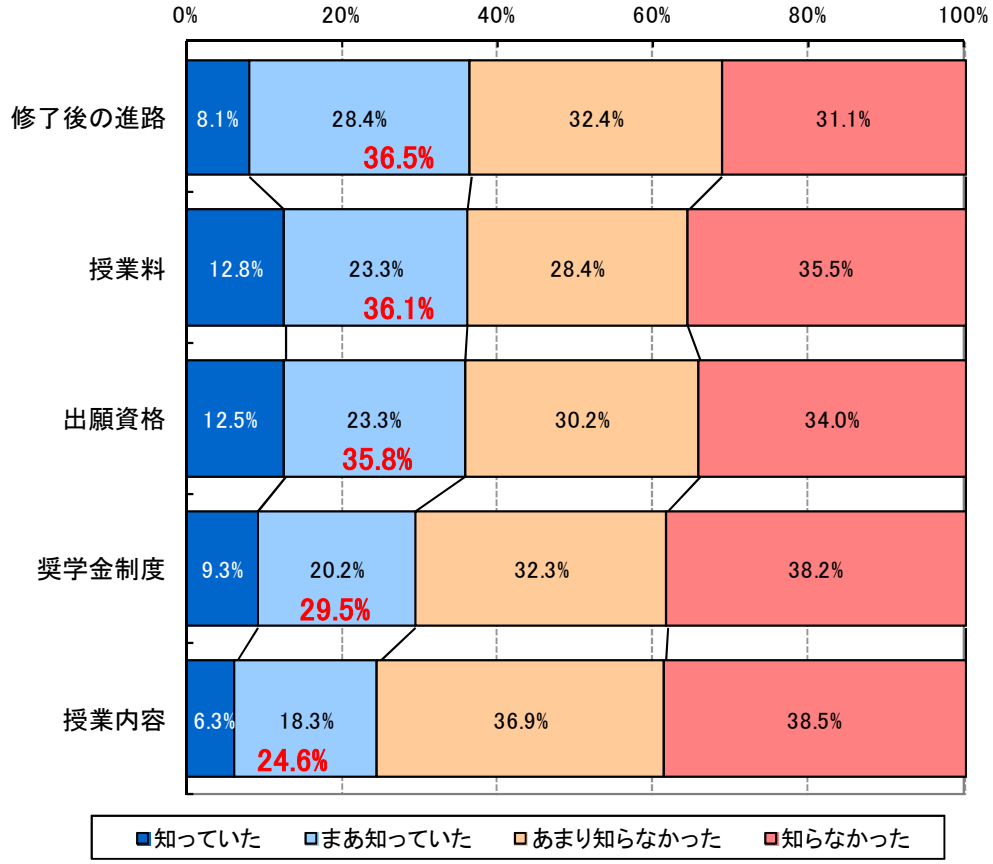


＜8-3＞大学院情報の認知状況

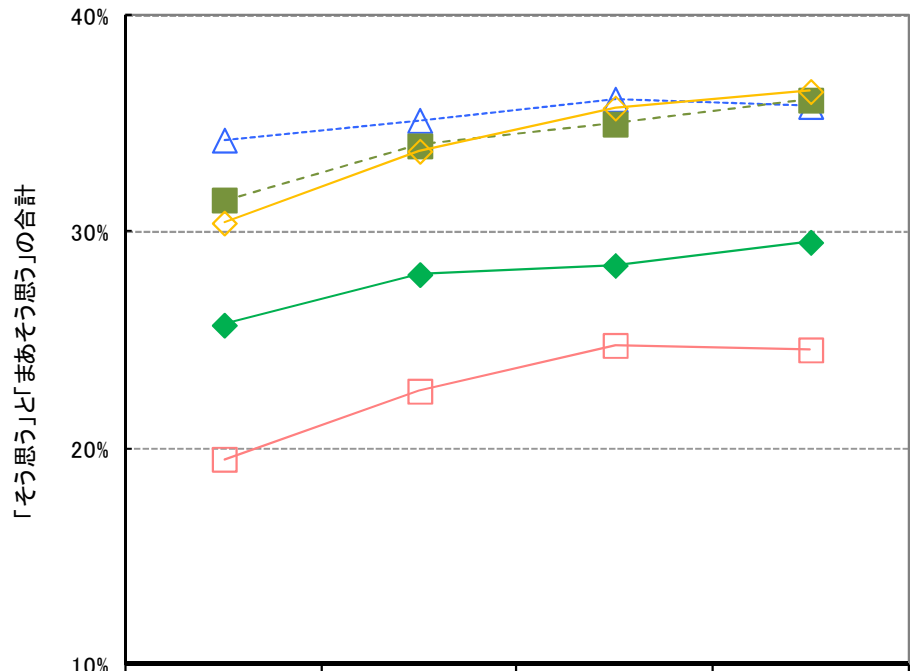
■大学院情報の認知状況

- 「大学院進学に関する情報や現状の認知状況」で肯定的な意見の合計が最も多かったのは「修了後の進路」であったが、認知度は36.5%と4割に及ばなかった。次いで、「授業料」が36.1%、「出願資格」が35.8%となっており、ここまでの3項目の認知度は似た傾向となっていた。そして、「奨学金制度」が29.5%、「授業内容」が24.6%であり、これらの項目についての情報はやや伝わっていないようであった。
- 肯定的な意見の合計で年度別に比較したところ、「授業料」「奨学金制度」「修了後の進路」の認知度は前回を上回っており、いずれも過去最高となっていた。一方、「出願資格」「授業内容」は前回を下回っていたが、全体的に変化はわずかであった。

■大学院情報の認知状況（在学生）



■大学院情報の認知状況 年度別比較（在学生）



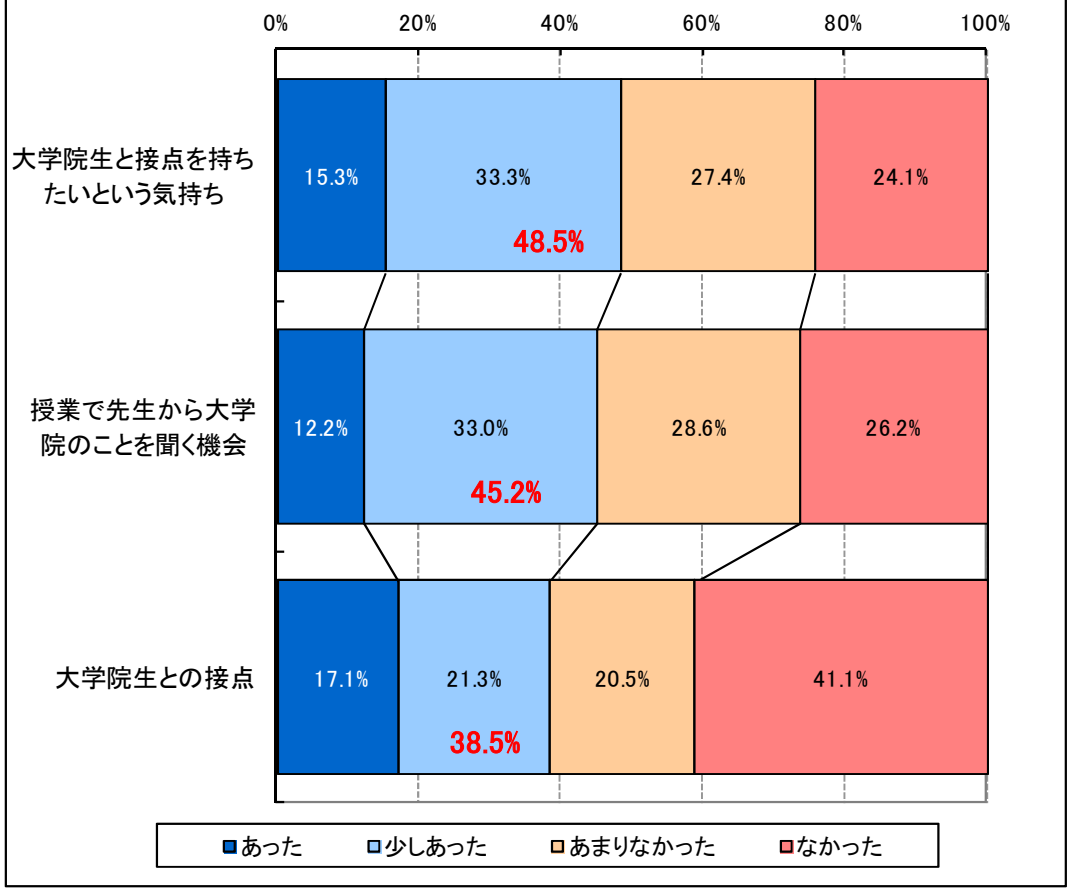
	17年	18年	19年	20年
出願資格	34.3%	35.2%	36.1%	35.8%
授業料	31.5%	34.0%	35.0%	36.1%
奨学金制度	25.7%	28.0%	28.5%	29.5%
授業内容	19.5%	22.7%	24.8%	24.6%
修了後の進路	30.4%	33.7%	35.7%	36.5%

＜8-4＞大学院との接点

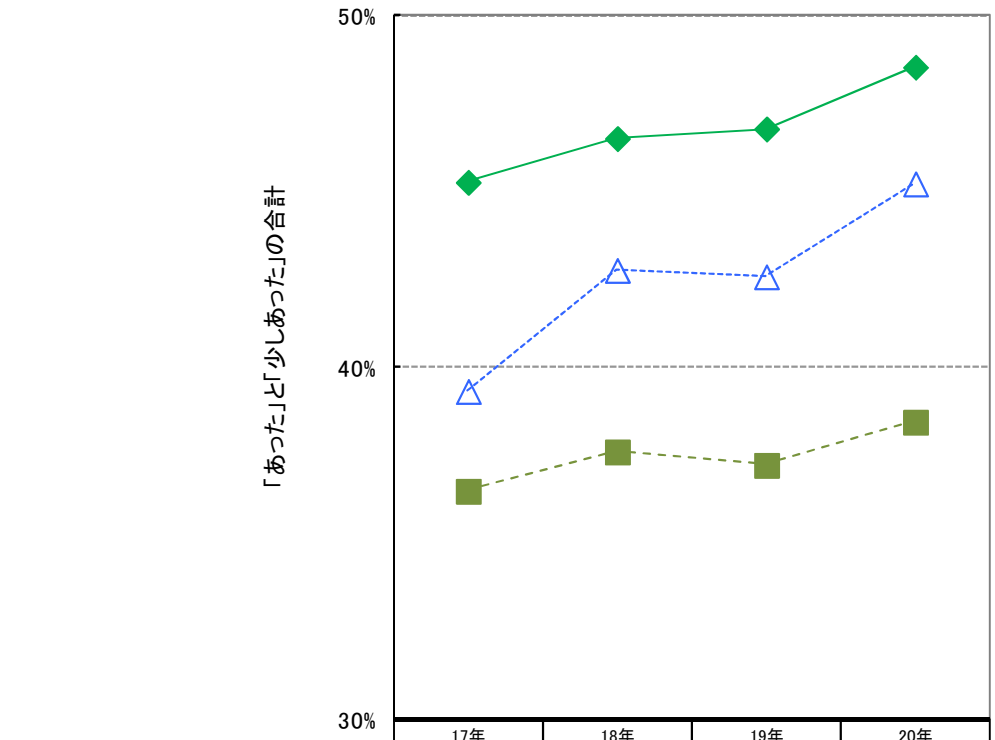
■大学院との接点

- 大学院との接点として3つの項目を聞いているが、肯定的な意見の合計が最も多かったのは「大学院生と接点を持ちたいという気持ち」の48.5%であった。これは要望を聞いた質問であったが、約半数が大学院生との接点を持ちたいと思っていることがわかった。残りの2項目は接点の有無となるが、「授業で先生から大学院のことを聞く機会」が45.2%、「大学院生との接点」が38.5%であり、4割前後は何らかの接点があったようである。
- 年度別に比較すると、すべての項目が前回を上回って過去最高となっていた。まず、「大学院生と接点を持ちたいという気持ち」は17年から継続的に増加しており、この要望は強くなっていると言える。そして、「授業で先生から大学院のことを聞く機会」と「大学院生との接点」は18年から19年にかけてはわずかに減少していたが、今回は再び増加に転じており、機会としては増加しているようであった。

■大学院との接点（在学生）



■大学院との接点 年度別比較（在学生）

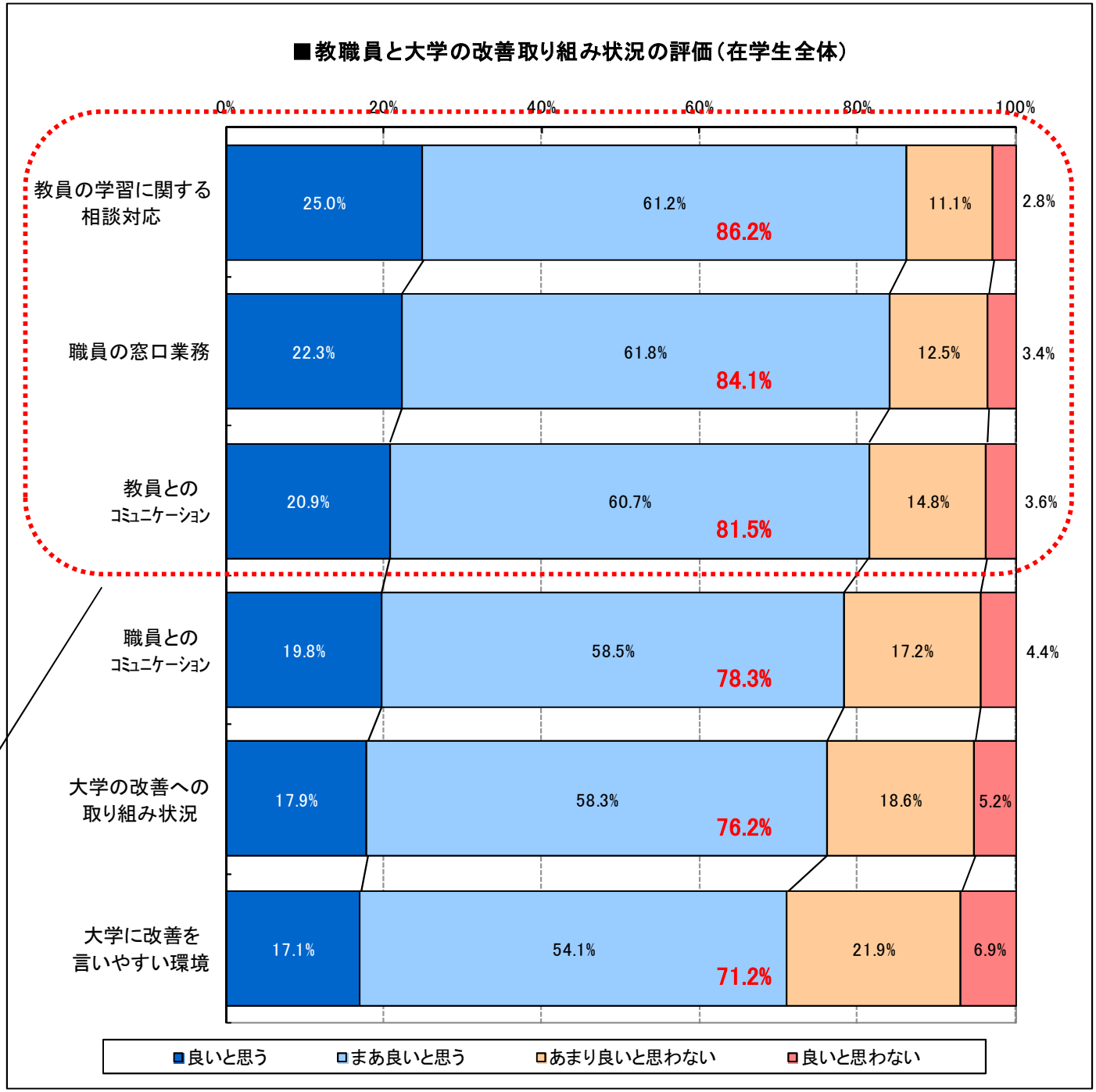


	17年	18年	19年	20年
授業で先生から大学院のことを聞く機会	39.3%	42.8%	42.6%	45.2%
大学院生との接点	36.5%	37.6%	37.2%	38.5%
大学院生と接点を持ちたいという気持ち	45.3%	46.5%	46.8%	48.5%

＜9-1＞教職員と大学の改善取り組み状況の評価

■教職員と大学の改善取り組み状況の評価

- 教職員と大学の改善取り組み状況の評価を、「良いと思う」と「まあ良いと思う」の合計で比較したところ、「教員の学習に関する相談対応」が86.2%で最も高評価となっていた。次いで、「職員の窓口業務」が84.1%、「教員とのコミュニケーション」が81.5%となっており、ここまでの3項目は肯定的な評価が8割以上となっていた。
- 一方、最も評価が低かったのは「大学に改善を言いやすい環境」であったが、肯定的な意見は71.2%であり、それほど厳しい評価ではなかった。

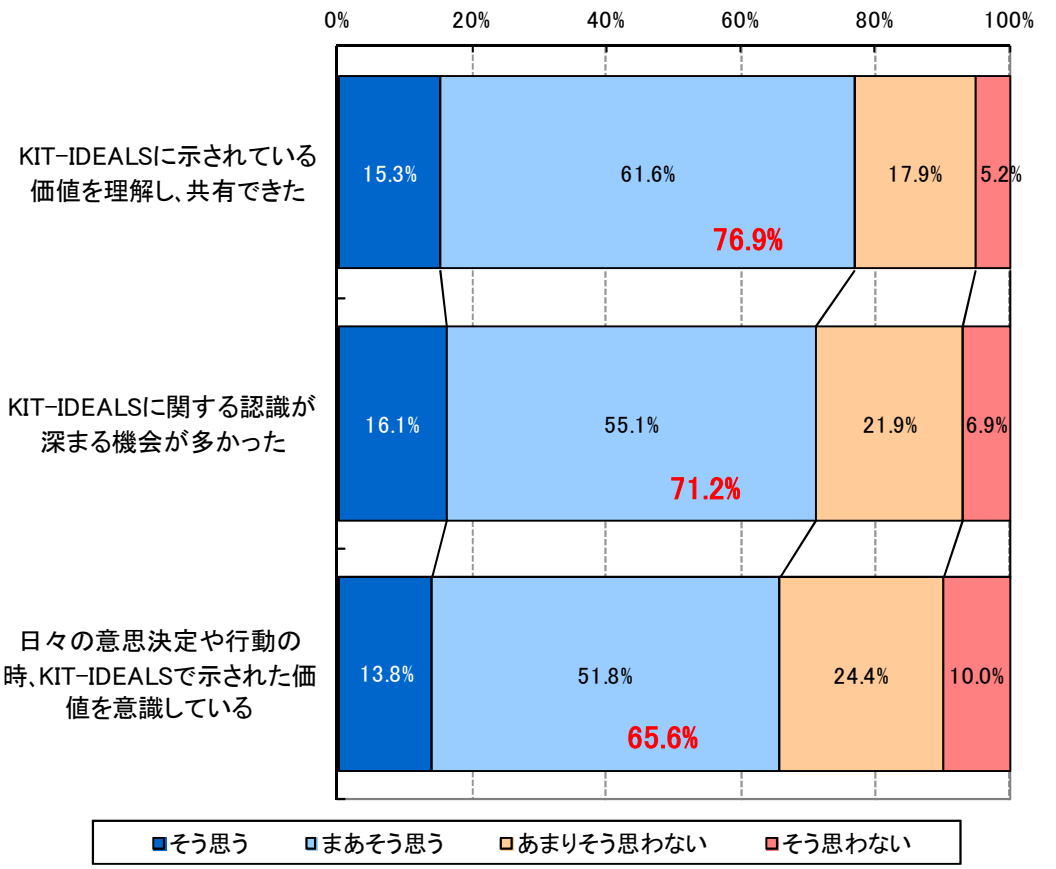


＜10-1＞KIT-IDEALSに関する意識

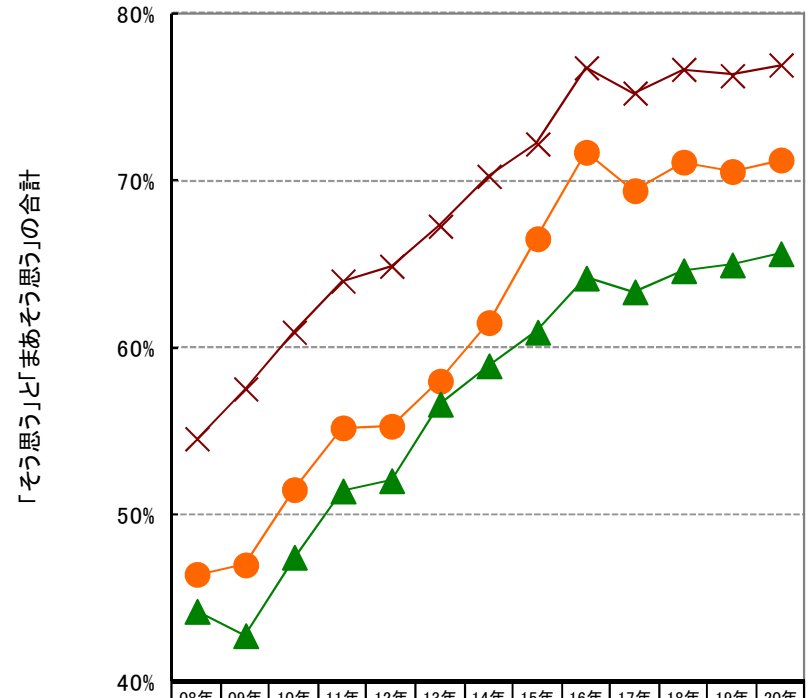
■KIT-IDEALSに関する意識、年度別比較

- KIT-IDEALSに関する意識の肯定的な意見の合計が最も多かったのは「KIT-IDEALSに示されている価値を理解し、共有できた」の76.9%であり、「KIT-IDEALSに関する認識が深まる機会が多かった」が71.2%、「日々の意思決定や行動の時、KIT-IDEALSで示された価値を意識している」が65.6%となっていた。
- KIT-IDEALSに関する意識の肯定的な意見の合計を年度別に比較すると、いずれもわずかではあるが前回を上回っており、「KIT-IDEALSに示されている価値を理解し、共有できた」と「日々の意思決定や行動の時、KIT-IDEALSで示された価値を意識している」は過去最高となっていた。

■KIT-IDEALSに関する意識（在学生全体）



■KIT-IDEALSに関する意識 年度別比較（在学生全体）

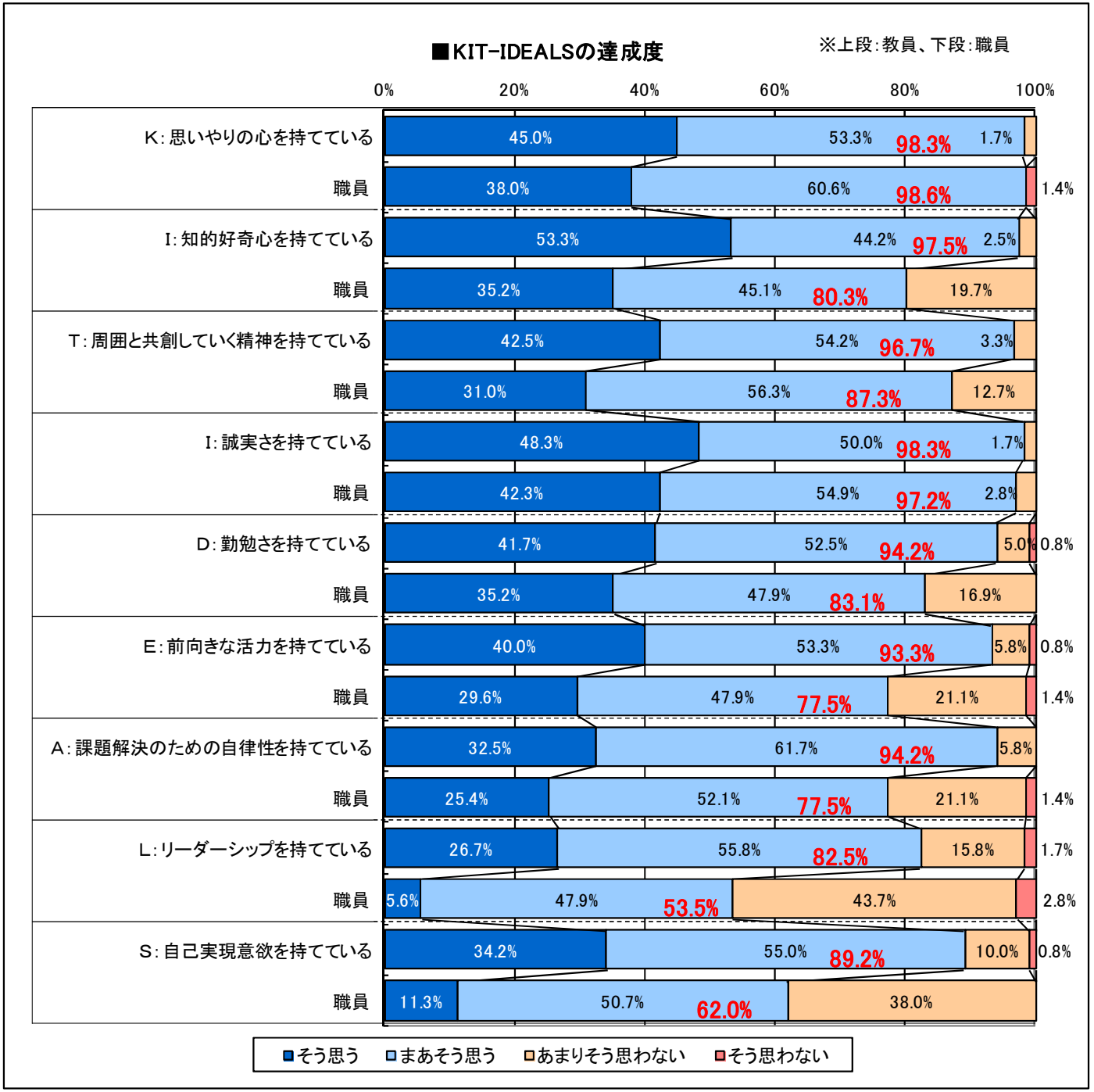


	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
KIT-IDEALSに示されている価値を理解し、共有できた	54.6%	57.5%	60.9%	64.0%	64.9%	67.3%	70.2%	72.2%	76.7%	75.2%	76.6%	76.3%	76.9%
KIT-IDEALSに関する認識が深まる機会が多かった	46.4%	47.0%	51.5%	55.2%	55.3%	58.0%	61.5%	66.5%	71.7%	69.4%	71.1%	70.5%	71.2%
日々の意思決定や行動の時、KIT-IDEALSで示された価値を意識している	44.2%	42.8%	47.5%	51.4%	52.0%	56.6%	58.9%	60.9%	64.2%	63.3%	64.6%	65.0%	65.6%

＜10-2＞教職員のKIT-IDEALSの達成度

■教職員のKIT-IDEALSの達成度

- 「教員」と「職員」には「KIT-IDEALS」の9項目の達成度を聞いている。両者を比較すると、「教員」は全項目で肯定的な意見が8割を超えており、達成度が高かった。一方、「職員」の達成度はほとんどの項目で「教員」を下回っており、やや低いものも見られた。
- 「教員」の肯定的な意見の合計を見たところ、「L:リーダーシップを持てている」が82.5%、「S:自己実現意欲を持てている」が89.2%となっており、この2項目だけが9割に満たなかった。そして、最も多かったのは「K:思いやりの心を持てている」と「I:誠実さを持てている」であり、いずれも98.3%であった。
- 「職員」の「K:思いやりの心を持てている」は98.6%と、唯一「教員」を上回っていた。その他の項目はすべて「教員」を下回り、特に低かったのは「L:リーダーシップを持てている」の53.5%と「S:自己実現意欲を持てている」の62.0%で、「E:前向きな活力を持てている」と「A:課題解決のための自律性を持てている」も77.5%とやや低かった。

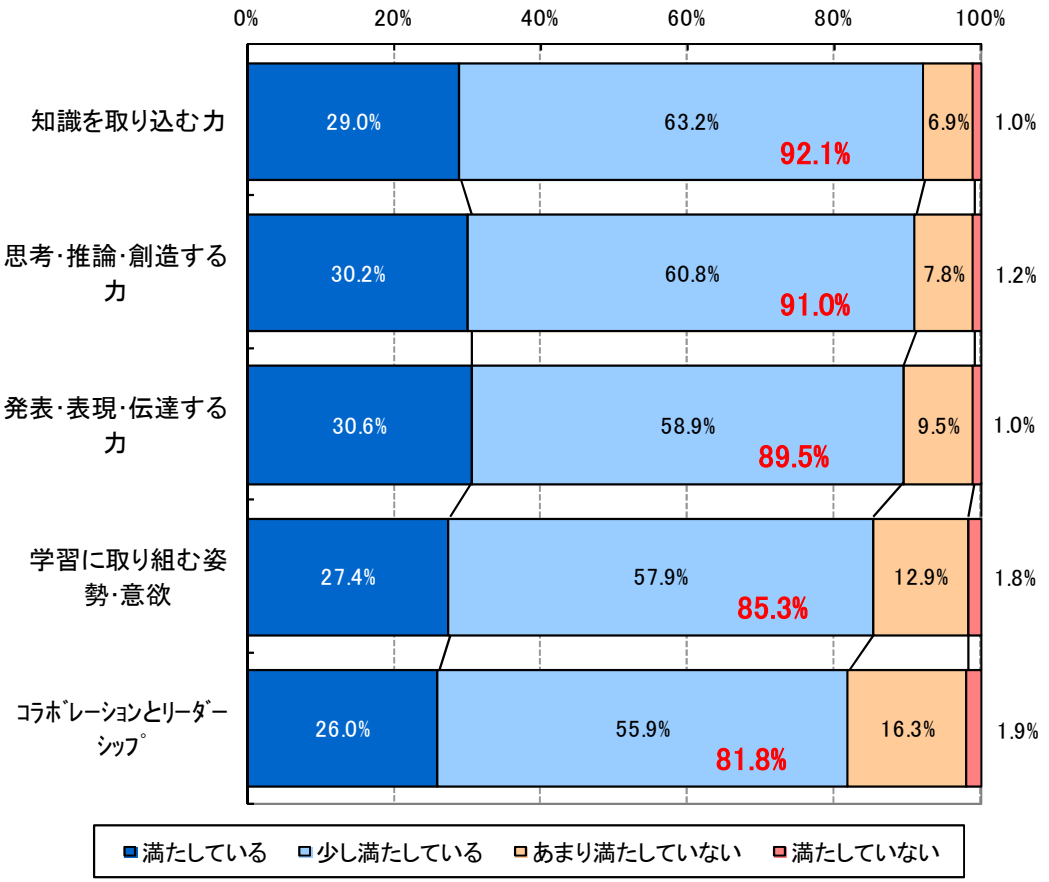


＜11-1＞卒業時の能力

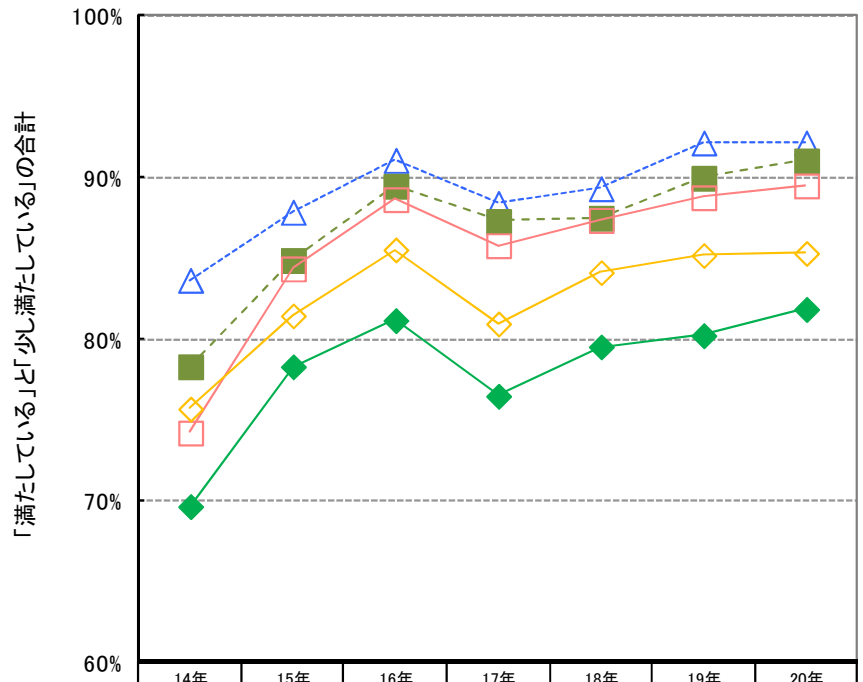
■卒業時の能力　年度別比較

- 「卒業・修了直前」と「卒業・修了生」の卒業時の能力の自己評価を、「満たしている」と「少し満たしている」の肯定的な意見の合計で比較したところ、「知識を取り込む力」が92.1%と最も多く、「思考・推論・創造する力」が91.0%、「発表・表現・伝達する力」が89.5%で続いていた。一方、最も少なかったのは「コラボレーションとリーダーシップ」の81.8%であった。
- 年度別に比較したところ、「知識を取り込む力」は前回とまったく同じであったが、他の項目はすべて17年から継続的に向上しており、今回はいずれも過去最高の自己評価となっていた。

■卒業時の能力（卒業・修了直前、卒業・修了生）



■卒業時の能力 年度別比較（卒業・修了直前、卒業・修了生）



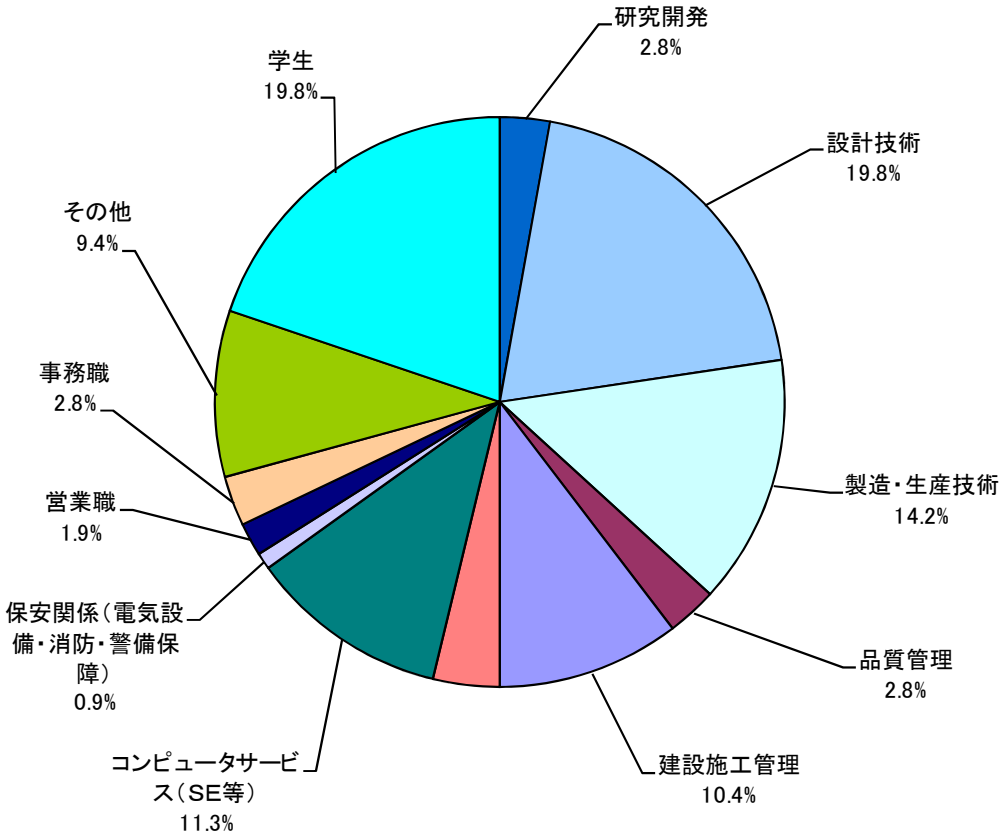
	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
知識を取り込む力	83.6%	87.8%	91.1%	88.4%	89.3%	92.1%	92.1%
思考・推論・創造する力	78.3%	84.9%	89.5%	87.3%	87.5%	89.9%	91.0%
コラボレーションとリーダーシップ	69.7%	78.3%	81.2%	76.5%	79.5%	80.2%	81.8%
発表・表現・伝達する力	74.2%	84.3%	88.6%	85.8%	87.3%	88.7%	89.5%
学習に取り組む姿勢・意欲	75.7%	81.4%	85.5%	80.9%	84.1%	85.2%	85.3%

＜12-1＞卒業・修了生の基本属性

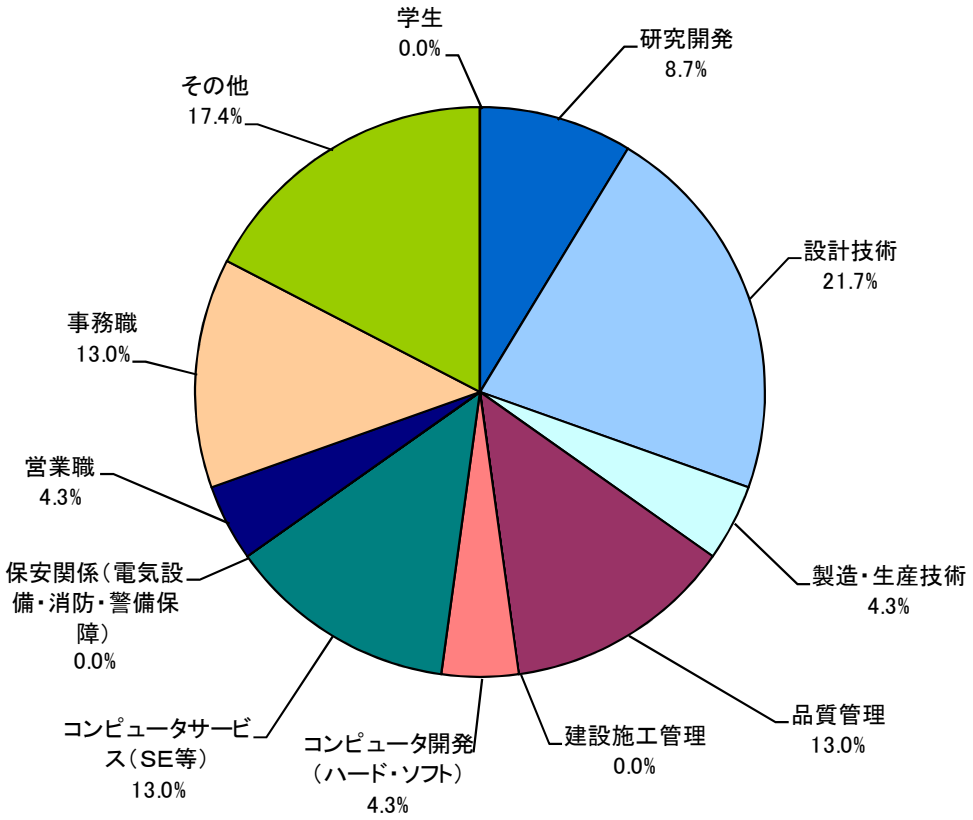
■現在の職種

- 卒業生の職種は、「設計技術」と「学生」が19.8%で最も多く、「製造・生産技術」が14.2%、「コンピュータサービス(SE等)」が11.3%、「建設施工管理」が10.4%で続いていた。
- 修了生の職種は、「設計技術」が21.7%で最も多く、「その他」が17.4%で続いており、次いで「品質管理」「コンピュータサービス(SE等)」「事務職」がいずれも13.0%であった。

■卒業生の職種

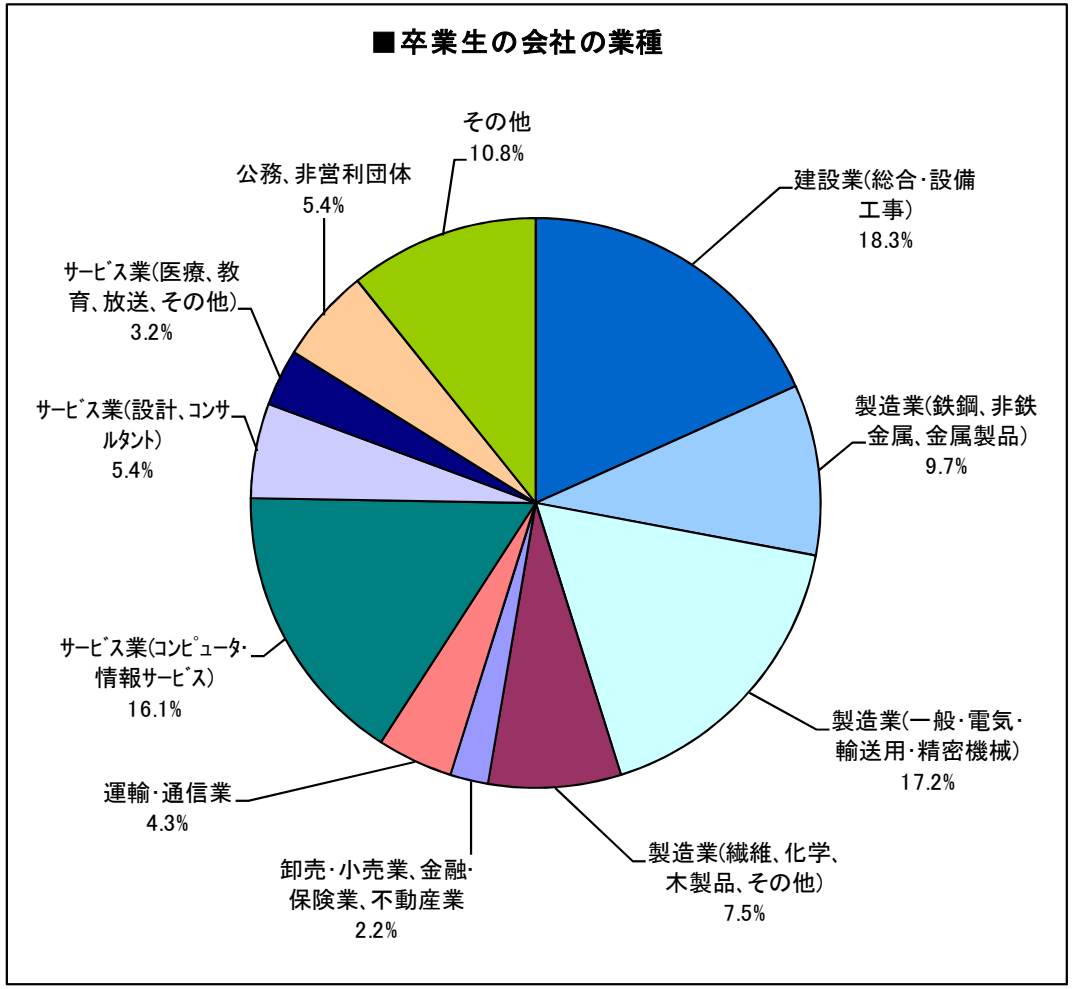


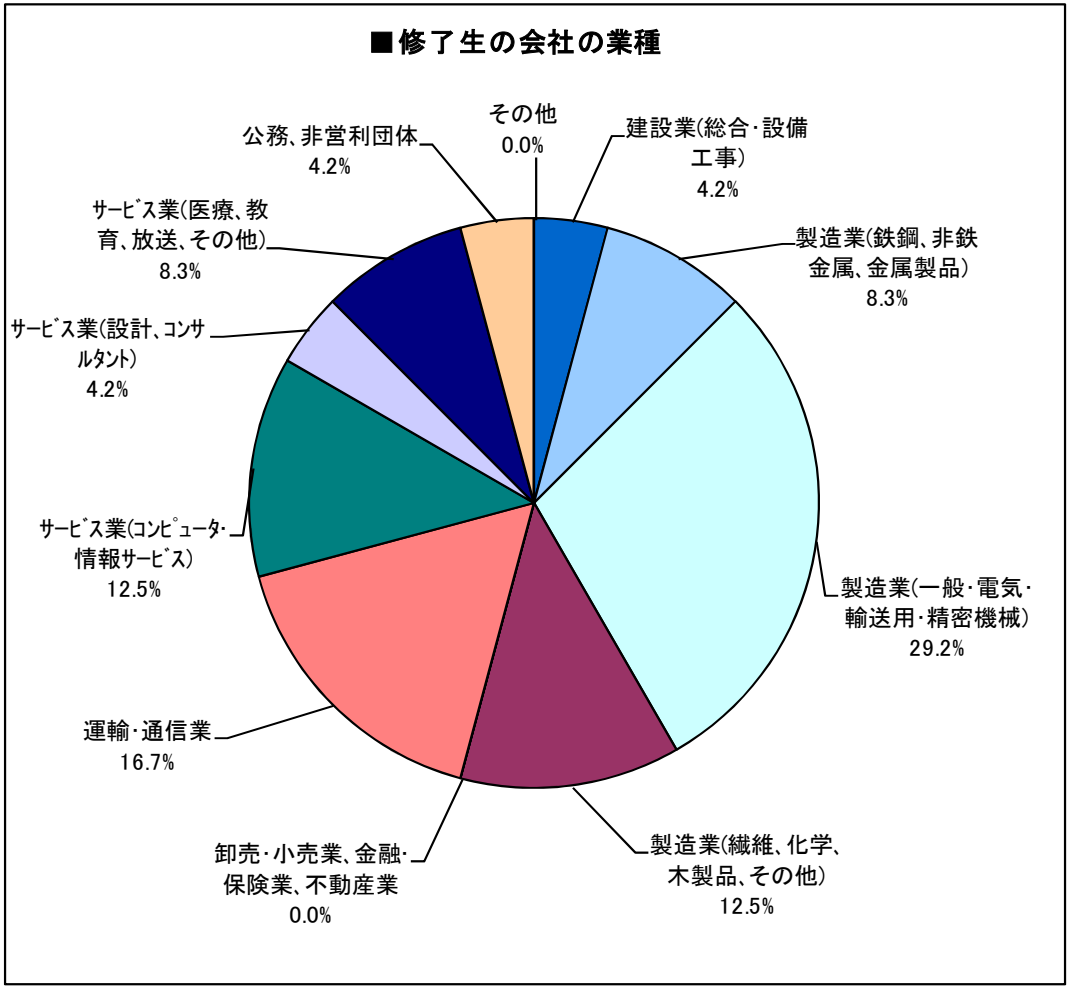
■修了生の職種



■現在の会社の業種

- 卒業生の会社の業種は、「建設業（総合・設備工事）」が18.3%で最も多く、続いて「製造業（一般・電気・輸送用・精密機械）」が17.2%、「サービス業（コンピュータ・情報サービス）」が16.1%、「その他」が10.8%、「製造業（鉄鋼、非鉄金属、金属製品）」が9.7%となっていた。
- 修了生では「製造業（一般・電気・輸送用・精密機械）」が29.2%で最も多く、続いて「運輸・通信業」が16.7%、「製造業（繊維、化学、木製品、その他）」と「サービス業（コンピュータ・情報サービス）」が12.5%となっていた。

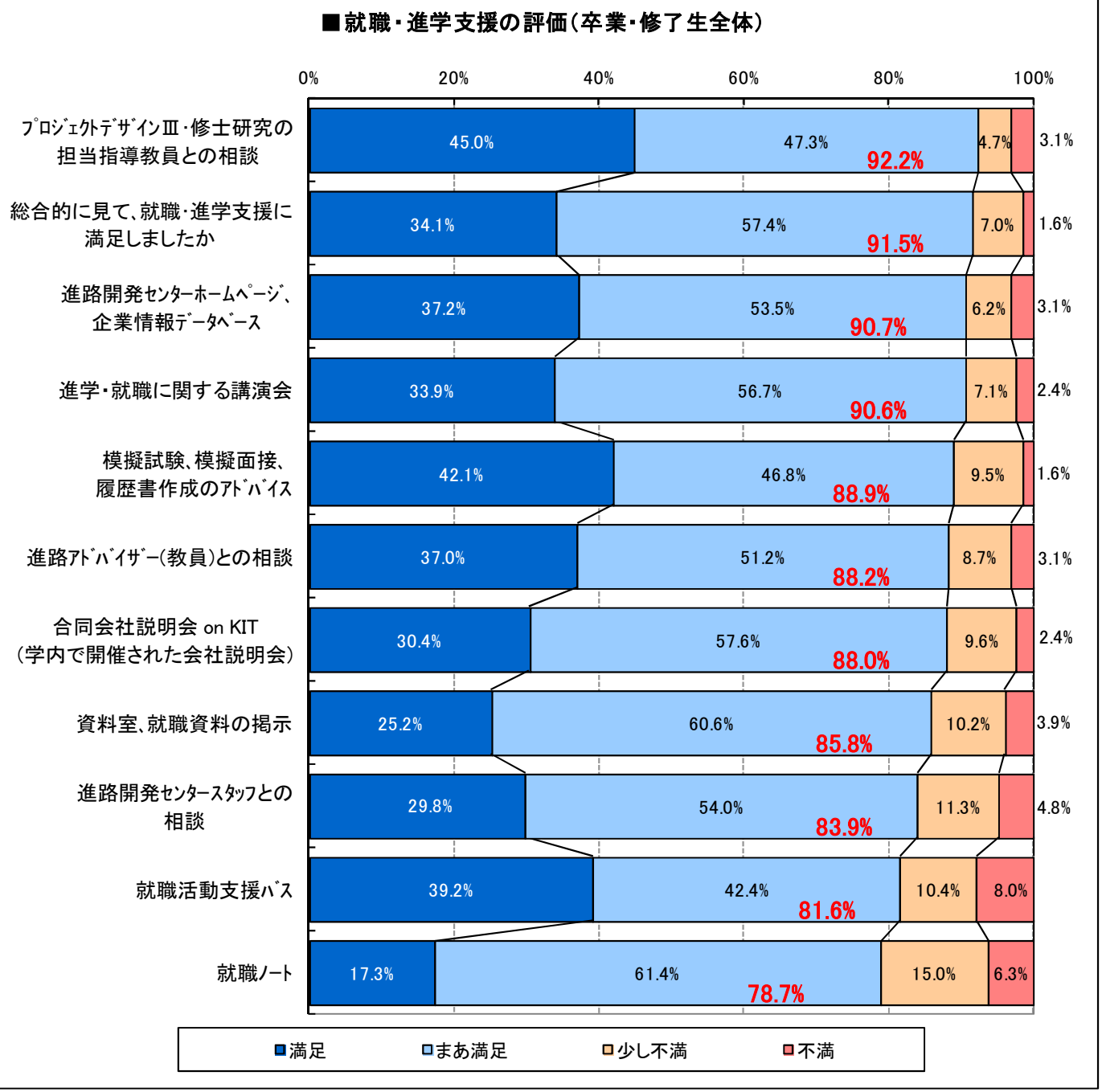




＜12-2＞就職・進学支援の評価

■就職・進学支援の評価

- 「卒業生」「修了生」の就職・進学支援策の満足度として、「総合的に見て、就職・進学支援に満足しましたか」を見ると、「満足」が34.1%、「まあ満足」が57.4%で、合わせると91.5%となり、総合的な満足度は非常に高かった。
- 最も高かったのは「プロジェクトデザインⅢ・修士研究の担当指導教員との相談」の92.2%で、「満足」だけを見ても45.0%と最も多かった。次いで、「進路開発センターホームページ、企業情報データベース」が90.7%、「進学・就職に関する講演会」が90.6%と続いていた。
- 一方、最も満足度が低かったのは「就職ノート」の78.7%であり、特に「満足」が17.3%と非常に少ない点が特徴的であった。そして、「就職活動支援バス」が81.6%であったが、こちらは「満足」が39.2%と3番目に多く、高く評価する学生が少なくなかった。

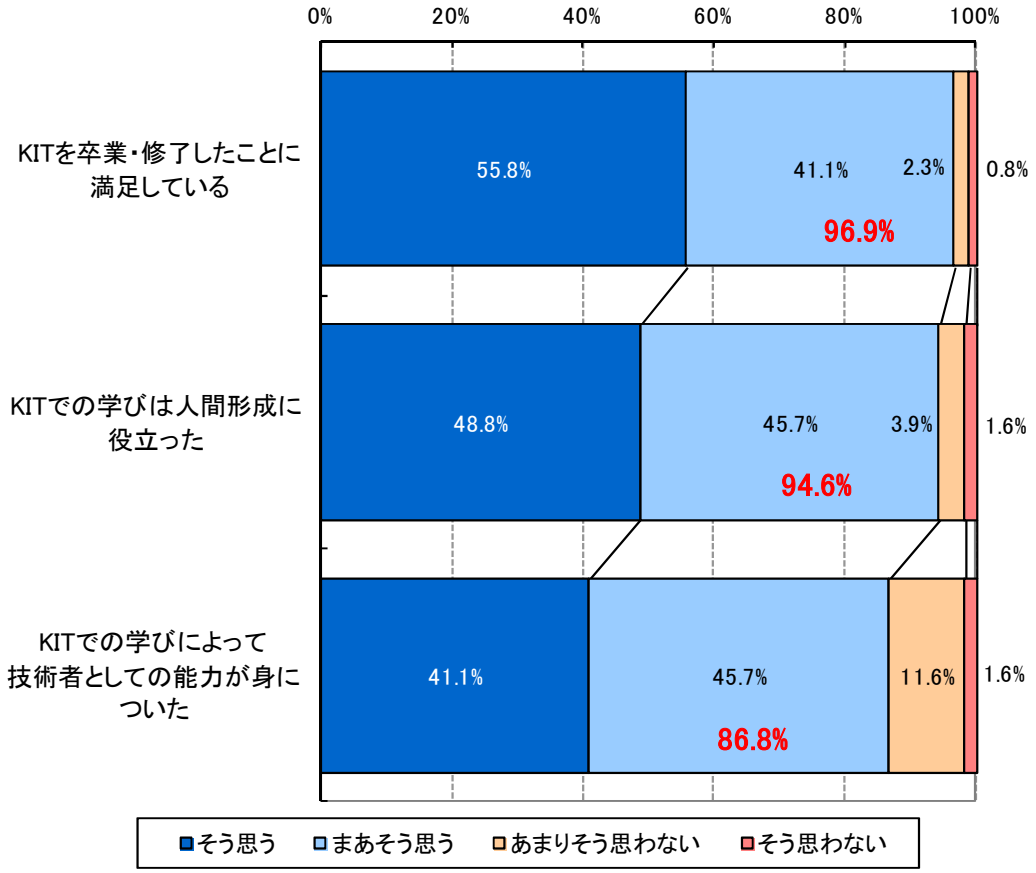


＜12-3＞卒業後のKITの評価

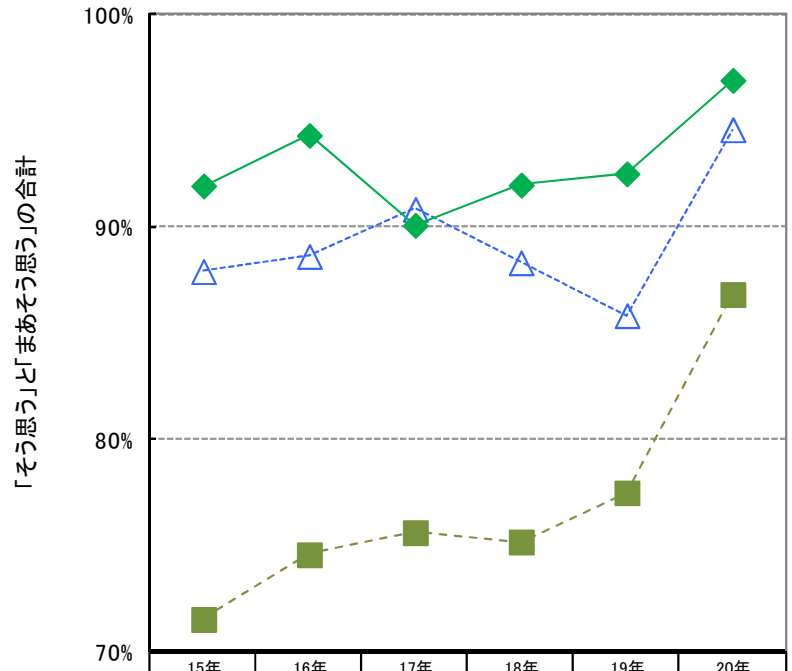
■卒業後のKITの評価　年度別比較

- 卒業後に振り返ってのKITの評価は「卒業生」と「修了生」にのみに聞いているが、「KITを卒業・修了したことに満足している」に対しては「そう思う」が55.8%と半数を超えており、「まあそう思う」の41.1%を加えると96.9%と、ほぼ全員が肯定的な意見となっていた。
- 上記に次いで、「KITでの学びは人間形成に役立った」では94.6%、「KITでの学びによって技術者としての能力が身についた」では86.8%が肯定的な意見であり、卒業後に振り返っての満足度は非常に高かった。
- 年度別に比較すると、3項目ともに前回を大きく上回っており、いずれも過去最高の高さとなっていた。

■卒業後に振り返ってのKITの評価（卒業・修了生全体）



■卒業後に振り返ってのKITの評価 年度別比較
（卒業・修了生全体）



	15年	16年	17年	18年	19年	20年
KITでの学びは人間形成に役立った	87.9%	88.6%	90.8%	88.3%	85.8%	94.6%
KITでの学びによって技術者としての能力が身についた	71.5%	74.6%	75.6%	75.2%	77.5%	86.8%
KITを卒業・修了したことに満足している	91.9%	94.3%	90.1%	92.0%	92.5%	96.9%

＜13-1＞新入生のプロフィール

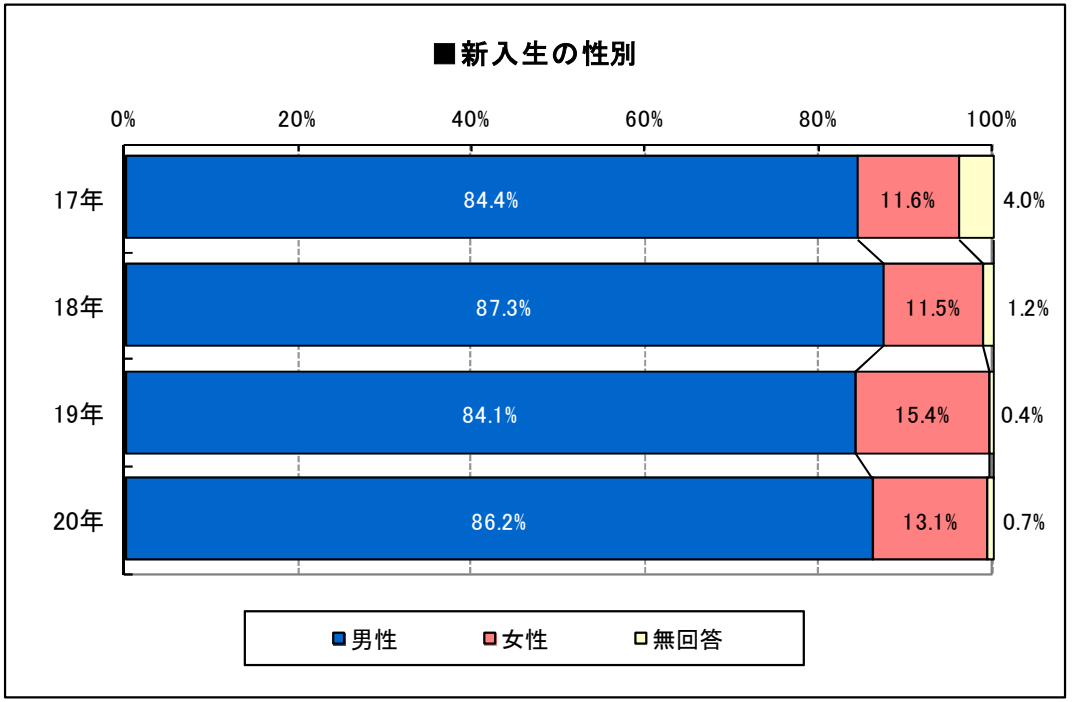
■新入生の学部・学科、性別

- 新入生の学部・学科の割合は、学科無回答の2名を除外しているが、「工学部」が59.0%、「情報フロンティア学部」が18.0%、「建築学部」が14.7%、「バイオ・化学部」が8.4%という割合であった。
- 学科では「電気電子工学科」が15.6%で最も多く、「建築学科」が14.7%、「情報工学科」が14.1%、「機械工学科」が13.0%で続いていた。
- 性別では、「男性」が86.2%、「女性」が13.1%であり、前回と比較すると「女性」が減少していた。

■新入生の学部・学科割合

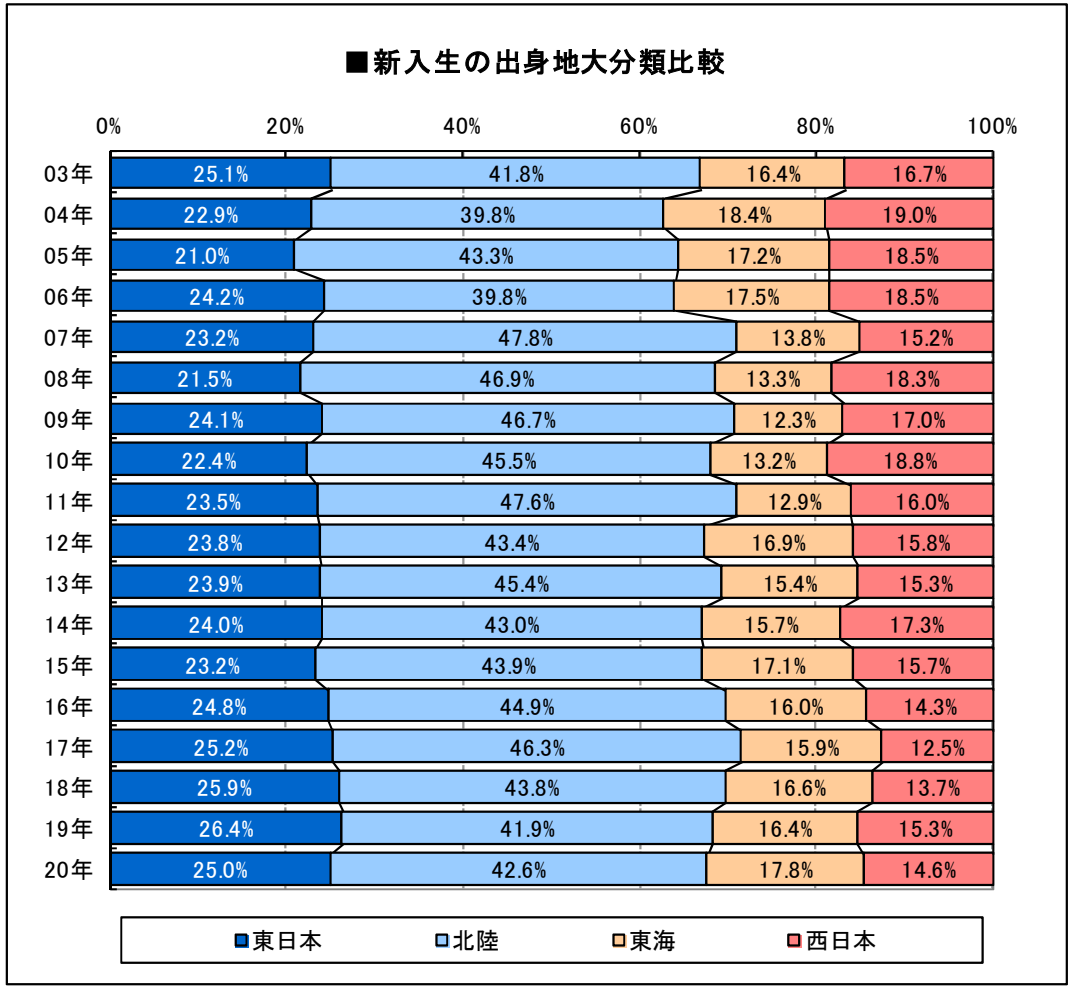
学部	学科	回答者数	割合	回答者数	割合
工　学　部	機械工学科	958	59.0%	212	13.0%
	航空システム工学科			66	4.1%
	ロボティクス学科			108	6.6%
	電気電子工学科			253	15.6%
	情報工学科			229	14.1%
	環境土木工学科			90	5.5%
情報フロンティア学部	メディア情報学科	292	18.0%	161	9.9%
	経営情報学科			82	5.0%
	心理科学科			49	3.0%
建築学部	建築学科	239	14.7%	239	14.7%
バイオ・化学部	応用化学科	136	8.4%	69	4.2%
	応用バイオ学科			67	4.1%
合計	総計	1,625	100.0%	1,625	100.0%

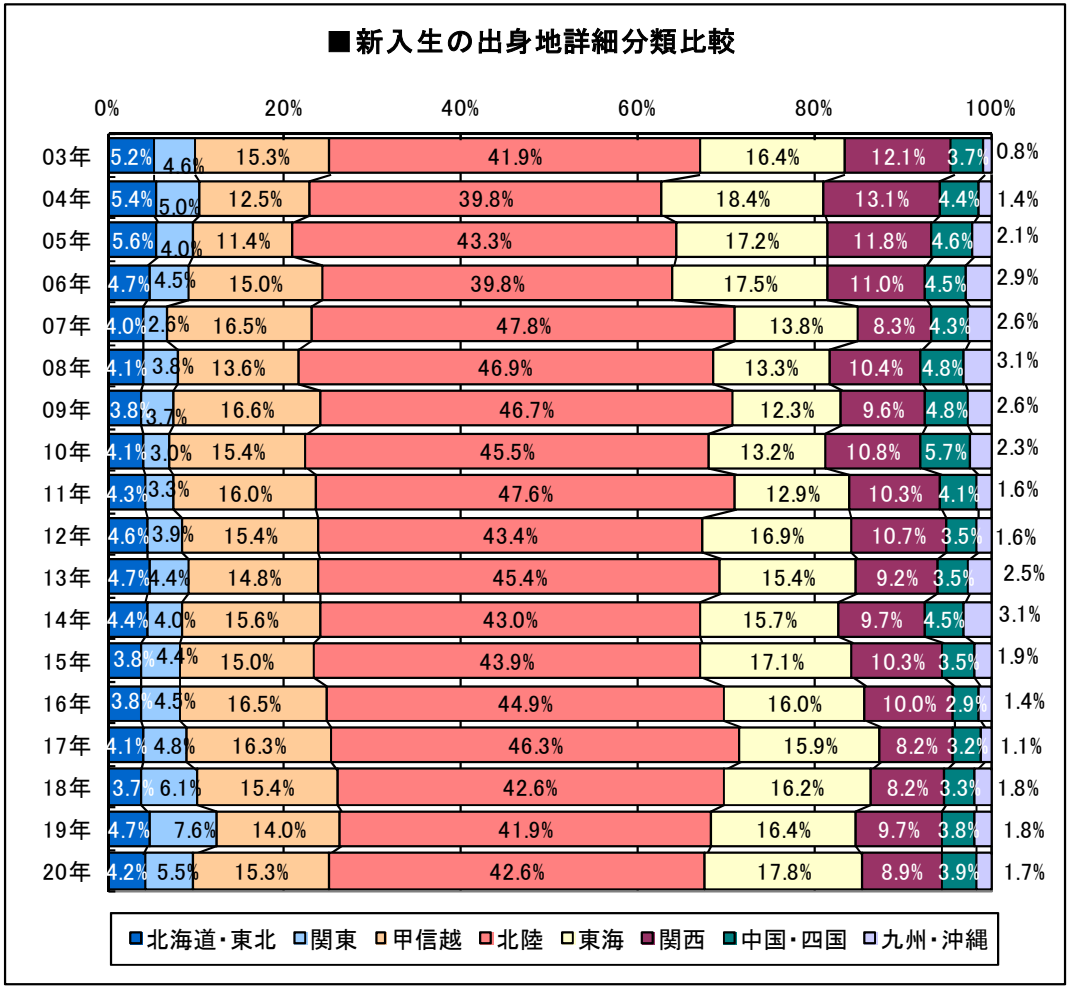
※学科無回答の2名は除外している。



■新入生の出身地

- 出身地の大分類を見ると、「北陸」が42.6%で最も多く、「東日本」が25.0%、「東海」が17.8%、「西日本」が14.6%であり、前回まで増加傾向だった「東日本」が減少していた。
- 出身地詳細分類でも「北陸」が最も多く、「東日本」の中では「甲信越」が増加していた。





■過去4年間の出身地一覧

■17年　出身地一覧

都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類
北海道	15	1.0%	東日本	北海道・東北
青森県	6	0.4%		
岩手県	4	0.3%		
宮城県	7	0.5%		
秋田県	9	0.6%		
山形県	16	1.0%		
福島県	6	0.4%		63　4.1%
茨城県	9	0.6%		関東
栃木県	10	0.6%		
群馬県	24	1.6%		
埼玉県	16	1.0%		
千葉県	4	0.3%		
東京都	6	0.4%		
神奈川県	5	0.3%		74　4.8%
新潟県	130	8.4%		甲信越
山梨県	7	0.5%		
長野県	112	7.3%	386　25.0%	249　16.2%
富山県	166	10.8%	北陸	北陸
石川県	438	28.4%		
福井県	105	6.8%	709　46.0%	709　46.0%
岐阜県	67	4.3%	東海	東海
静岡県	63	4.1%		
愛知県	73	4.7%		
三重県	40	2.6%	243　15.8%	243　15.8%
滋賀県	47	3.0%	西日本	関西
京都府	24	1.6%		
大阪府	16	1.0%		
兵庫県	28	1.8%		
奈良県	6	0.4%		
和歌山県	5	0.3%		126　8.2%
鳥取県	6	0.4%		中国・四国
島根県	3	0.2%		
岡山県	9	0.6%		
広島県	10	0.6%		
山口県	3	0.2%		
徳島県	7	0.5%		
香川県	2	0.1%		
愛媛県	6	0.4%		
高知県	3	0.2%		49　3.2%
福岡県	7	0.5%		九州・沖縄
佐賀県	1	0.1%		
長崎県	2	0.1%		
熊本県	4	0.3%		
大分県	0	0.0%		
宮崎県	1	0.1%		
鹿児島	1	0.1%		
沖縄県	1	0.1%	192　12.5%	17　1.1%
不明	11	0.7%	11　0.7%	11　0.7%
合計	1,541	100.0%	1,541　100.0%	1,541　100.0%

■18年　出身地一覧

都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類
北海道	20	1.2%	東日本	北海道・東北
青森県	8	0.5%		
岩手県	4	0.2%		
宮城県	6	0.4%		
秋田県	5	0.3%		
山形県	8	0.5%		
福島県	10	0.6%		61　3.7%
茨城県	13	0.8%		関東
栃木県	9	0.5%		
群馬県	42	2.6%		
埼玉県	9	0.5%		
千葉県	6	0.4%		
東京都	13	0.8%		
神奈川県	10	0.6%		102　6.2%
新潟県	104	6.3%		甲信越
山梨県	9	0.5%		
長野県	143	8.7%	419　25.5%	256　15.6%
富山県	211	12.9%	北陸	北陸
石川県	402	24.5%		
福井県	94	5.7%	707　43.1%	707　43.1%
岐阜県	84	5.1%	東海	東海
静岡県	66	4.0%		
愛知県	74	4.5%		
三重県	45	2.7%	269　16.4%	269　16.4%
滋賀県	36	2.2%	西日本	関西
京都府	24	1.5%		
大阪府	14	0.9%		
兵庫県	51	3.1%		
奈良県	3	0.2%		
和歌山県	8	0.5%		136　8.3%
鳥取県	9	0.5%		中国・四国
島根県	6	0.4%		
岡山県	6	0.4%		
広島県	10	0.6%		
山口県	6	0.4%		
徳島県	9	0.5%		
香川県	4	0.2%		
愛媛県	2	0.1%		
高知県	3	0.2%		55　3.4%
福岡県	8	0.5%		九州・沖縄
佐賀県	1	0.1%		
長崎県	4	0.2%		
熊本県	6	0.4%		
大分県	1	0.1%		
宮崎県	3	0.2%		
鹿児島	2	0.1%		
沖縄県	5	0.3%	221　13.5%	30　1.8%
不明	25	1.5%	25　1.5%	25　1.5%
合計	1,641	100.0%	1,641　100.0%	1,641　100.0%

■19年　出身地一覧

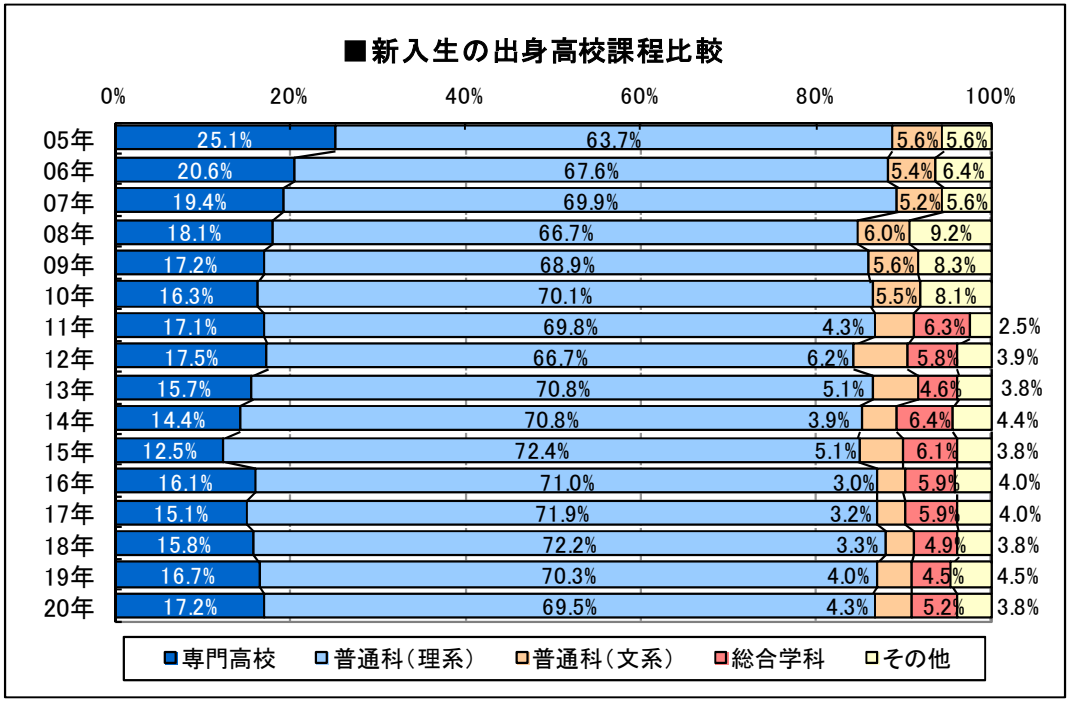
都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類
北海道	20	1.3%	東日本	北海道・東北
青森県	7	0.4%		
岩手県	3	0.2%		
宮城県	10	0.6%		
秋田県	9	0.6%		
山形県	13	0.8%		
福島県	13	0.8%		75　4.7%
茨城県	11	0.7%		関東
栃木県	13	0.8%		
群馬県	42	2.6%		
埼玉県	16	1.0%		
千葉県	10	0.6%		
東京都	17	1.1%		
神奈川県	12	0.8%		121　7.6%
新潟県	102	6.4%		甲信越
山梨県	9	0.6%		
長野県	112	7.0%	419　26.3%	223　14.0%
富山県	207	13.0%	北陸	北陸
石川県	369	23.2%		
福井県	90	5.7%	666　41.8%	666　41.8%
岐阜県	75	4.7%	東海	東海
静岡県	79	5.0%		
愛知県	78	4.9%		
三重県	29	1.8%	261　16.4%	261　16.4%
滋賀県	36	2.3%	西日本	関西
京都府	27	1.7%		
大阪府	24	1.5%		
兵庫県	47	3.0%		
奈良県	11	0.7%		
和歌山県	10	0.6%		155　9.7%
鳥取県	4	0.3%		中国・四国
島根県	8	0.5%		
岡山県	15	0.9%		
広島県	10	0.6%		
山口県	1	0.1%		
徳島県	12	0.8%		
香川県	8	0.5%		
愛媛県	1	0.1%		
高知県	1	0.1%		60　3.8%
福岡県	8	0.5%		九州・沖縄
佐賀県	0	0.0%		
長崎県	3	0.2%		
熊本県	1	0.1%		
大分県	1	0.1%		
宮崎県	3	0.2%		
鹿児島	3	0.2%		
沖縄県	10	0.6%	244　15.3%	29　1.8%
不明	2	0.1%	2　0.1%	2　0.1%
合計	1,592	100.0%	1,592　100.0%	1,592　100.0%

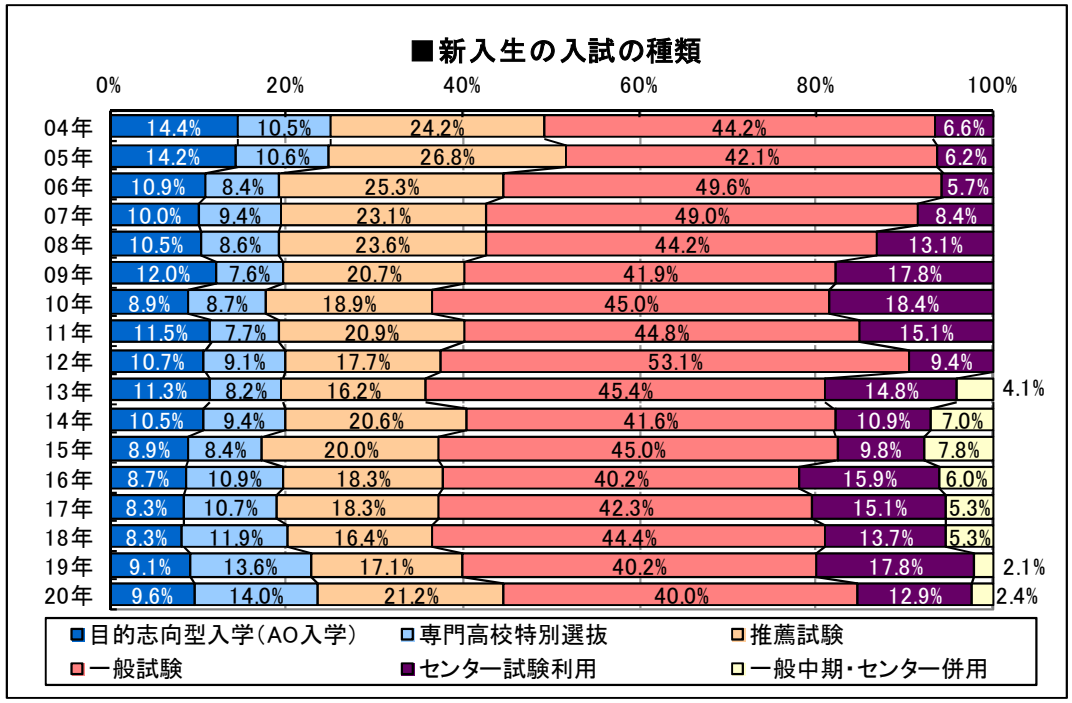
■20年　出身地一覧

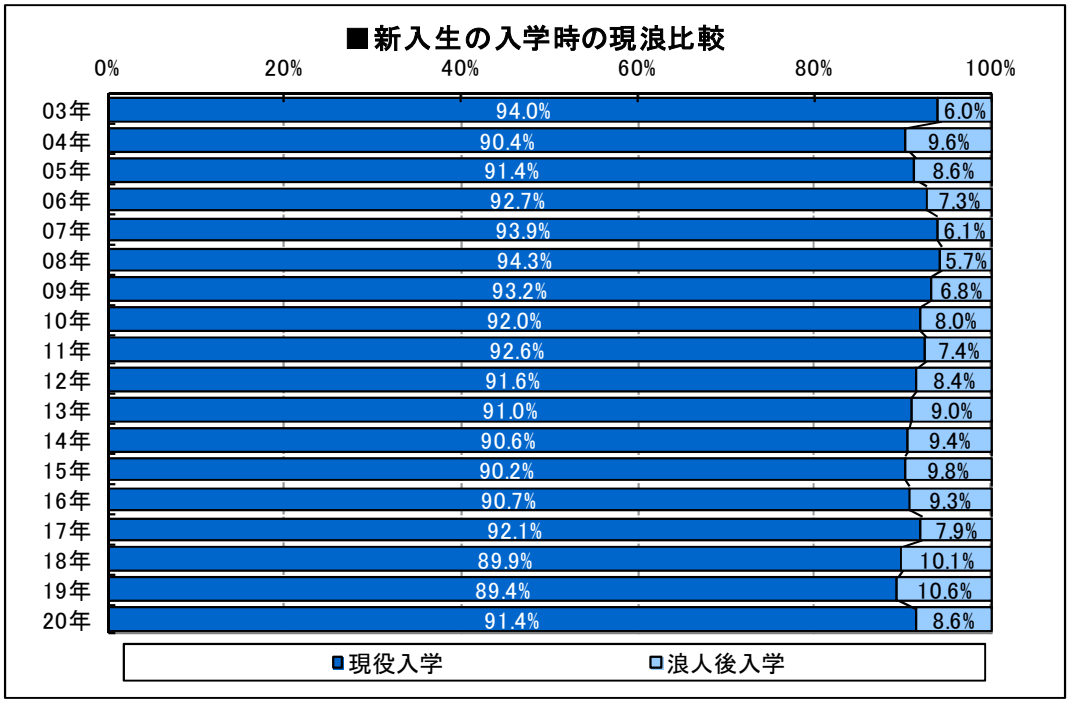
都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類
北海道	16	1.0%	東日本	北海道・東北
青森県	9	0.6%		
岩手県	6	0.4%		
宮城県	8	0.5%		
秋田県	8	0.5%		
山形県	16	1.0%		
福島県	5	0.3%		68　4.2%
茨城県	3	0.2%		関東
栃木県	6	0.4%		
群馬県	44	2.7%		
埼玉県	7	0.4%		
千葉県	7	0.4%		
東京都	14	0.9%		
神奈川県	7	0.4%		88　5.4%
新潟県	112	6.9%		甲信越
山梨県	10	0.6%		
長野県	125	7.7%	403　24.8%	247　15.2%
富山県	216	13.3%	北陸	北陸
石川県	383	23.5%		
福井県	88	5.4%	687　42.2%	687　42.2%
岐阜県	79	4.9%	東海	東海
静岡県	92	5.7%		
愛知県	59	3.6%		
三重県	57	3.5%	287　17.6%	287　17.6%
滋賀県	28	1.7%	西日本	関西
京都府	31	1.9%		
大阪府	27	1.7%		
兵庫県	41	2.5%		
奈良県	8	0.5%		
和歌山県	9	0.6%		144　8.9%
鳥取県	6	0.4%		中国・四国
島根県	5	0.3%		
岡山県	18	1.1%		
広島県	10	0.6%		
山口県	2	0.1%		
徳島県	4	0.2%		
香川県	8	0.5%		
愛媛県	6	0.4%		
高知県	4	0.2%		63　3.9%
福岡県	10	0.6%		九州・沖縄
佐賀県	1	0.1%		
長崎県	2	0.1%		
熊本県	1	0.1%		
大分県	0	0.0%		
宮崎県	2	0.1%		
鹿児島	4	0.2%		
沖縄県	8	0.5%	235　14.4%	28　1.7%
不明	15	0.9%	15　0.9%	15　0.9%
合計	1,627	100.0%	1,627　100.0%	1,627　100.0%

■新入生の入試の種類、高校課程、現浪

- 入試の種類では、「一般試験」が40.0%、「推薦試験」が21.2%、「専門高校特別選抜」が14.0%、「センター試験利用」が12.9%、目的志向型入学(AO入学)」が9.6%となっており、ここ数年間は「専門高校特別選抜」と「推薦試験」が増加しており、わずかな差ではあるが「一般試験」は過去最低となっていた。
- 出身高校の課程では、「普通科(理系)」が69.5%、「専門高校」が17.2%、「総合学科」が5.2%、「普通科(文系)」が4.3%となっており、変化はわずかであるが「専門高校」と「普通科(文系)」の増加と「普通科(理系)」の減少が続いていた。
- 入学時の現浪では、「現役入学」が91.4%、「浪人後入学」が8.6%であり、継続的な変化は見られなかった。

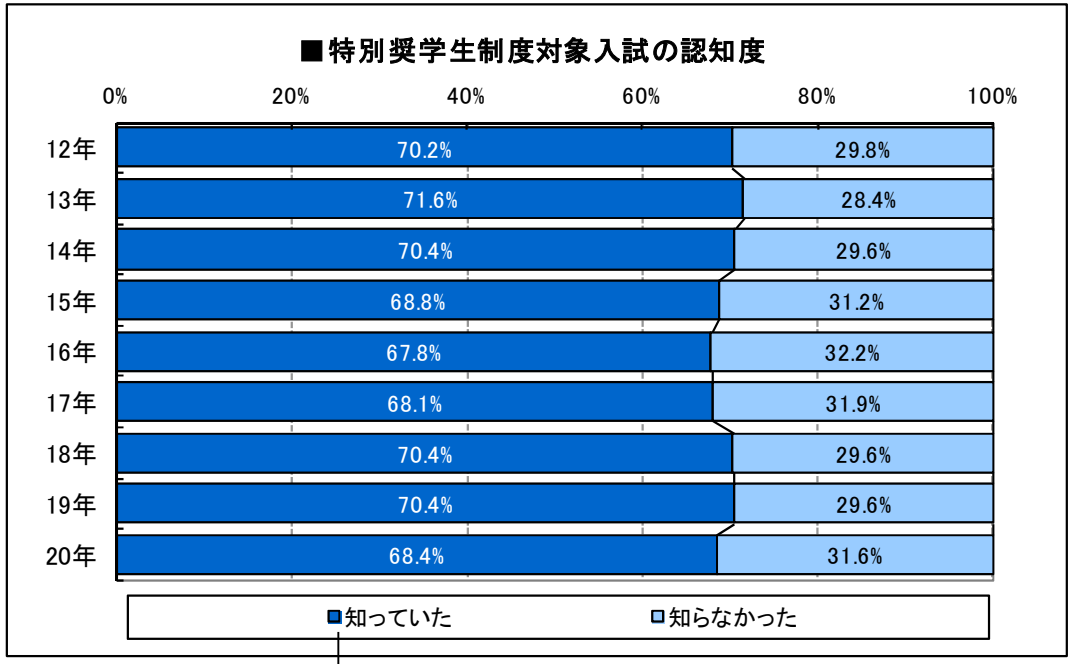


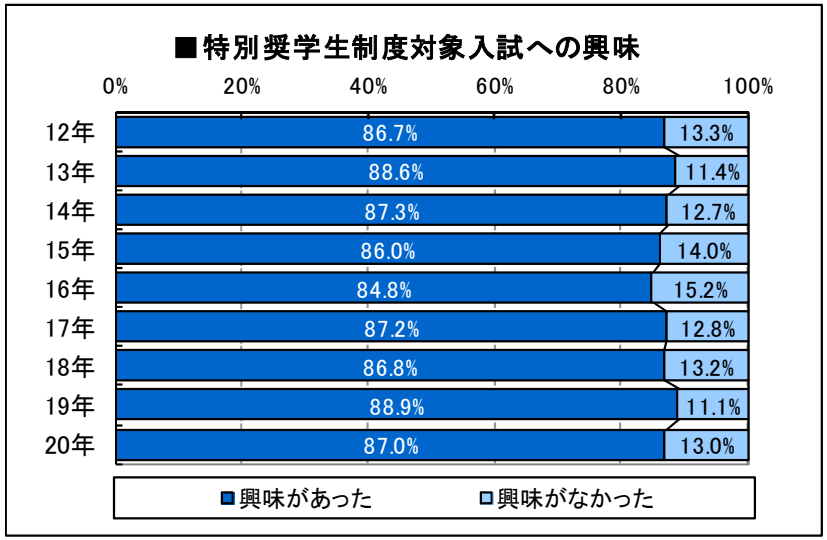


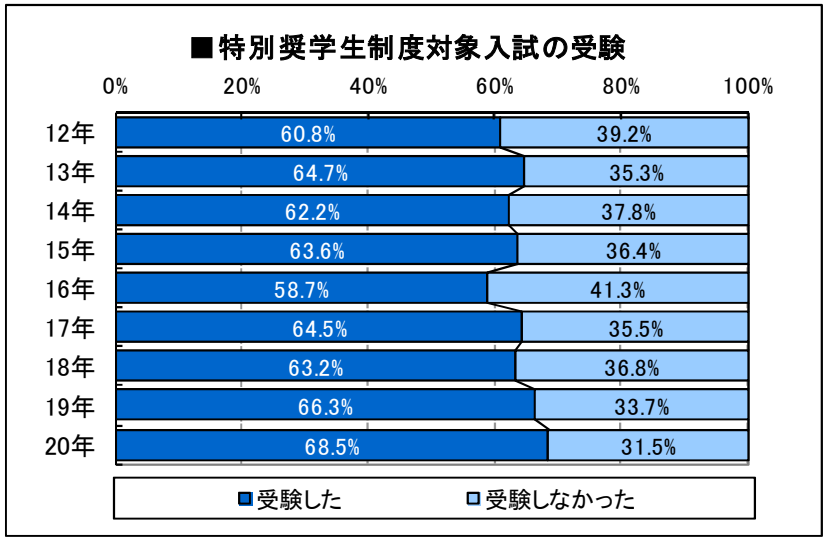


■特別奨学生制度対象入試の認知度、興味、受験

- 「特別奨学生制度対象入試」は「知っていた」が68.4%であり、前回を2.0ポイント下回っていた。
- 「特別奨学生制度対象入試」を「知っていた」と答えた学生に「特別奨学生制度対象入試」への興味を聞いたところ、「興味があった」が87.0%であり、前回を1.9ポイント下回っていた。
- 「特別奨学生制度対象入試の受験の有無」に関しては、「受験した」が68.5%で過去最高となっていた。



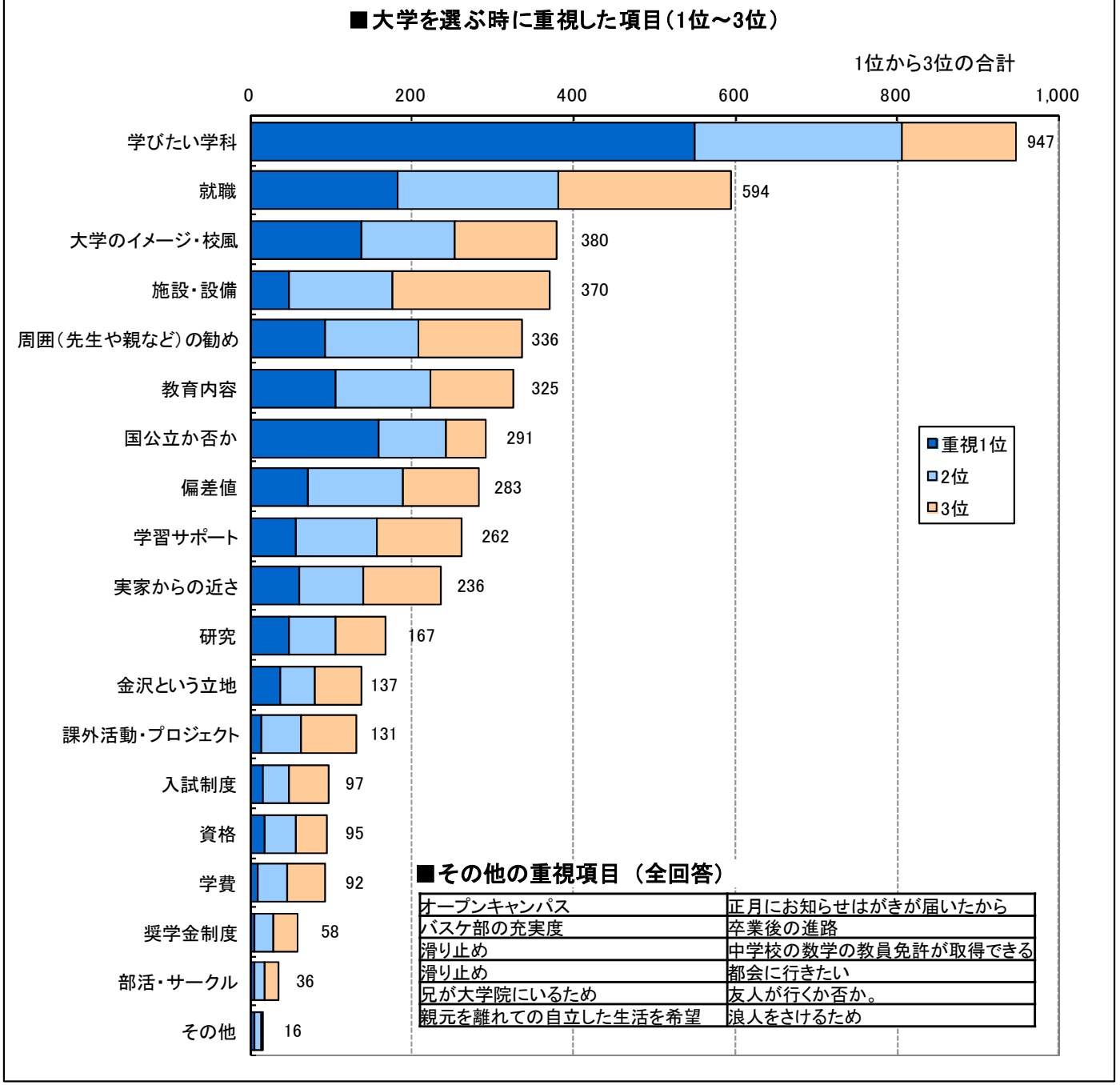




＜13-3＞大学選びに関して

■大学を選ぶ時に重視した項目

- 「大学を選ぶ時に重視した項目」は「重視1位」から「3位」までを聞いているが、右のグラフはそれらを色分けした実数の積み上げ形式グラフである。
- 回答の合計件数が最も多かったのは「学びたい学科」の947件であったが、内訳を見ると「重視1位」が非常に多く、大学選びの大きなポイントになっていると言える。
- 上記に次いで「就職」が594件、「大学のイメージ・校風」が380件、「施設・設備」が370件と続いているが、これらを見ると「就職」の件数が目立っており、これも大きなポイントになっているようであった。
- 合計件数で見るとそれほど重視されるポイントではないが、「国公立か否か」では「重視1位」として挙げる件数が多い点も特徴的であった。

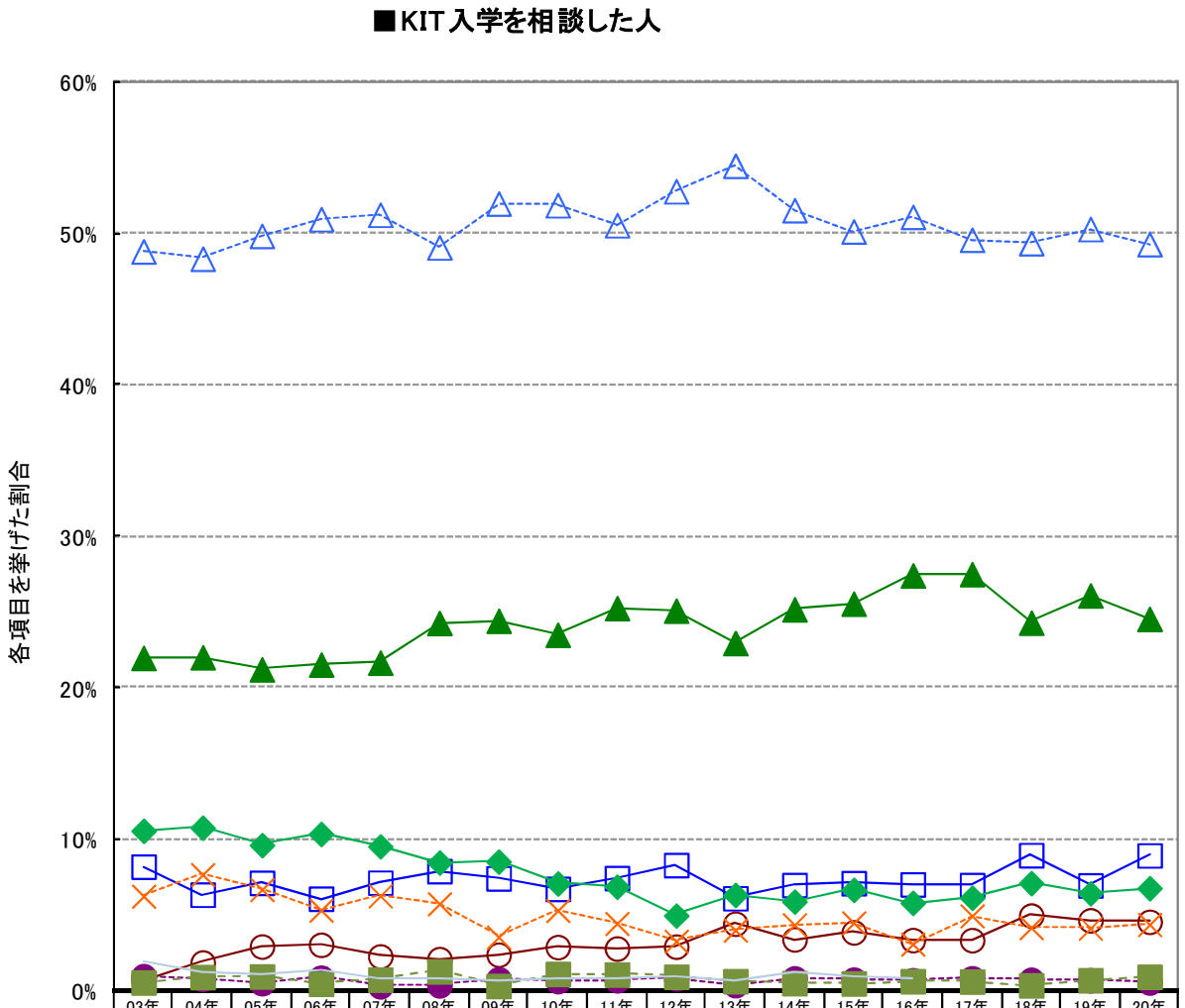


■その他の重視項目（全回答）

オープンキャンパス	正月にお知らせはがきが届いたから
バスケ部の充実度	卒業後の進路
滑り止め	中学校の数学の教員免許が取得できる
滑り止め	都会に行きたい
兄が大学院にいるため	友人が行くか否か。
親元を離れての自立した生活を希望	浪人をさけるため

■ KIT入学を相談した人

- 「KIT入学を相談した人」で最も多かったのは「親・親戚」の54.5%であり、「高校の担任の先生」が27.5%、「相談しなかった」が10.8%、「高校の進路の先生」が9.0%で続いていた。
- 「高校の進路の先生」は前回から2.0ポイント増加し、「高校の担任の先生」は1.5ポイント減少していたが、全体的に変化はわずかであった。

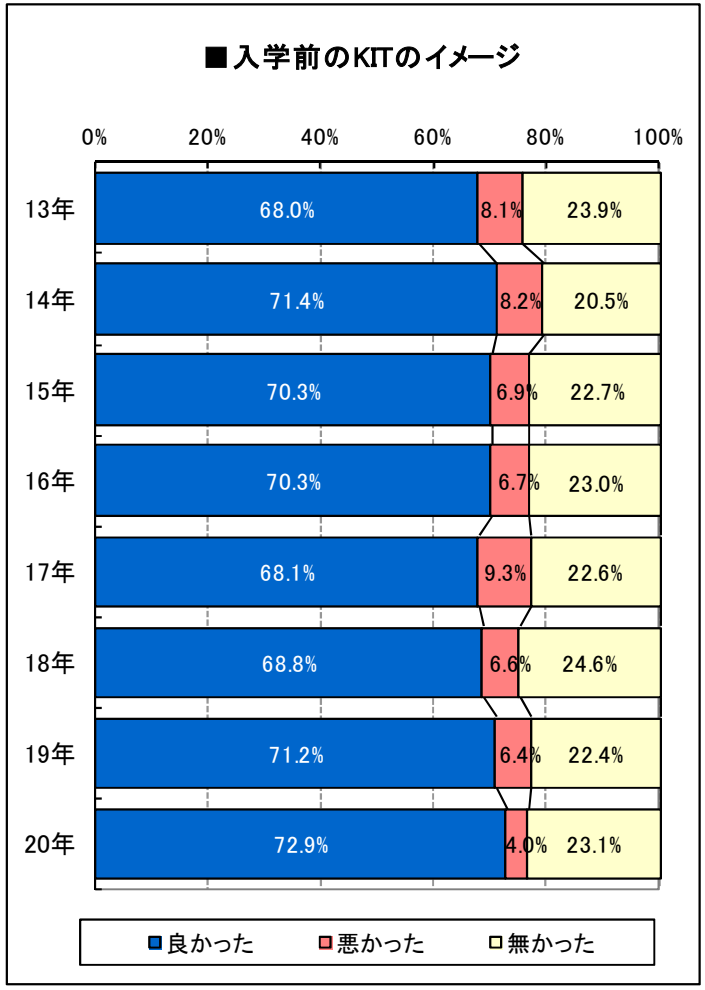


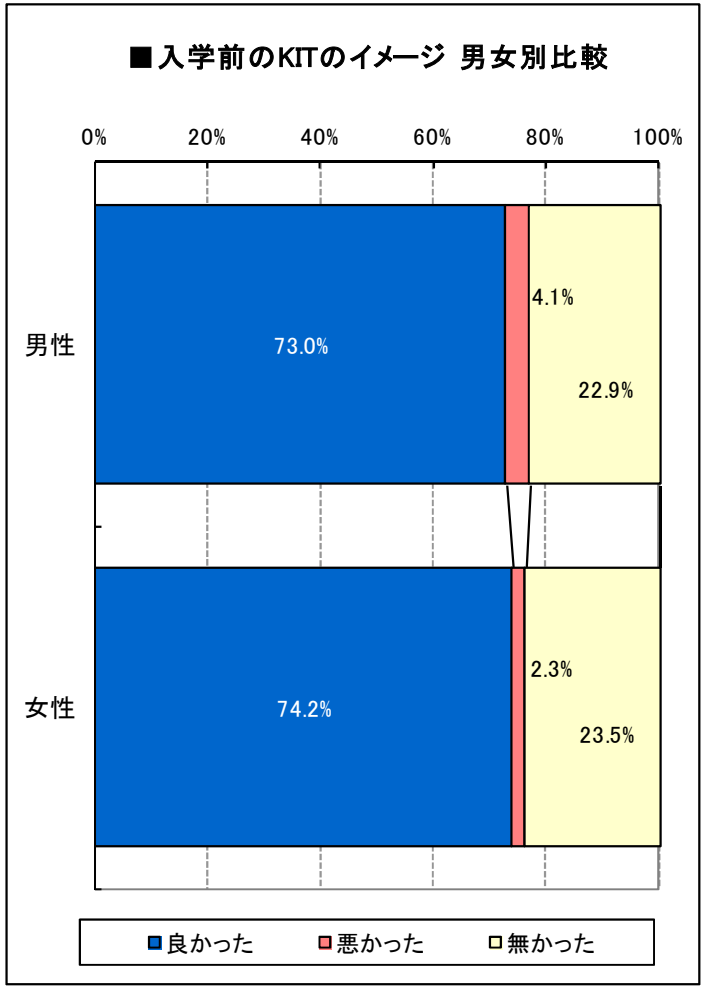
	03年	04年	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
高校の担任の先生	22.0%	22.0%	21.2%	21.5%	21.7%	24.3%	24.4%	23.5%	25.3%	25.1%	23.0%	25.2%	25.6%	27.4%	27.5%	24.3%	26.1%	24.6%
高校の進路の先生	8.2%	6.4%	7.1%	6.1%	7.1%	7.9%	7.4%	6.7%	7.4%	8.3%	6.1%	7.0%	7.1%	7.0%	7.0%	9.0%	7.0%	8.9%
予備校の先生	0.7%	1.9%	2.9%	3.0%	2.3%	2.1%	2.4%	2.9%	2.8%	2.9%	4.4%	3.4%	3.9%	3.4%	3.4%	5.0%	4.7%	4.6%
友人	6.3%	7.7%	6.7%	5.3%	6.3%	5.7%	3.6%	5.3%	4.5%	3.3%	4.0%	4.4%	4.5%	3.1%	5.0%	4.2%	4.1%	4.4%
先輩	1.0%	0.8%	0.5%	0.9%	0.3%	0.4%	0.8%	0.6%	0.7%	0.8%	0.4%	0.8%	0.7%	0.7%	0.8%	0.7%	0.7%	0.6%
親・親戚	48.8%	48.3%	49.8%	50.9%	51.2%	49.1%	52.0%	51.9%	50.5%	52.8%	54.5%	51.5%	50.1%	51.1%	49.6%	49.4%	50.3%	49.3%
兄弟姉妹	0.6%	0.9%	1.0%	0.5%	0.7%	1.3%	0.3%	1.1%	1.1%	0.9%	0.6%	0.5%	0.5%	0.6%	0.6%	0.4%	0.7%	0.9%
相談しなかった	10.6%	10.8%	9.6%	10.4%	9.5%	8.5%	8.5%	7.1%	6.9%	5.0%	6.3%	5.9%	6.7%	5.8%	6.1%	7.1%	6.4%	6.8%
その他	1.9%	1.3%	1.1%	1.3%	0.8%	0.7%	0.6%	0.8%	0.8%	0.9%	0.6%	1.3%	0.9%	0.8%				

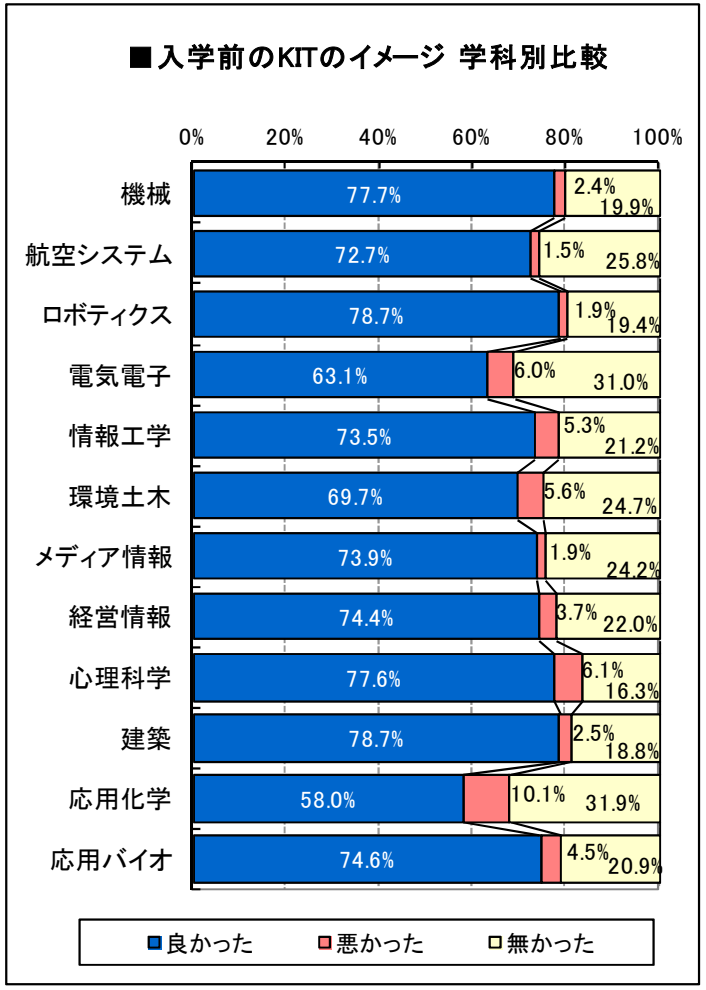
※17年から「その他」の選択肢がなくなっている。

■入学前のKITのイメージ

- 「入学前のKITのイメージ」は「良かった」が72.9%、「悪かった」が4.0%、「無かった」が23.1%であり、「良かった」が17年から継続的に増加して過去最高となり、「悪かった」は過去最低となっていた。
- 「入学前のKITのイメージ」を男女別に比較すると、「良かった」は「男性」が73.0%、「女性」が74.2%で「女性」の方が1.2ポイントとわずかに多く、「悪かった」は「男性」の方が1.8ポイント多かった。
- 「良かった」の割合を学科別に比較すると、「ロボティクス」と「建築」が78.7%と最も多く、「機械」が77.7%、「心理科学」が77.6%で続いていた。一方、最も少なかったのは「応用化学」の58.0%であり、他の学科と比べて少なさが目立っていた。「悪かった」を見ても「応用化学」が10.1%と、多さが目立っていた。



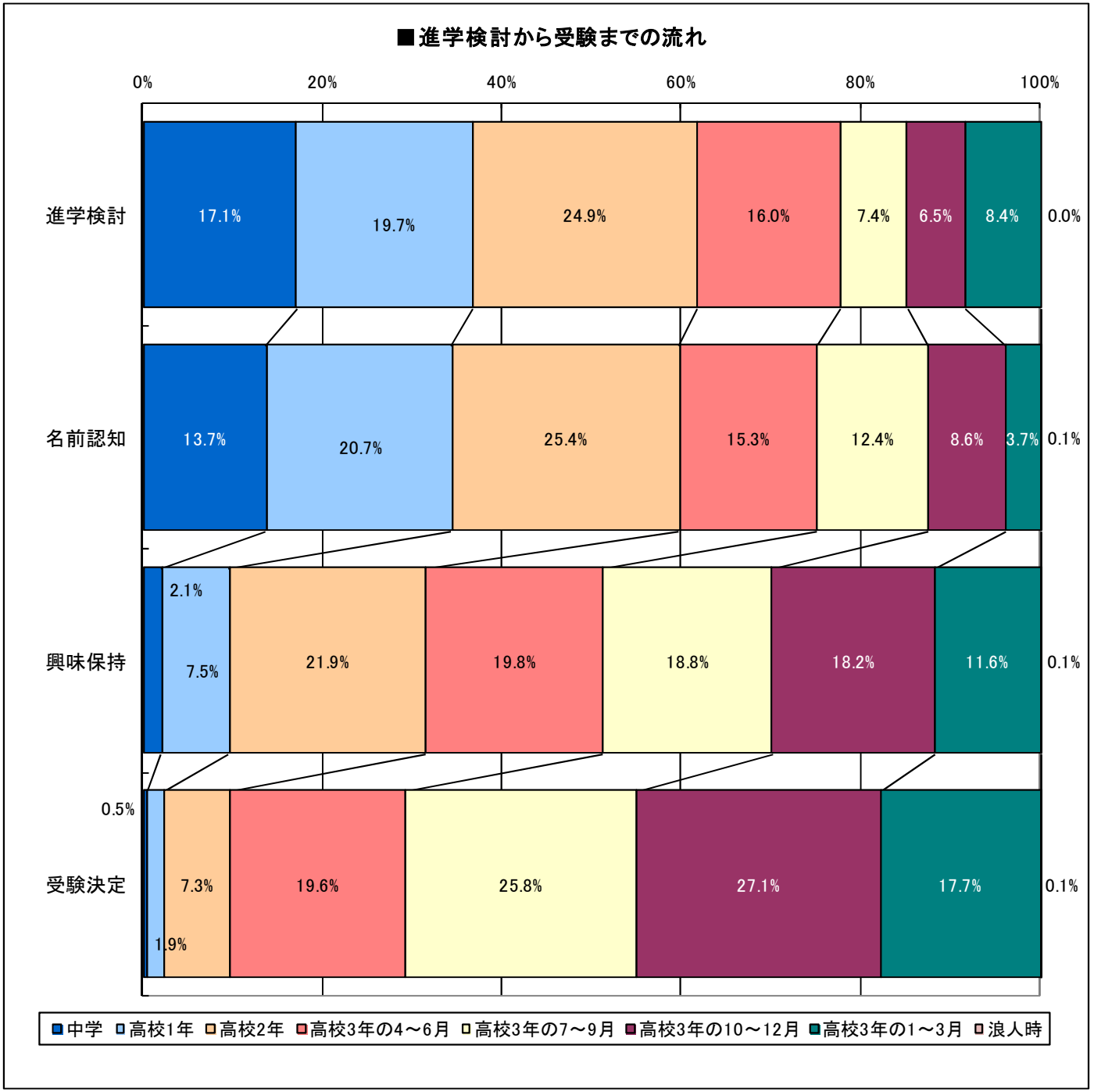




＜13-4＞進学検討から受験までの流れに関して

■進学検討から受験までの流れ

- 「進学検討から受験までの流れ」に関しては、「進学検討」「名前認知」「興味保持」「受験決定」の4つのポイントの時期を、同じ選択肢で聞いている。
- 行動の流れが似ていたのは「進学検討」と「名前認知」で、わずかに「進学検討」が早いものの、ほぼ同時に進行しており、「高校2年」までの合計は約6割であった。
- 次いで進行していたのは「興味保持」で、「高校2年」までの合計は31.5％で、約7割が高校3年以降に興味を持っていた。
- 「受験決定」の「高校2年」までの合計は9.7％で、約9割が高校3年以降となっており、高校3年の「4～6月」が19.6％、「7～9月」が25.8％、「10～12月」が27.1％となっていた。

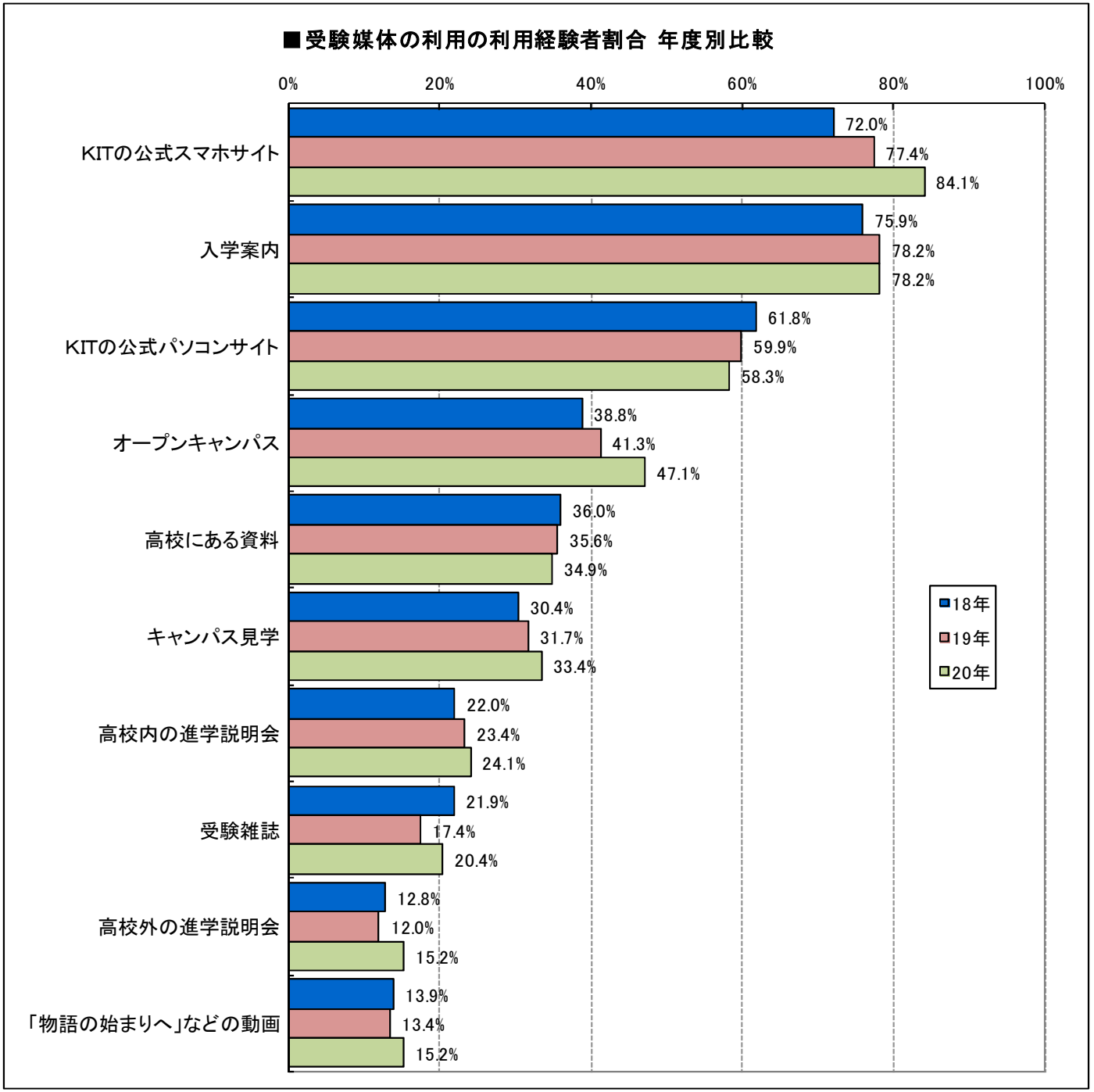


※進学検討：大学への進学を意識し始めた時期
名前認知：金沢工大の名前を知った時期
興味保持：金沢工大に興味を持った時期
受験決定：金沢工大の受験を決めた時期

＜13-5＞受験媒体に関して

■受験媒体の利用状況

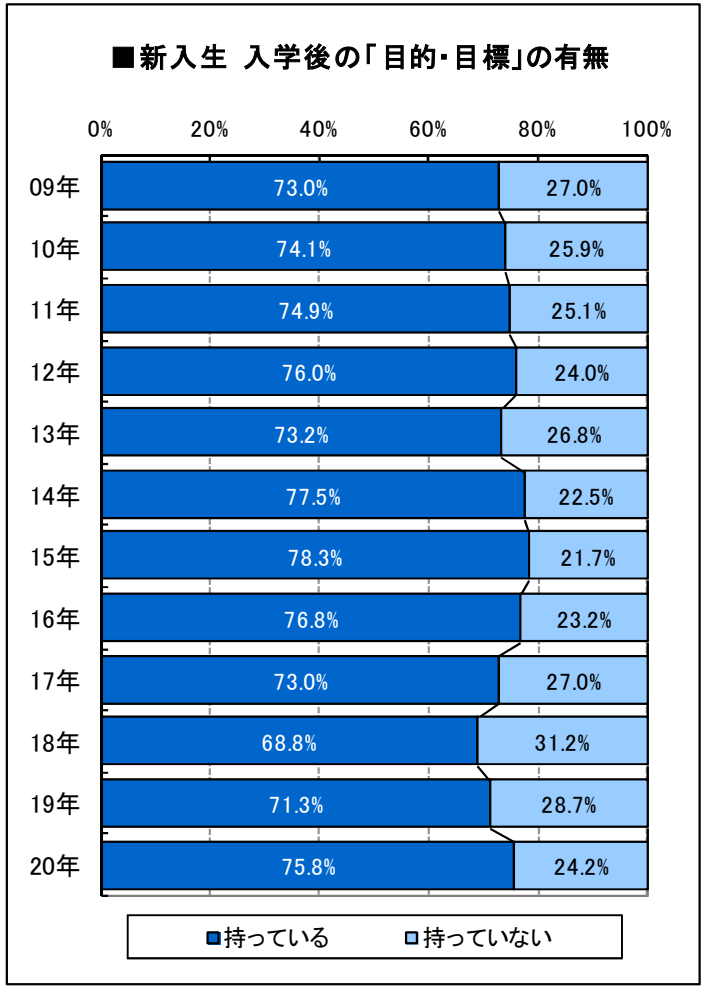
- 「受験媒体の利用状況」は各媒体の利用の有無を聞いているが、最も利用率が高かったのは「KITの公式スマホサイト」の84.1％であった。次いで、「入学案内」が78.2％、「KITの公式パソコンサイト」が58.3％、「オープンキャンパス」が47.1％で続いていた。
- 前回までは「入学案内」が1位、「KITの公式スマホサイト」が2位であったが、今回は逆転しており、「KITの公式スマホサイト」の利用率は継続的に増加していた。また、「オープンキャンパス」「キャンパス見学」「高校内の進学説明会」も継続的に増加していた。
- 一方、継続的に減少していたのは「KITの公式パソコンサイト」「高校にある資料」であり、受験媒体の位置づけの変化が感じられる結果となっていた。

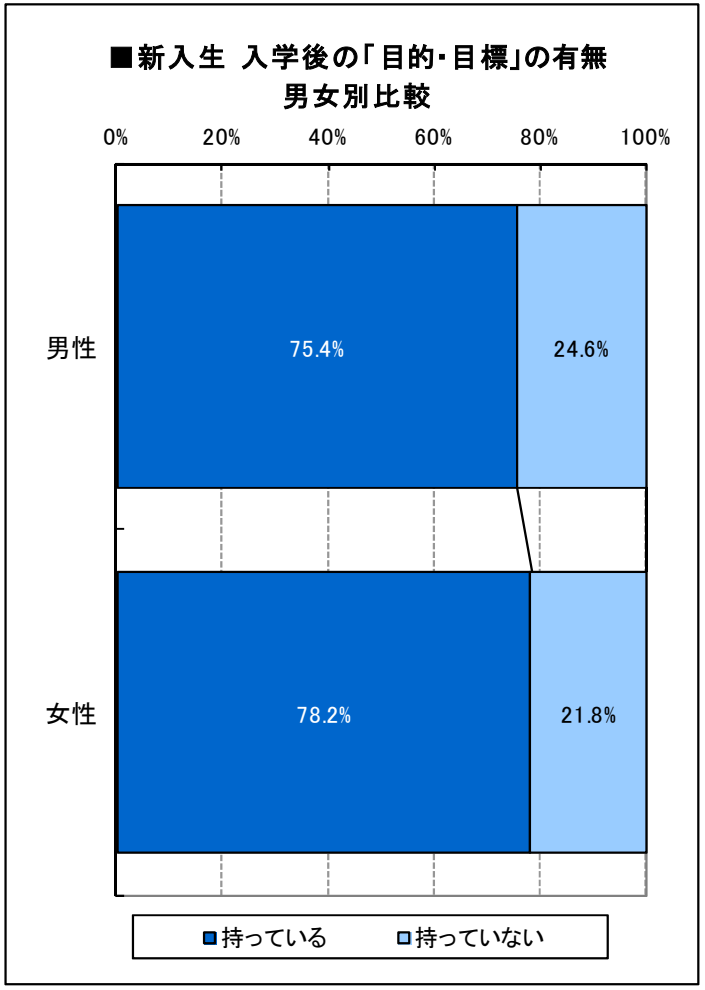


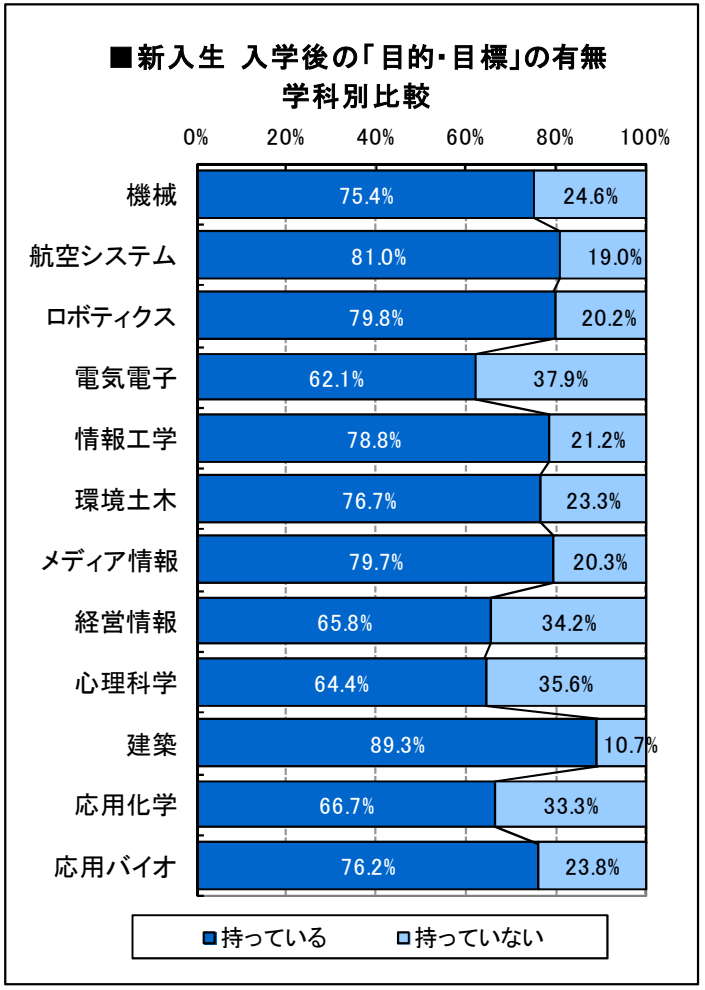
＜13-6＞入学後の目的・目標、期待に関して

■入学後の目的・目標の有無

- 「大学に入ってからこれがやりたいという目的・目標を持っていますか？」という問いに対しては、「持っている」が75.8%であり、過去最低だった18年から継続的に増加する傾向が続いていた。
- 「持っている」の割合を男女別に比較すると、「男性」は75.4%、「女性」は78.2%であり、「女性」の方が2.8ポイント多かった。
- 「持っている」の割合を学科別に比較すると、「建築」が89.3%と高さが目立っており、「航空システム」が81.0%、「ロボティクス」が79.8%、「メディア情報」が79.7%と続いていた。一方、最も少なかったのは「電気電子」の62.1%であり、「建築」との差は27.2ポイントと大きかった。



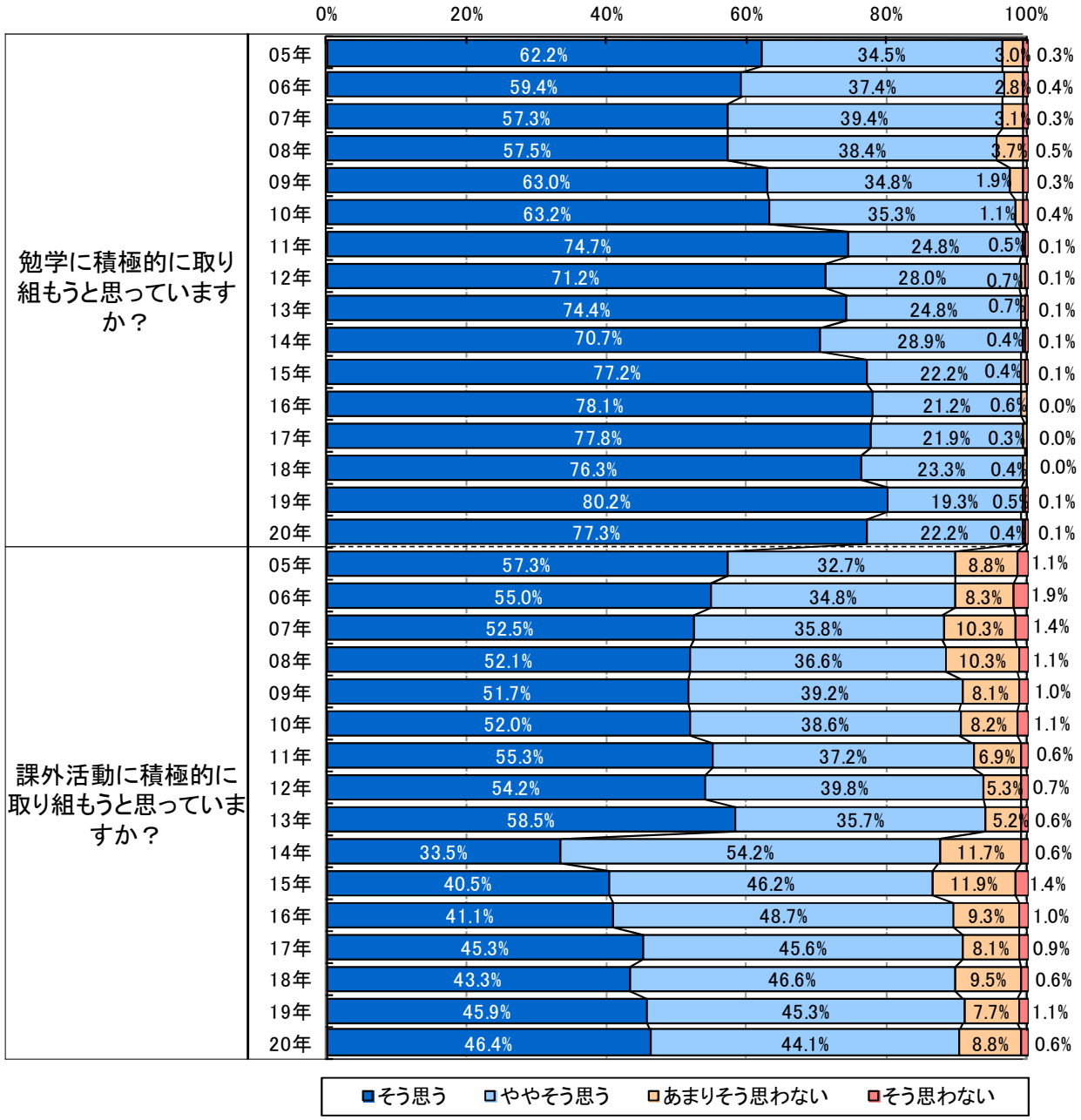




■KITへの期待、心構え

- KITへの期待、心構えの質問に関しては、13年までの「勉強に積極的に取り組もうと思っていますか？」という質問は、14年に変更して「勉学に積極的に取り組もうと思っていますか？」と聞いており、同様に「勉強以外に積極的に取り組めるものを探そうと思っていますか？」という質問は、「課外活動に積極的に取り組もうと思っていますか？」と、少しニュアンスが変わっているため、結果に対する影響も考えられる。
- 「勉学に積極的に取り組もうと思っていますか？」では「そう思う」が77.3%、「ややそう思う」が22.2%であり、合わせると99.5%と、ほぼ全員が勉学に積極的に取り組みたいと答えていた。以前と比較すると、内訳は異なるものの11年頃から肯定的な意見が非常に多い状況が続いていた。
- 「課外活動に積極的に取り組もうと思っていますか？」では、「そう思う」が46.4%、「ややそう思う」が44.1%であり、合計すると90.5%が肯定的な意見であり、課外活動への期待がうかがえた。以前と比較すると、14年に質問文が変わったために大きな変化が出ているが、それ以降は肯定的な意見の合計は大きく変わらず「そう思う」だけが増加する傾向が続いており、今回も合計では前回をわずかに下回ったものの、「そう思う」は前回を上回っていた。

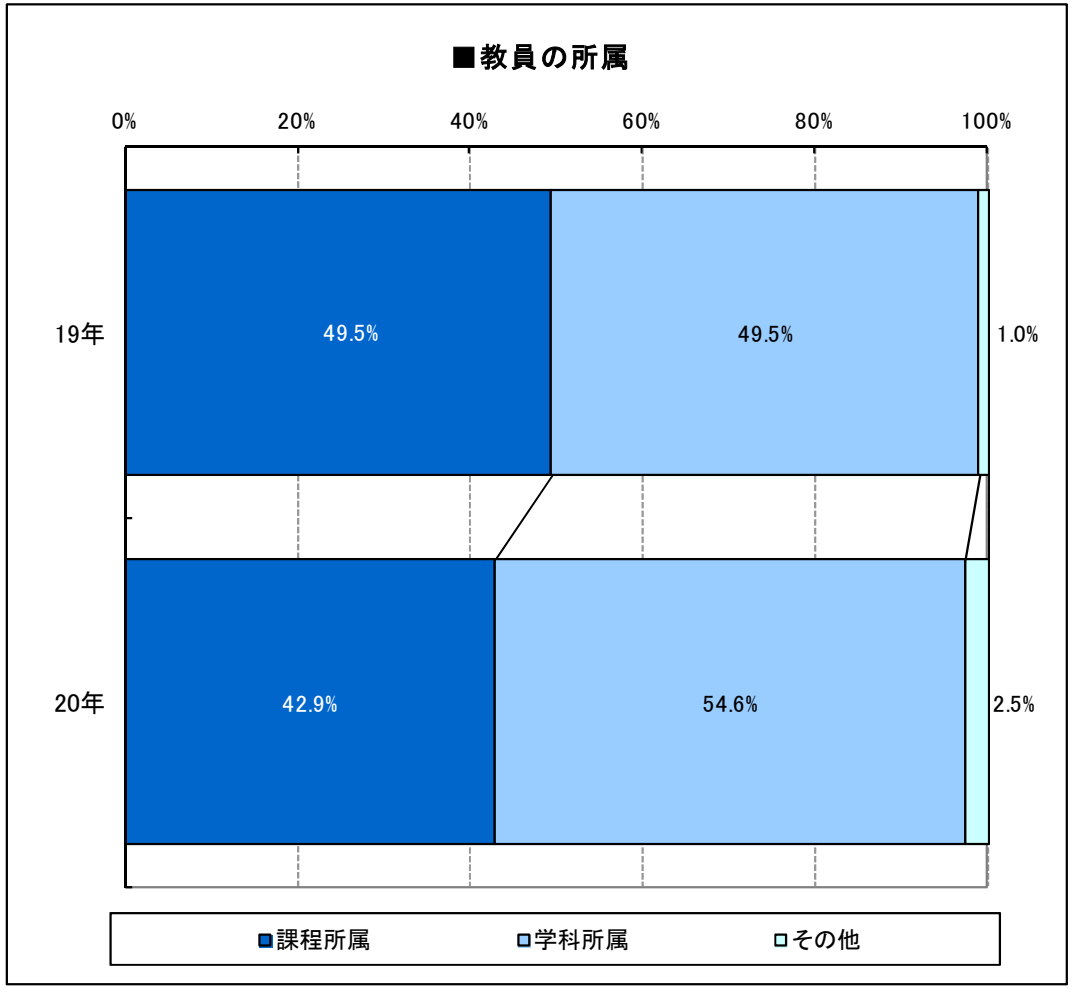
■新入生 KITへの期待、心構え

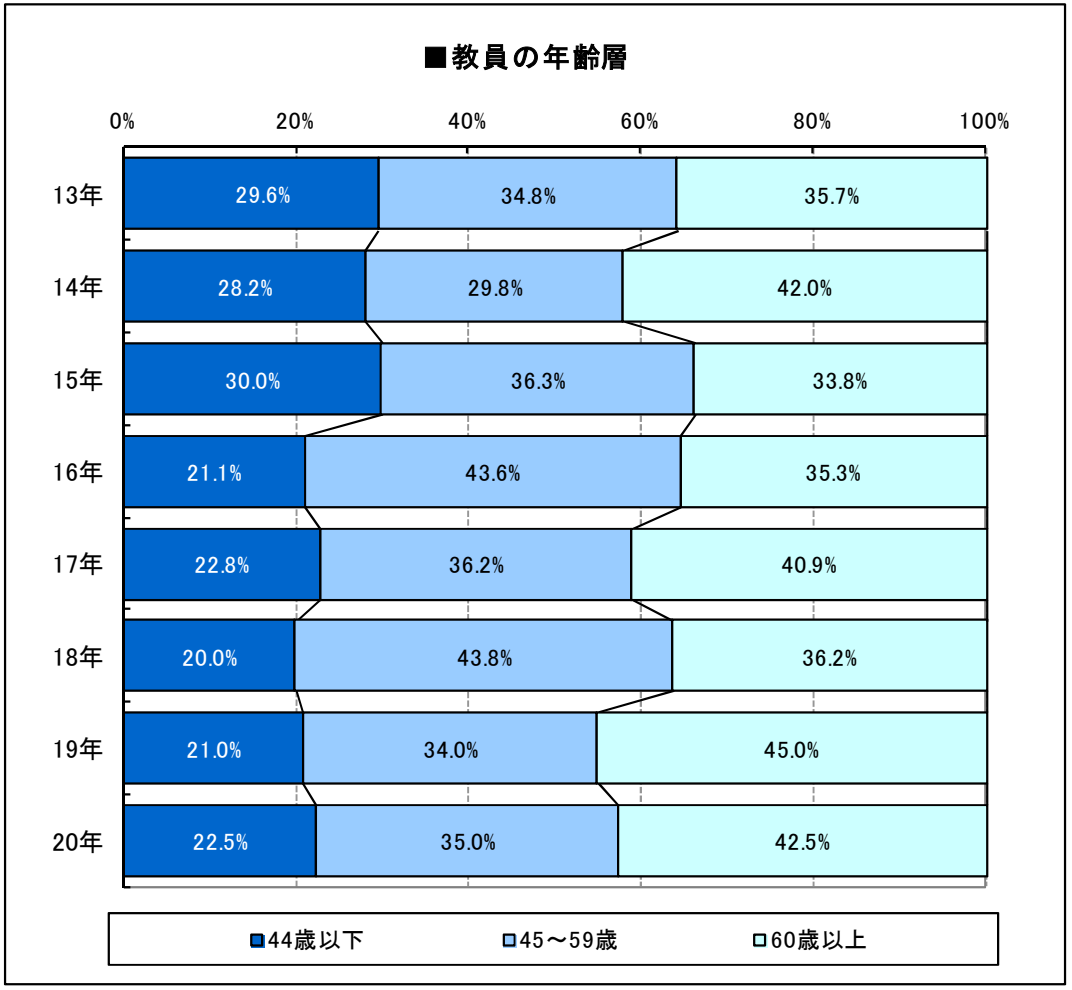


＜14-1＞教職員の基本属性

■教員の基本属性

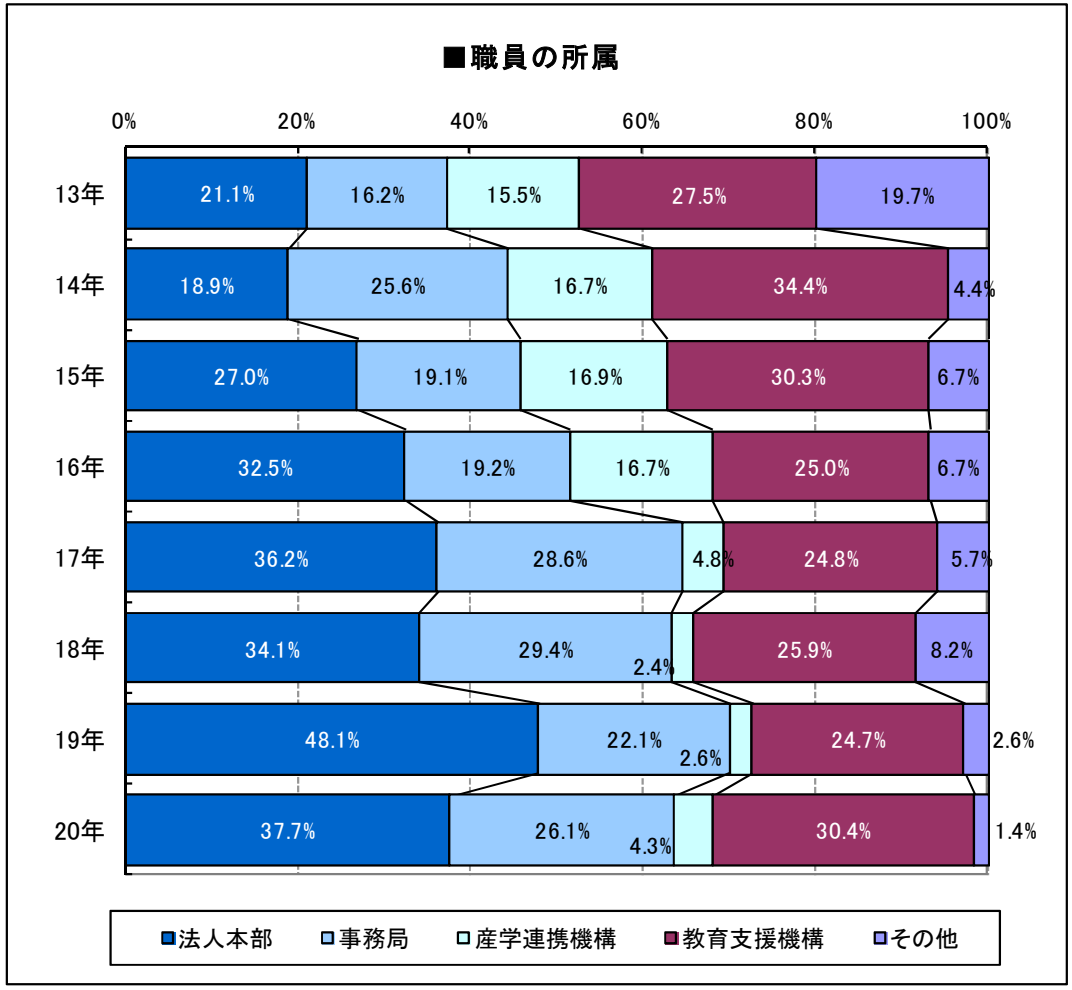
- 「教員の所属」は「課程所属」が6.6ポイント減少して42.9%、「学科所属」が5.1ポイント増加して54.6%、そして、「その他」が2.5%であった。
- 「教員の年齢層」は「44歳以下」が22.5%、「45歳～59歳」が35.0%、「60歳以上」が42.5%であり、前回と比較して大きな変化は見られなかったが、「60歳以上」が過去最高であった前回から2.5ポイント減少していた。

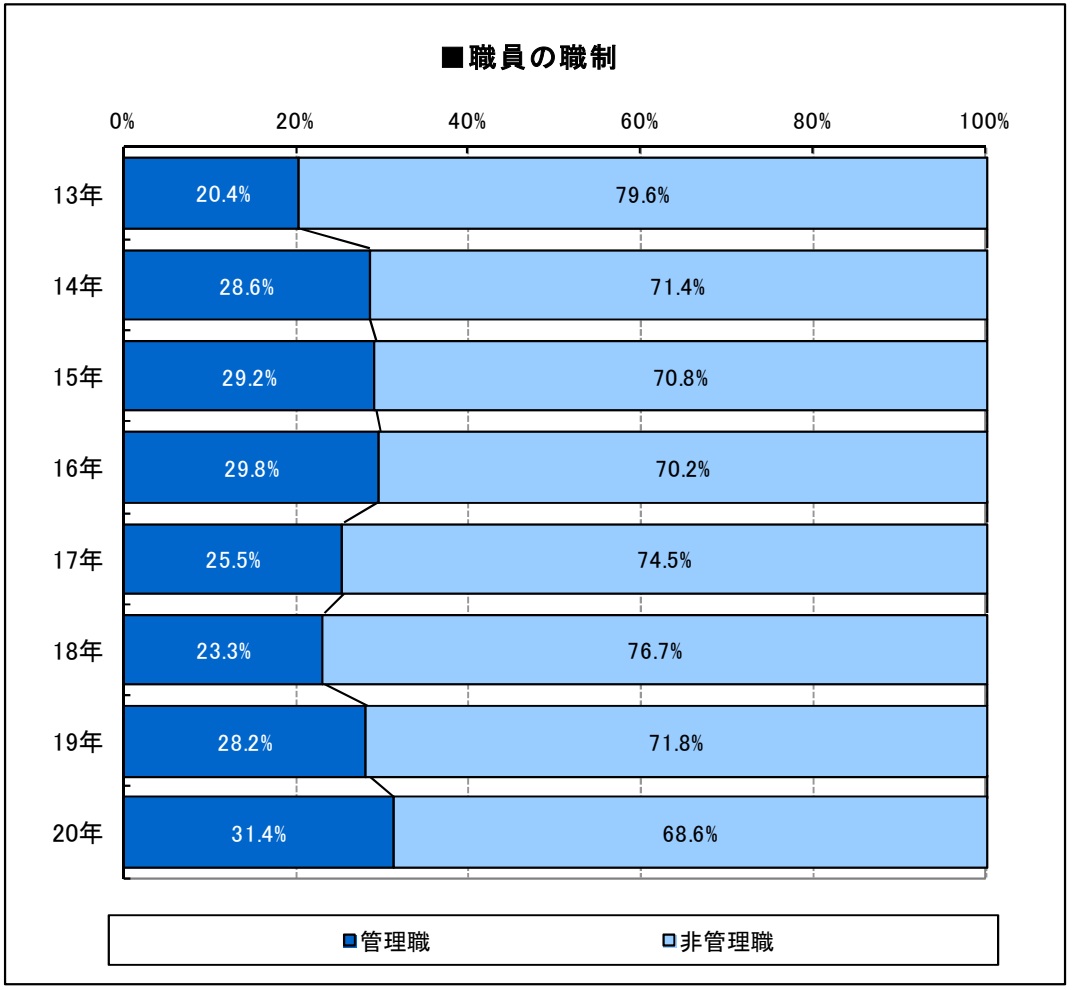




■職員の基本属性

- 「職員の所属」では「法人本部」が37.7%で前回を10.4ポイントと大きく下回っていた。そして、「事務局」が26.1%、「産学連携機構」が4.3%、「教育支援機構」が30.4%、「その他」が1.4%であり、「その他」以外は前回を上回っていた。
- 職員の「職制」は18年から「管理職」の増加傾向が続き、今回は過去最高の31.4%となり、「非管理職」は68.6%となっていた。



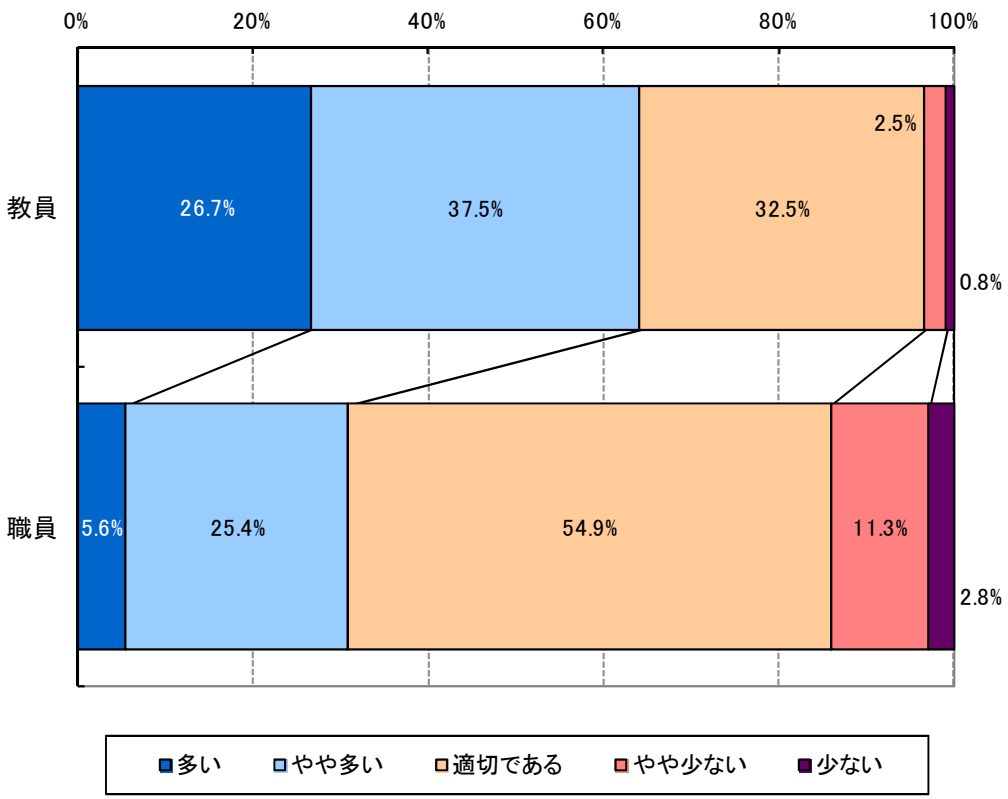


＜14-2＞業務の状況に関して

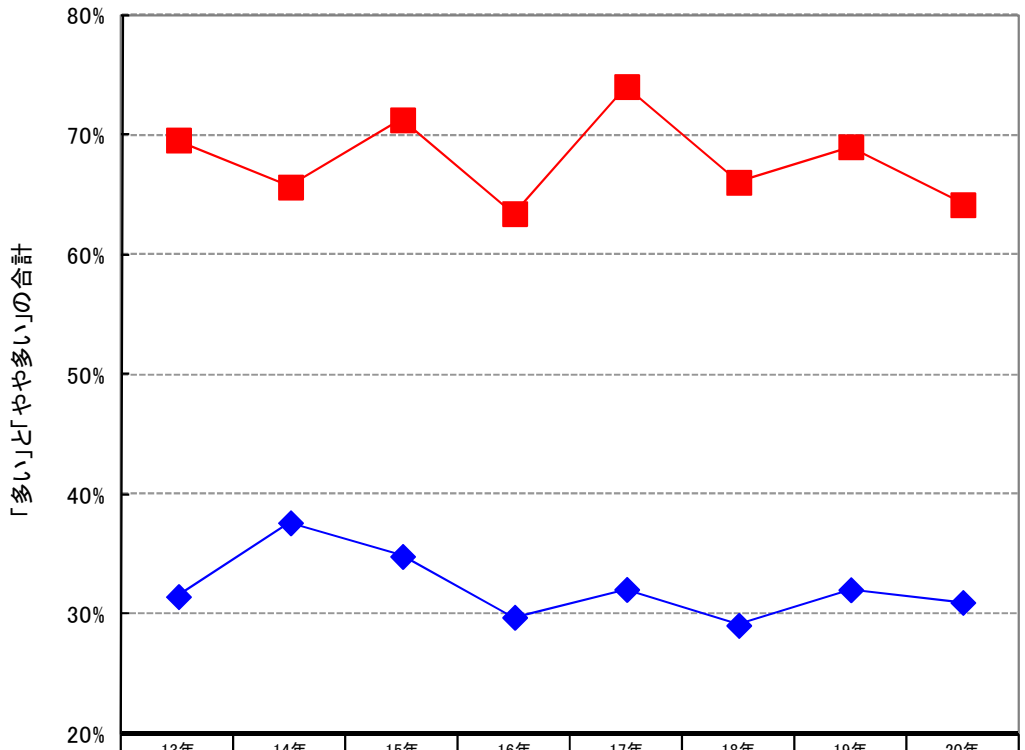
■自分自身の業務量

- 「あなた自身の業務量をどう感じますか？」という問いには、「教員」の26.7%が「多い」と答えており、「やや多い」の37.5%と合わせると64.2%が業務量は多いと感じていた。そして、「適切である」が32.5%、「やや少ない」が2.5%、「少ない」が0.8%であった。
- 「職員」では「多い」が5.6%、「やや多い」が25.4%であり、合わせると31.0%が業務量は多いと感じていた。そして、「適切である」が54.9%と半数程度であり、「やや少ない」が11.3%、「少ない」が2.8%となっていた。
- 「多い」と「やや多い」の合計を年度別に比較すると、「教員」は前回を4.8ポイント、「職員」も前回を1.1ポイント下回っており、継続的な変化は見られなかった。

■あなた自身の業務の業務量をどう感じますか？



■教職員の業務量評価 年度別比較

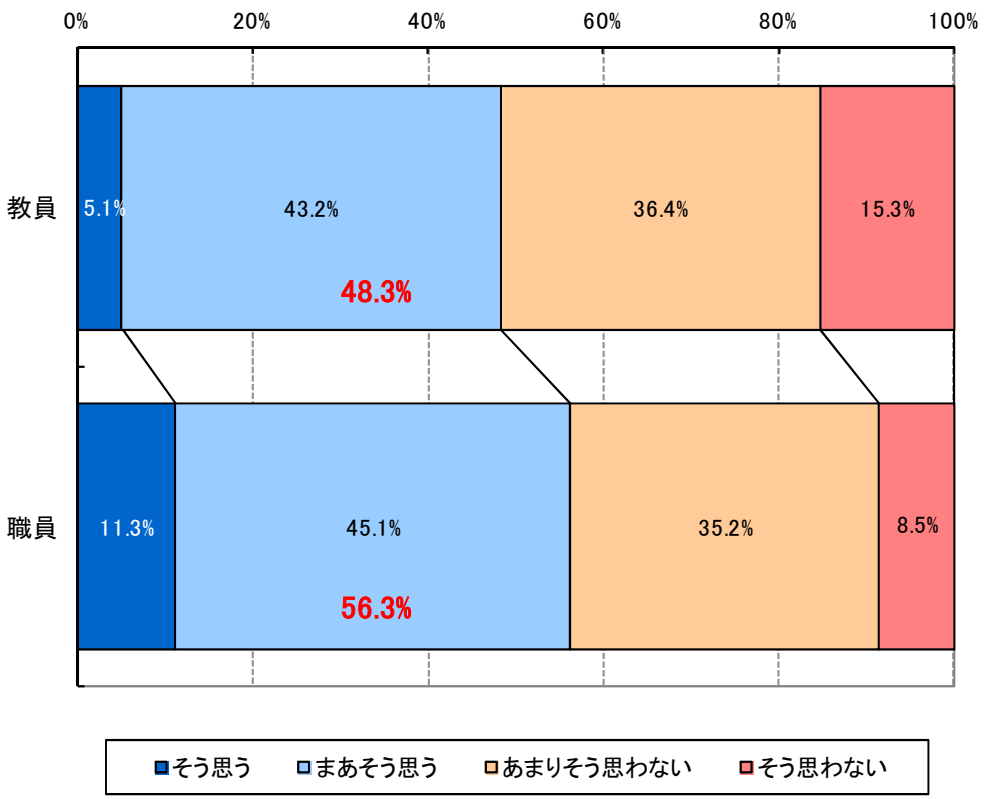


	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
教員	69.6%	65.6%	71.3%	63.4%	74.0%	66.0%	69.0%	64.2%
職員	31.5%	37.6%	34.8%	29.8%	32.1%	29.1%	32.1%	31.0%

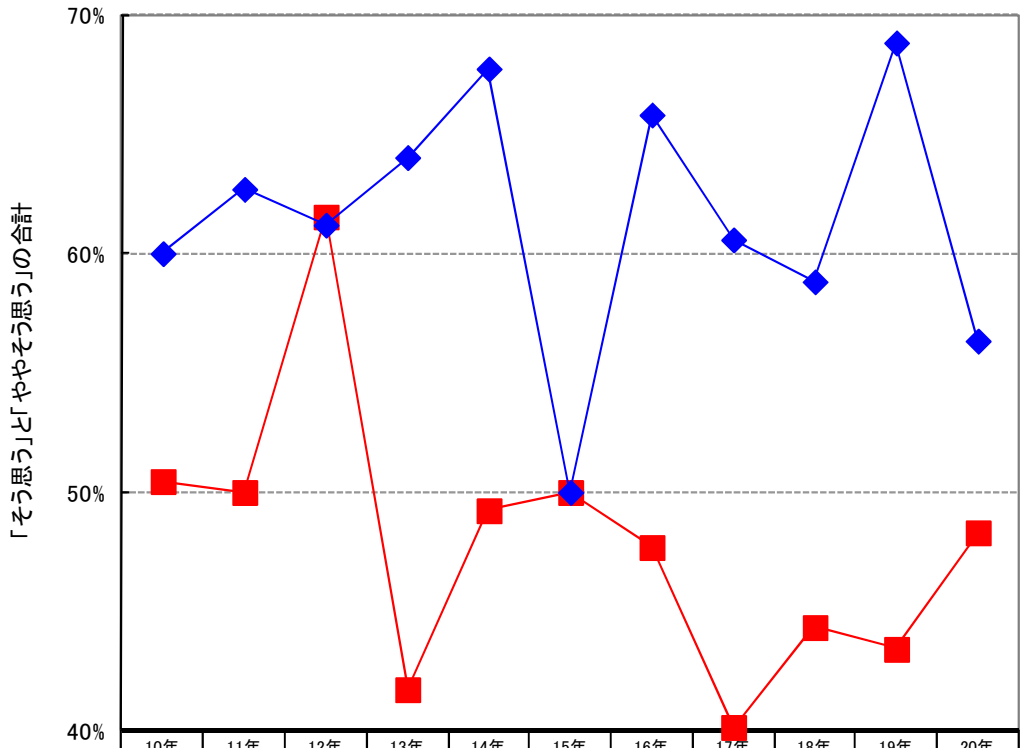
■自分自身の業務改善状況

- 「あなた自身の業務は昨年度より改善されていますか？」と「教員」に聞いたところ、「そう思う」が5.1%、「まあそう思う」が43.2%であり、合計すると48.3%が肯定的な意見となっていた。また、「職員」に聞いたところ、「そう思う」が11.3%、「まあそう思う」が45.1%であり、合計で肯定的な意見は56.3%となり、「教員」を8.0ポイント上回っていた。
- 「そう思う」と「ややそう思う」の合計を年度別に比較したところ、「教員」は前回を4.9ポイント上回っていた。一方、「職員」は前回を12.5ポイントと大きく下回って15年に次ぐ過去2番目の低さとなっており、結果としては「教員」との差が縮まっていた。

■あなた自身の業務は昨年度より改善されていますか？



■業務の改善状況 年度別比較



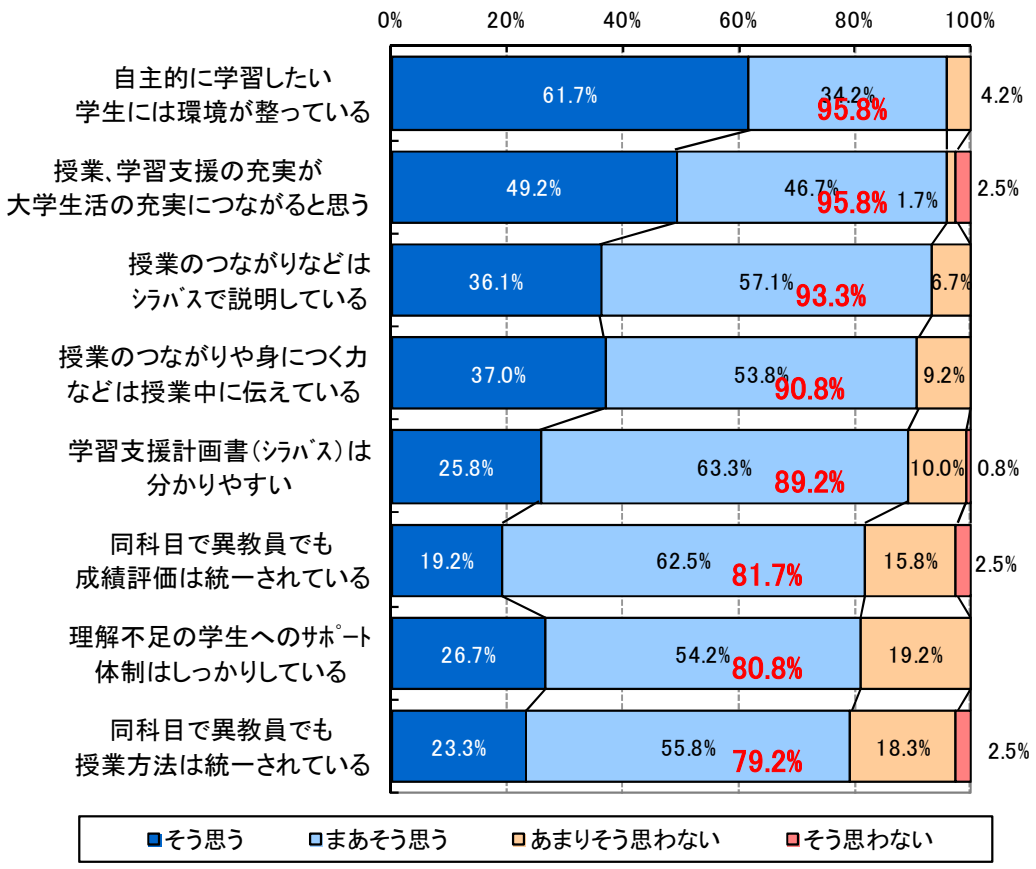
	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
教員	50.5%	50.0%	61.5%	41.7%	49.2%	50.0%	47.7%	40.2%	44.3%	43.4%	48.3%
職員	60.0%	62.7%	61.2%	64.0%	67.7%	50.0%	65.8%	60.6%	58.8%	68.8%	56.3%

＜14-3＞教員の授業および学習支援の自己評価

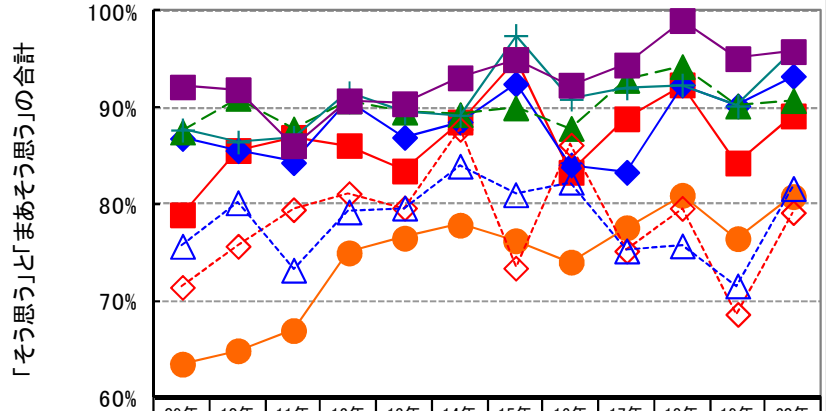
■教員の授業および学習支援の自己評価

- 教員の授業および学習支援の自己評価で肯定的な意見の合計を見ると、「自主的に学習したい学生には環境が整っている」と「授業、学習支援の充実が大学生活の充実につながると思う」が95.8%で最も多かった。次いで、「授業のつながりなどはシラバスで説明している」が93.3%、「授業のつながりや身につく力などは授業中に伝えている」が90.8%で続いていた。一方、最も少なかったのは「同科目で異教員でも授業方法は統一されている」の79.2%であり、「同科目で異教員でも成績評価は統一されている」の81.7%とともに、「同科目異教員の対応」にはやや課題を感じているようであった。
- 年度別に比較したところ、今回はすべての項目が前回を上回っており、「授業のつながりなどはシラバスで説明している」は過去最高の自己評価となっていた。また、「同科目で異教員でも授業方法は統一されている」は前回を10.6ポイント、「同科目で異教員でも成績評価は統一されている」は10.1ポイント上回っており、自己評価は低いものの、改善は進んでいると言えそうであった。

■教員の授業および学習支援の自己評価



■教員の授業および学習支援の自己評価 年度別比較

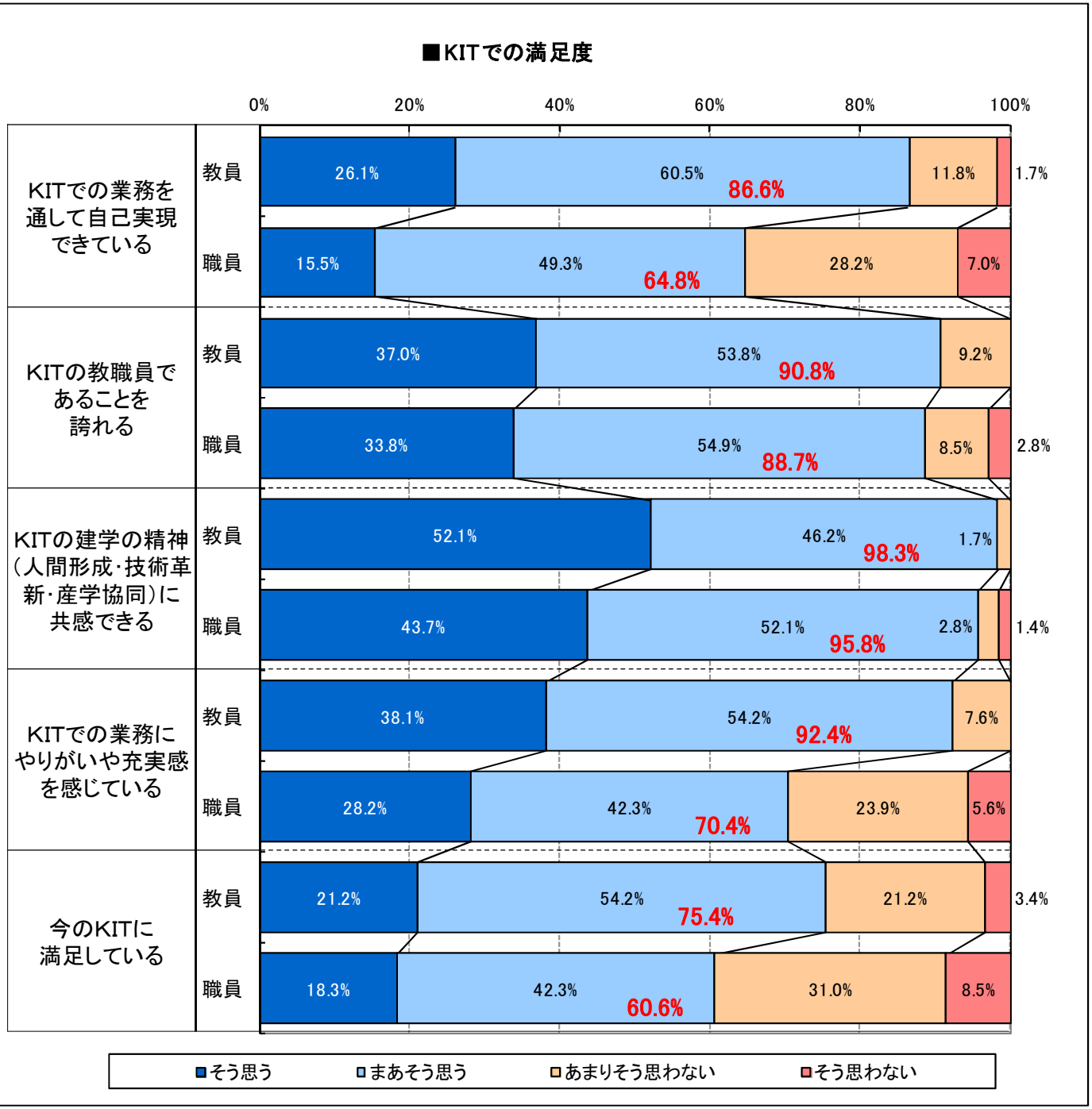


	09年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
学習支援計画書は分かりやすい	78.9%	85.6%	87.0%	86.1%	83.5%	88.5%	95.0%	83.3%	88.9%	92.4%	84.3%	89.2%
授業のつながりはシラバスで説明している	86.8%	85.6%	84.3%	90.7%	87.0%	88.5%	92.5%	84.1%	83.3%	92.4%	90.2%	93.3%
授業のつながりや身につく力などは授業中に伝えている	87.5%	91.0%	87.8%	90.7%	89.6%	89.3%	90.0%	87.9%	92.9%	94.3%	90.2%	90.8%
理解不足学生へのサポート体制はしっかりしている	63.5%	64.9%	67.0%	75.0%	76.5%	77.9%	76.3%	74.0%	77.6%	81.0%	76.5%	80.8%
同科目で異教員でも授業方法は統一されている	71.4%	75.7%	79.5%	81.1%	79.6%	87.8%	73.4%	86.2%	75.2%	79.6%	68.6%	79.2%
同科目で異教員でも成績評価は統一している	75.7%	80.2%	73.2%	79.2%	79.6%	84.0%	81.0%	82.3%	75.2%	75.7%	71.6%	81.7%
授業、学習支援の充実が大学生活の充実につながると思う	87.7%	86.5%	87.0%	91.6%	89.6%	89.2%	97.5%	90.9%	92.1%	92.4%	90.2%	95.8%
自主的に学習したい学生には環境が整っている	92.2%	91.9%	86.1%	90.7%	90.4%	93.1%	95.0%	92.4%	94.4%	99.0%	95.1%	95.8%

＜14-4＞KITでの満足度

■KITでの満足度

- KITでの満足度で「今のKITに満足している」を見ると、「教員」では「そう思う」が21.2%、「まあそう思う」が54.2%で、合わせると満足度は75.4%となった。同様に「職員」では「そう思う」が18.3%、「まあそう思う」が42.3%で、満足度は60.6%となり、「教員」の方が14.8ポイント高かった。
- 上記以外の項目を見ると、「KITの建学の精神に共感できる」では「教員」が98.3%、「職員」が95.8%と、ともに高い点が特徴的であり、差も2.5ポイントと小さかった。そして、「KITの教職員であることを誇れる」でも「教員」が90.8%、「職員」が88.7%と高かった。
- 「教員」と「職員」の差が大きかったのは、22.0ポイント差の「KITでの業務にやりがいや充実感を感じている」と、21.8ポイント差の「KITでの業務を通して自己実現できている」の2項目で、これらはいずれも、「教員」の方が高かった。



継続的な改善活動のために！
在学生･卒業生･教職員
2020 KIT総合アンケート調査結果[報告書]

■発行日　令和2年12月1日
■発行者　学校法人 金沢工業大学
■調査票設計・分析　有限会社 アイ・ポイント
■編集　金沢工業大学企画部ＣＳ室

無断複製厳禁

再生紙を使用しています